

平成 27 年度 中区区民意識調査

平成 28 年 3 月
横浜市中区総務部
区政推進課

－ 目次 －

I	調査の目的と概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査実施概要	1
3.	集計にあたって	1
4.	回答者の属性	2
5.	地区区分	3
II	調査結果	4
1.	「中区の行政サービス」について	4
2.	「防災」について	6
3.	健康づくりのための「運動」の取組について	22
4.	毎日の食事に関する「買い物支援」について	42
5.	「区制 90 周年記念事業」について	62
6.	「自治会町内会」について	73
7.	「多文化共生」について	83
8.	「子育て支援・児童虐待防止」について	85
9.	「行政情報」について	94
10.	自由意見	101

I 調査の目的と概要

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、区民の生活実態や社会的関心事のポイント、まちづくりの課題等を明らかにして、今後の政策立案、事業化や予算編成等に反映させることを目的とする。

2. 調査実施概要

①調査対象数 住民基本台帳から無作為抽出した中区内在住 20 歳以上男女 4,000 人

ア 日本人 3,592 人（中区人口の約 2.6%）

イ 外国人 408 人（中区外国人登録数の約 2.6%）

②調査項目 計 33 問

ア 中区の行政サービスについて 1 問

イ 項目別質問（8つのカテゴリ 計 20 問）

「防災」について 2 問 / 「運動」について 4 問 / 「買い物支援」について 3 問

「区制 90 周年記念事業」について 3 問 / 「自治会町内会」について 2 問

「多文化共生」について 2 問 / 「子育て支援・児童虐待防止」について 2 問

「行政情報」について 2 問

ウ 自由意見 1 問

エ 属性質問 11 問

③調査期間

平成 27 年 8 月 17 日(月)～9 月 16 日 (水)

④調査方法

郵送配布・郵送回収によるアンケート調査

⑤回収状況

ア 回収数 1,509 件

イ 有効回収数 1,507 件（うち外国人からの回答 88 件）

ウ 回収率 37.7%（うち外国人からの回答 5.8%）

3. 集計にあたって

- ・比率は全てパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、パーセントの合計が 100%にならないことがある。
- ・複数回答の設問の集計は、回答者数（票数）に対する回答率で表すため、各項目比率の合計が 100%を上回ることがある。
- ・基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。

4. 回答者の属性

性別	男性	614件	40.7%	女性	805件	53.4%
	無回答	88件	5.8%			
年齢	20歳代	91件	6.0%	30歳代	206件	13.7%
	40歳代	288件	19.1%	50歳代	280件	18.6%
	60歳代	282件	18.7%	70歳以上	270件	17.9%
	無回答	90件	6.0%			
同居家族 (複数回答)	祖父(義祖父)	4件	0.3%	祖母(義祖母)	20件	1.3%
	父(義父)	105件	7.0%	母(義母)	190件	12.6%
	配偶者	908件	60.3%	兄弟姉妹	65件	4.3%
	子(15歳未満)	263件	17.5%	子(15歳以上)	381件	25.3%
	孫(15歳未満)	16件	1.1%	孫(15歳以上)	18件	1.2%
	ひとり暮らし	262件	17.4%	その他	38件	2.5%
	無回答	96件	6.4%			
居住地区*	A地区	79件	5.2%	B地区	77件	5.1%
	C地区	38件	2.5%	D地区	92件	6.1%
	E地区	32件	2.1%	F地区	52件	3.5%
	G地区	197件	13.1%	H地区	257件	17.1%
	I地区	105件	7.0%	J地区	71件	4.7%
	K地区	222件	14.7%	L地区	107件	7.1%
	M地区	81件	5.4%	無回答	97件	6.4%
居住年数	1年未満	60件	4.0%	1～3年未満	107件	7.1%
	3～5年未満	106件	7.0%	5～10年未満	151件	10.0%
	10～20年未満	314件	20.8%	20～30年未満	177件	11.7%
	30年以上	492件	32.6%	無回答	100件	6.6%
居住形態	持ち家(一戸建て)	501件	33.2%	持ち家 (マンション等共同住宅)	464件	30.8%
	賃貸(一戸建て)	54件	3.6%	賃貸 (マンション等共同住宅)	348件	23.1%
	その他	43件	2.9%	無回答	97件	6.4%
中区に住むようになった理由 (複数回答)	親の代から住んでいて同居しているから	365件	24.2%	親や兄弟姉妹、親戚などが近所に住んでいたから	155件	10.3%
	通勤や通学に便利だったから	408件	27.1%	住環境が良いと思ったから	465件	30.9%
	その他	268件	17.8%	無回答	110件	7.3%
職業	就労している (常勤・フルタイム)	598件	39.7%	就労している (非常勤・パート・アルバイト)	234件	15.5%
	就労していない	465件	30.9%	学生	27件	1.8%
	その他	77件	5.1%	無回答	106件	7.0%
通勤通学先	中区内	307件	20.4%	横浜市内の他の区	226件	15.0%
	神奈川県以外の市町村	62件	4.1%	東京都内	242件	16.1%
	その他	25件	1.7%	通勤・通学はしていない	284件	18.8%
	無回答	361件	24.0%			
職場・学校までの 所要時間	15分未満	156件	18.1%	15～30分未満	205件	23.8%
	30～45分未満	109件	12.6%	45分～1時間未満	132件	15.3%
	1時間～1時間30分未満	191件	22.2%	1時間30分～2時間未満	49件	5.7%
	2時間以上	6件	0.7%	無回答	14件	1.6%
一日のうちの 余暇時間	1時間未満	121件	8.0%	1～3時間未満	536件	35.6%
	3～5時間未満	335件	22.2%	5時間以上	376件	25.0%
	無回答	139件	9.2%			

* 居住地区別の地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

5. 地区区分

地区名	町名
A地区 (第1北部地区)	赤門町、内田町、黄金町、桜木町、野毛町、初音町、花咲町、英町、日ノ出町、宮川町
B地区 (第1地区中部のうち、長者町を除く)	曙町、伊勢佐木町、末広町、末吉町、羽衣町、福富町仲通、福富町西通、福富町東通、蓬莱町、弥生町、吉田町、若葉町
C地区 (関内地区)	相生町、太田町、尾上町、海岸通、北仲通、新港、住吉町、常盤町、日本大通、弁天通、本町、真砂町、港町、南仲通、元浜町、横浜公園
D地区 (埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	扇町、翁町、千歳町、長者町、万代町、富士見町、不老町、山田町、山吹町、吉浜町
E地区 (寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	寿町、松影町、三吉町
F地区 (石川打越地区)	石川町、打越
G地区 (第2地区)	新山下、元町、山下町
H地区 (第3地区のうち、滝之上を除く)	上野町、柏葉、鷺山、竹之丸、立野、仲尾台、西之谷町、本牧緑ヶ丘、豆口台、妙香寺台、麦田町、山手町、大和町
I地区 (第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	本郷町、本牧町、本牧満坂
J地区 (第4地区北部のうち、山手町を除く)	北方町、小港町、諏訪町、千代崎町、本牧十二天
K地区 (本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	池袋、かもめ町、千鳥町、豊浦町、錦町、根岸加曾台、根岸町、本牧荒井、本牧大里町、本牧三之谷、本牧ふ頭、本牧間門、本牧元町、南本牧、矢口台
L地区 (第6地区のうち、山手町を除く)	大芝台、大平町、滝之上、塚越、寺久保、西竹之丸、根岸旭台、根岸台、箕沢、山元町
M地区 (新本牧地区)	本牧原、本牧宮原、本牧和田、和田山

※ 地区名欄の括弧書き中の地区名は、「中区地域福祉保健計画」における地区名を指しています。

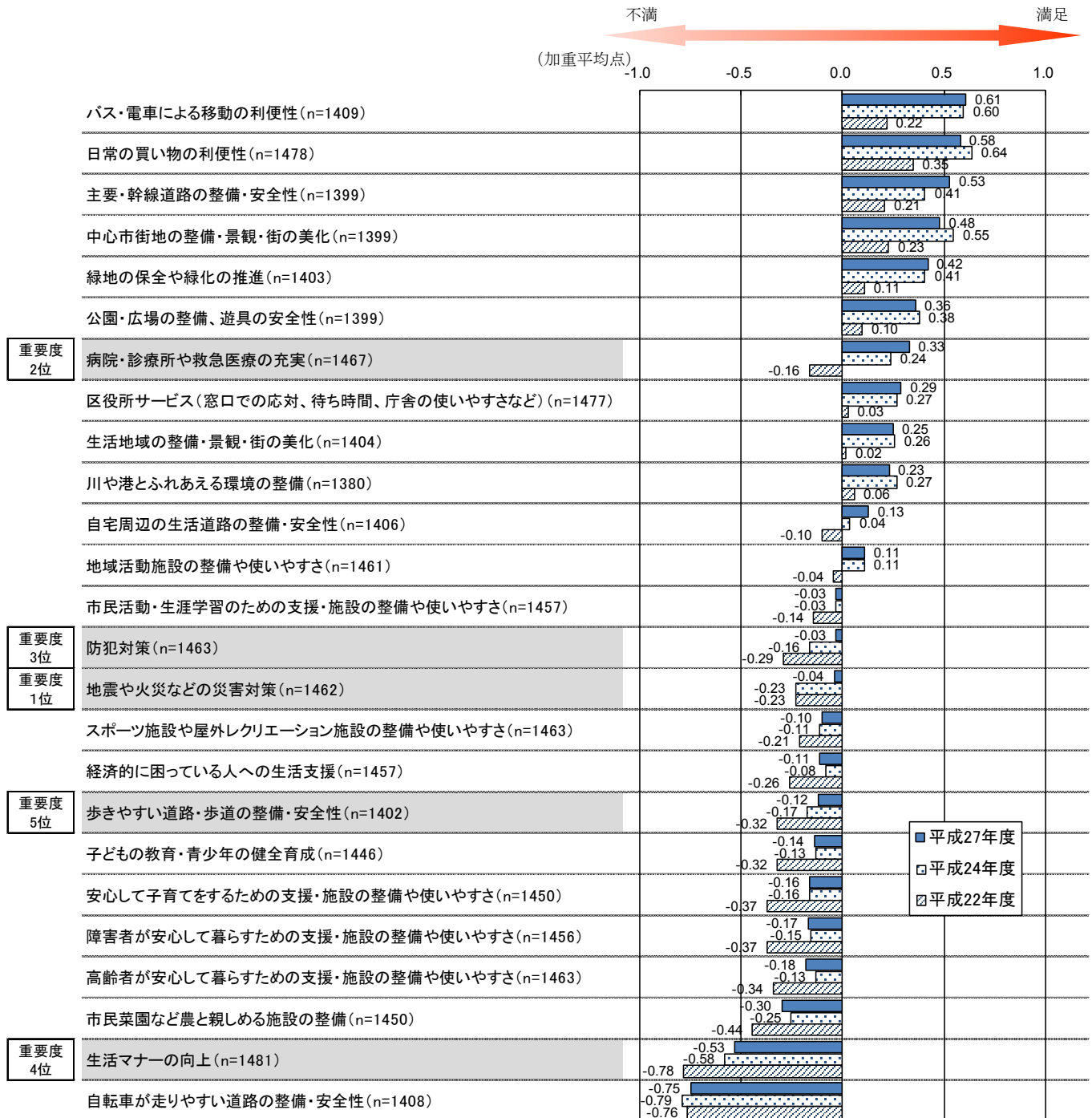
II 調査結果

II. 調査概要

1. 「中区の行政サービス」について

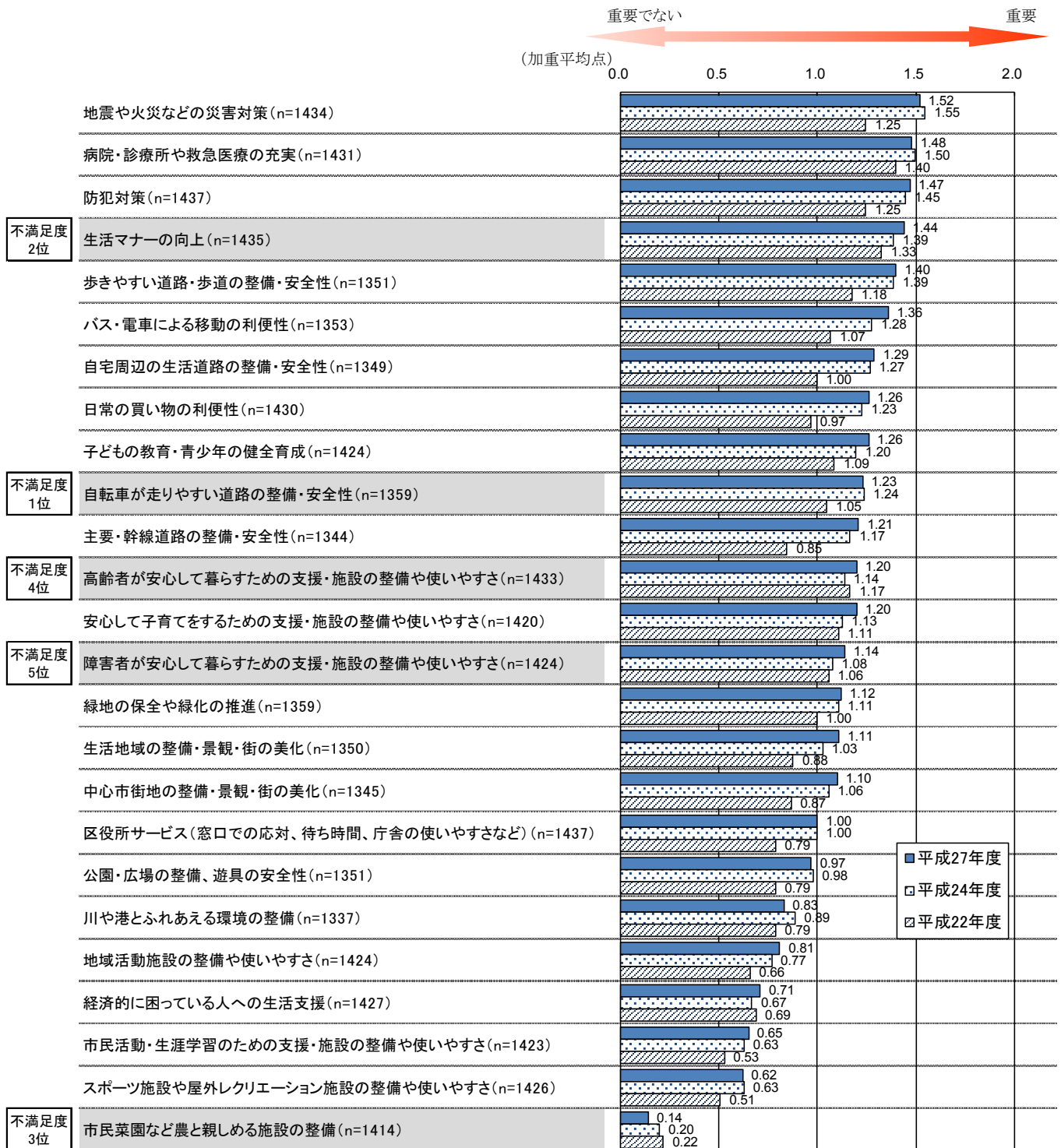
「問1 行政サービスの現在の満足度」(平成22年度・平成24年度との比較)

現在の満足度を指標化したところ、平成24年度と同様に、「バス・電車による移動の利便性」や「日常の買い物の利便性」などの評価が高くなっている。また、将来の重要度で上位に挙げられた項目は、全て平成22年度・24年度から満足度が上昇している。



「問1 行政サービスの将来の重要度」(平成22年度・平成24年度との比較)

将来の重要度を見ると、平成24年度と同様に「地震や火災などの災害対策」「病院・診療所や救急医療の充実」「防犯対策」などが上位に挙げられている。不満足度上位に挙げられている項目は、重要度では概ね中位の集団に固まっている。



加重平均点 = {満足 × 2 + やや満足 × 1 + やや不満 × (-1) + 不満 × (-2)} ÷ (全体 - 無回答)

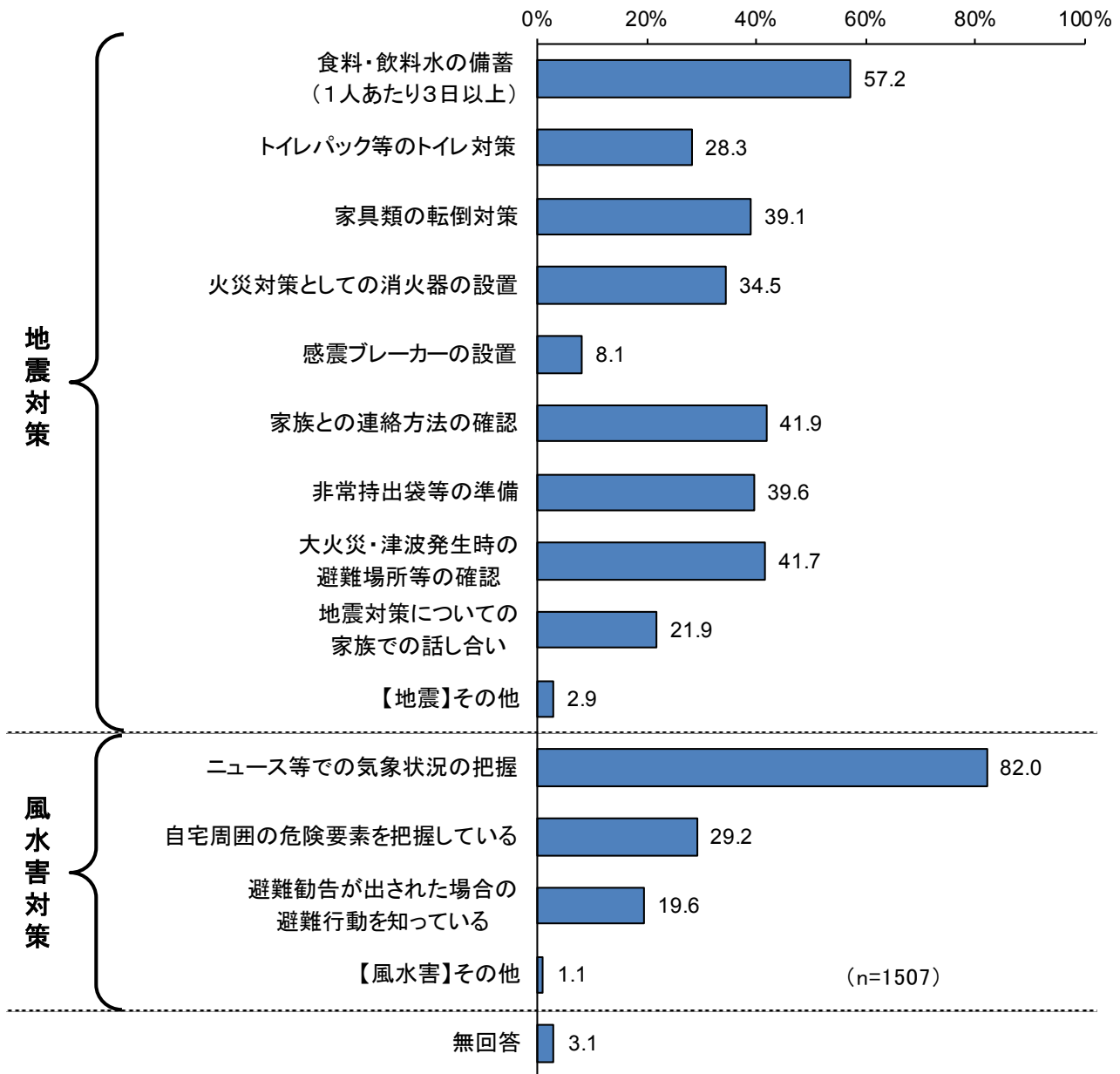
※ 調査結果をわかりやすく表記するため、満足度と重要度について全体の回答の平均をとり、指標化して表記しています。

仮にすべての方が「満足」もしくは「重要」と回答すると2点、一方すべての方が「不満」もしくは「重要でない」と回答すると-2点、また「満足」と「不満」の半々だとすると、平均点は0点になります。

2. 「防災」について

「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－1

地震に対する防災対策では、「食料・飲料水の備蓄」、風水害に対する防災対策では「ニュース等での気象状況の把握」がそれぞれ最も多く挙げられている。一方、地震対策における「感震ブレーカーの設置」の実施割合が1割未満となったほか、実施率が1割～2割程度の対策も複数見られる。**自由回答**では、地震対策については防災セミナーや勉強会等への参加という回答が複数寄せられた一方、経済的に難しいとの声も見られた。風水害対策では避難についての回答などが見られたが、地震対策に比べて回答が少ない結果となった。



【自由回答より抜粋】

(地震対策)

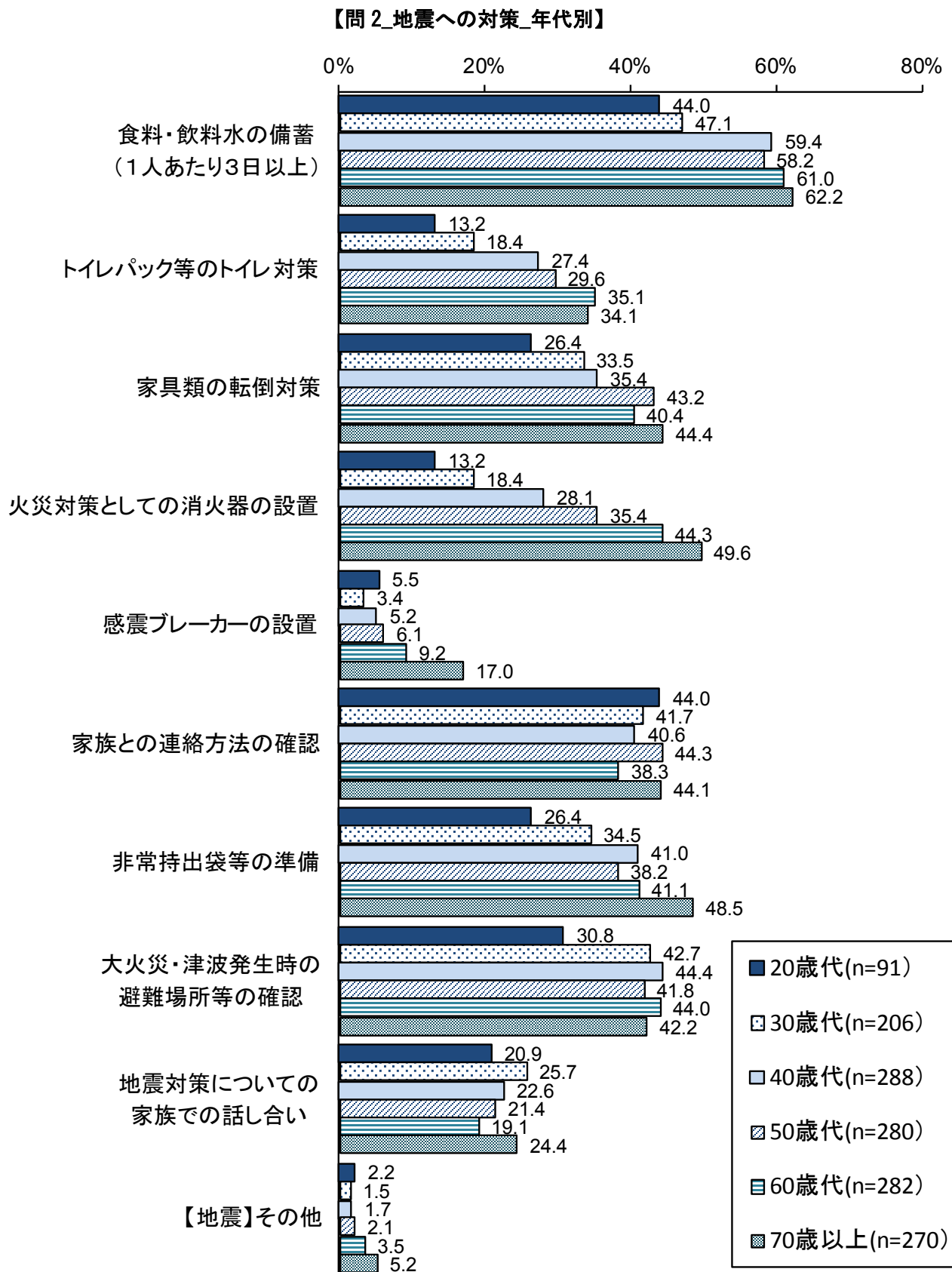
- ・地域の防災セミナー等の参加
- ・アウトドアなどで道具の使い方や生活を体験する。ガスや電気が無くても生活できる道具をそろえる
- ・備えが大事ですが、経済的にも無理

(風水害対策)

- ・老人二人なのでじっとしている
- ・とにかく地ばんのかたい所への移動しか現実的にはないと思う。

「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答） - 2

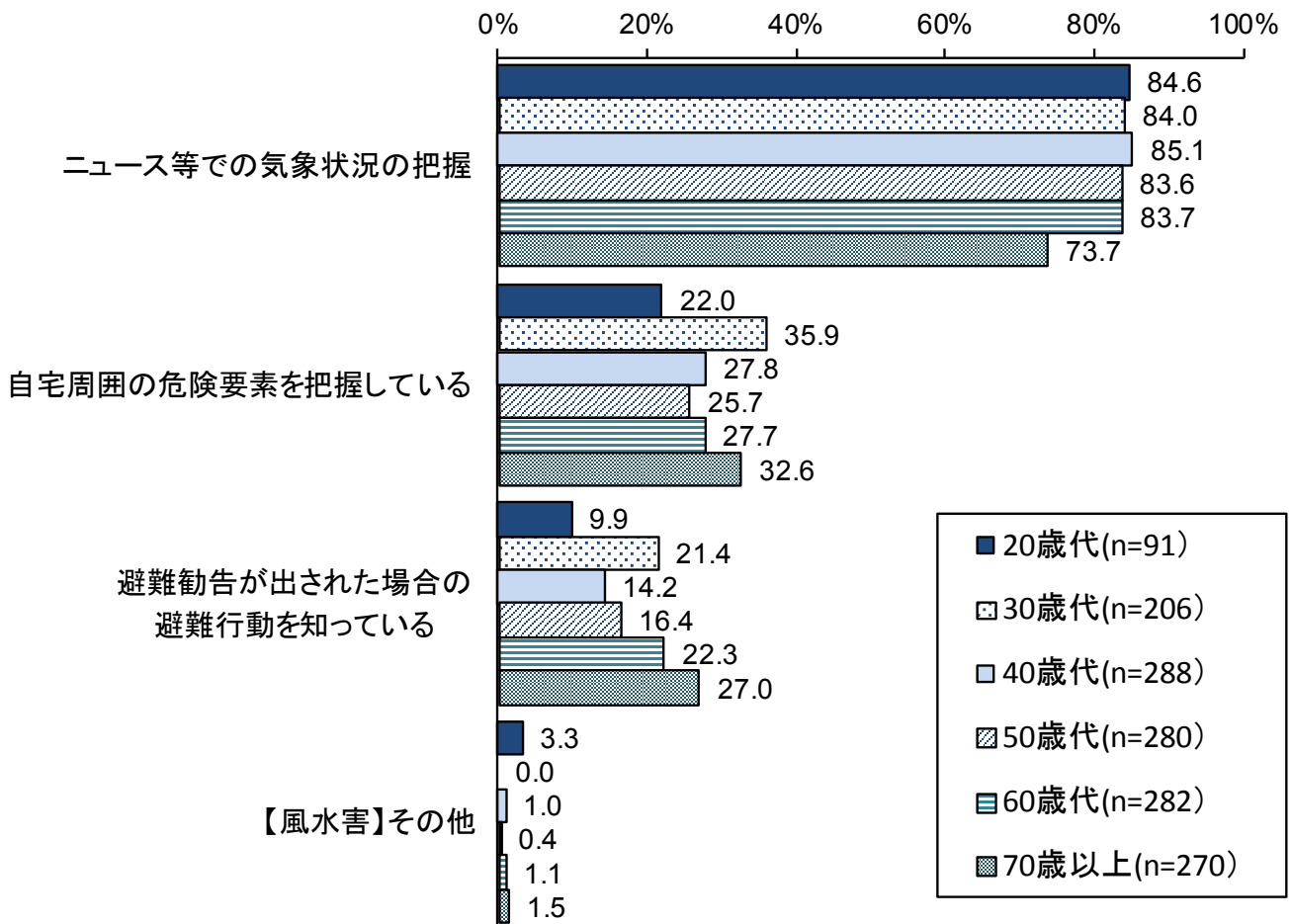
地震に対する防災対策について年代別に見ると、一般的に高年代層で対策を実施している割合が高い傾向にある。



「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－3

風水害に対する防災対策について年代別に見ると、70歳以上で「ニュース等での気象状況の把握」の割合が他年代に比べて低いが、他の対策では70歳以上の実施割合が高めなため、対策の意識自体は持っているものの、積極的に情報を得ようとする意識は比較的低いものと考えられる。

【問2_風水害への対策_年代別】



「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－4

地震に対する防災対策について同居家族別に見ると、ひとり暮らしの層では、各対策の実施割合がそれぞれ全体に比べて低くなっている。

【問2_地震への対策_同居家族別】

		食料・飲料水の備蓄（人あたり3日以上）	トイレパック等のトイレ対策	家具類の転倒対策	火災対策としての消火器の設置	感震ブレーカーの設置	家族との連絡方法の確認	非常持出袋等の準備	大震災・津波発生時の避難場所等の確認	地震対策についての家族での話し合い	【地震】その他
	n=										(%)
全体	1,507	57.2	28.3	39.1	34.5	8.1	41.9	39.6	41.7	21.9	2.9
祖父（義祖父）	4	50.0	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	75.0	-	-
祖母（義祖母）	20	45.0	10.0	20.0	25.0	10.0	50.0	50.0	40.0	20.0	-
父（義父）	105	53.3	21.0	40.0	32.4	4.8	45.7	42.9	34.3	22.9	1.9
母（義母）	190	52.1	22.1	38.4	34.7	5.8	42.1	41.1	35.8	21.6	2.1
配偶者	908	59.7	31.6	43.8	36.5	8.6	46.0	42.5	45.3	26.9	2.3
兄弟姉妹	65	53.8	24.6	33.8	30.8	4.6	44.6	38.5	44.6	26.2	-
子（15歳未満）	263	52.9	28.1	34.2	18.3	4.9	42.6	39.5	45.6	27.0	2.7
子（15歳以上）	381	58.5	31.8	44.6	42.5	11.3	46.7	39.9	43.3	24.4	2.1
孫（15歳未満）	16	68.8	43.8	18.8	62.5	6.3	31.3	43.8	31.3	31.3	6.3
孫（15歳以上）	18	66.7	16.7	61.1	50.0	22.2	33.3	22.2	22.2	16.7	-
ひとり暮らし	262	52.7	22.1	26.0	27.9	7.3	29.4	29.4	39.7	8.8	5.7
その他	38	57.9	31.6	34.2	42.1	13.2	44.7	42.1	36.8	39.5	5.3

「問2 『自助』として実施している防災対策」(複数回答) - 5

風水害に対する防災対策について同居家族別に見ると、父や母と同居している層では、「ニュース等での気象状況の把握」の割合が高いほか、孫と同居している層では「避難勧告が出された場合の避難行動を知っている」割合が高くなっている。

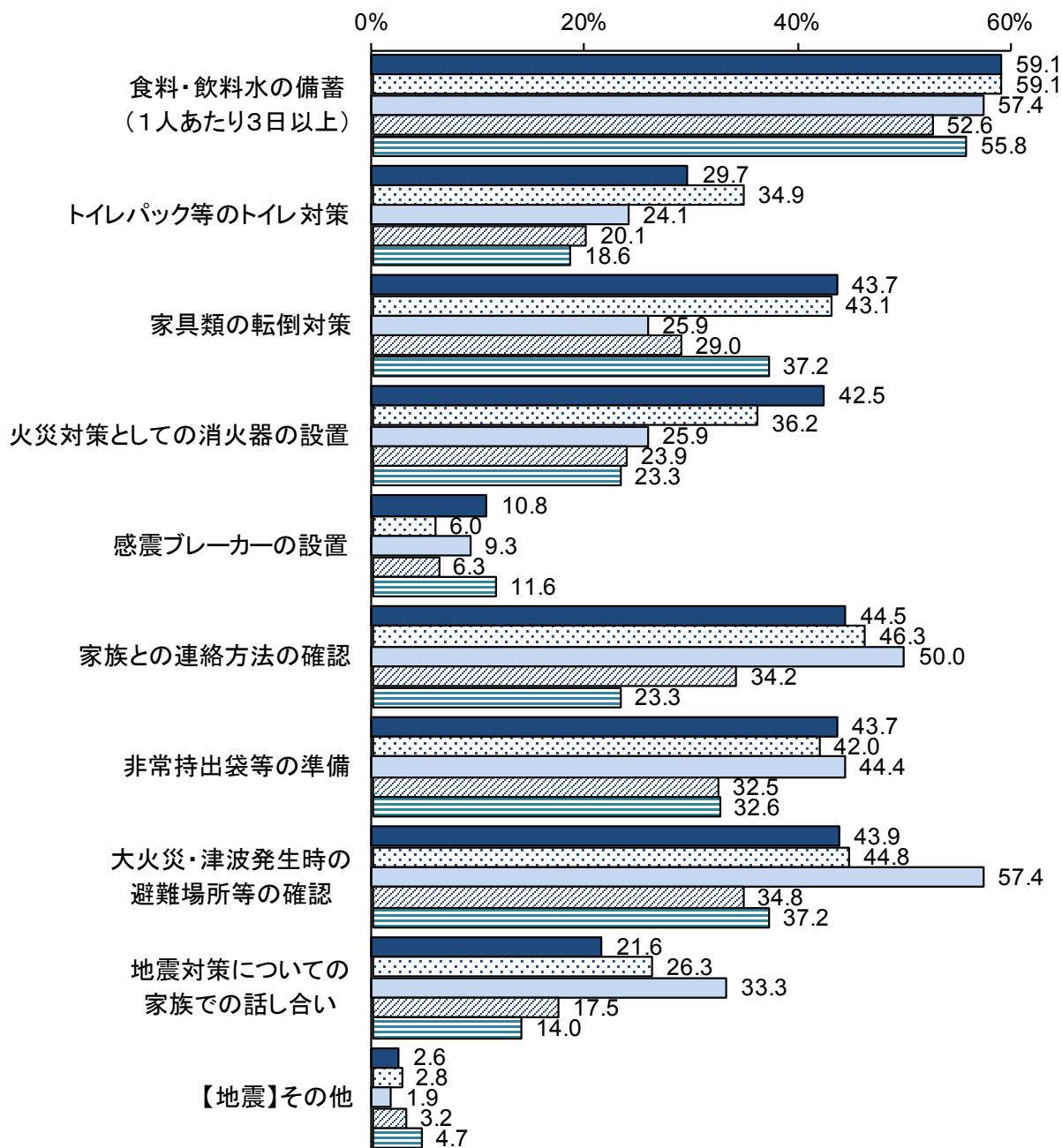
【問2_風水害への対策_同居家族別】

		状況の把握での気象	自宅周囲の危険要素	知つてい難行動を	避難勧告が出された	【風水害】その他
	n=					(%)
全体	1,507	82.0	29.2	19.6	1.1	
祖父(義祖父)	4	75.0	25.0	25.0	-	
祖母(義祖母)	20	80.0	30.0	15.0	5.0	
父(義父)	105	89.5	21.9	21.0	1.9	
母(義母)	190	86.8	23.2	18.9	1.1	
配偶者	908	82.6	32.2	20.4	0.6	
兄弟姉妹	65	87.7	24.6	23.1	1.5	
子(15歳未満)	263	84.8	32.3	17.1	1.1	
子(15歳以上)	381	80.6	27.0	14.2	1.0	
孫(15歳未満)	16	75.0	18.8	43.8	-	
孫(15歳以上)	18	72.2	16.7	33.3	-	
ひとり暮らし	262	79.8	22.5	18.3	1.9	
その他	38	76.3	31.6	21.1	2.6	

「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－6

地震に対する防災対策について居住形態別に見ると、賃貸一戸建ての層では、「大火災・津波発生時の避難場所等の確認」が6割近くを占めて高い。また、賃貸共同住宅の層では、全般的に対策実施の割合が低い傾向にある。

【問2_地震への対策_居住形態別】

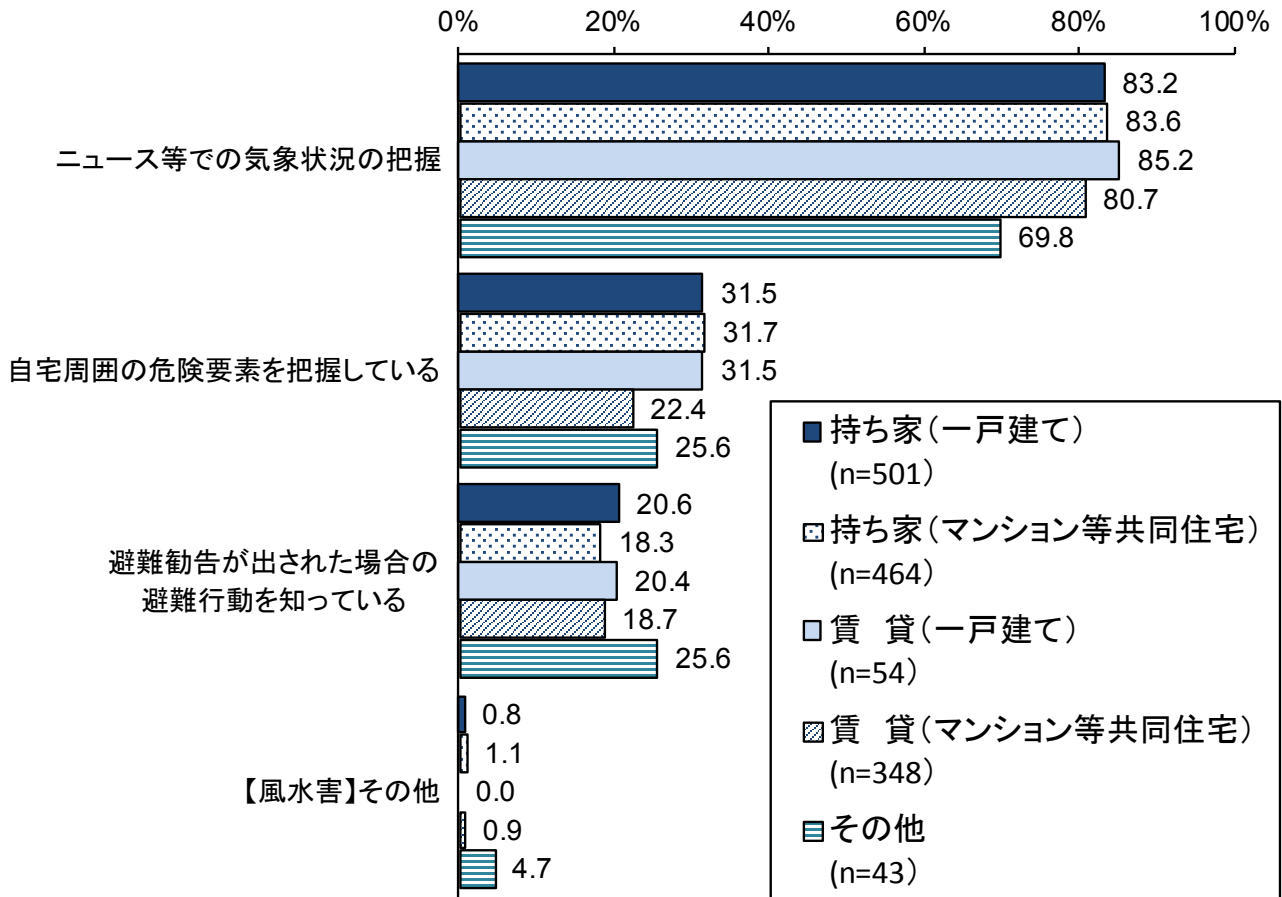


■ 持ち家(一戸建て) (n=501) □ 持ち家(マンション等共同住宅) (n=464) □ 賃貸(一戸建て) (n=54)
 ▨ 賃貸(マンション等共同住宅) (n=348) ▩ その他 (n=43)

「問2 『自助』として実施している防災対策」(複数回答) - 7

風水害に対する防災対策について居住形態別に見ると、賃貸共同住宅の層は、全般的に対策実施の割合が低い傾向にある。

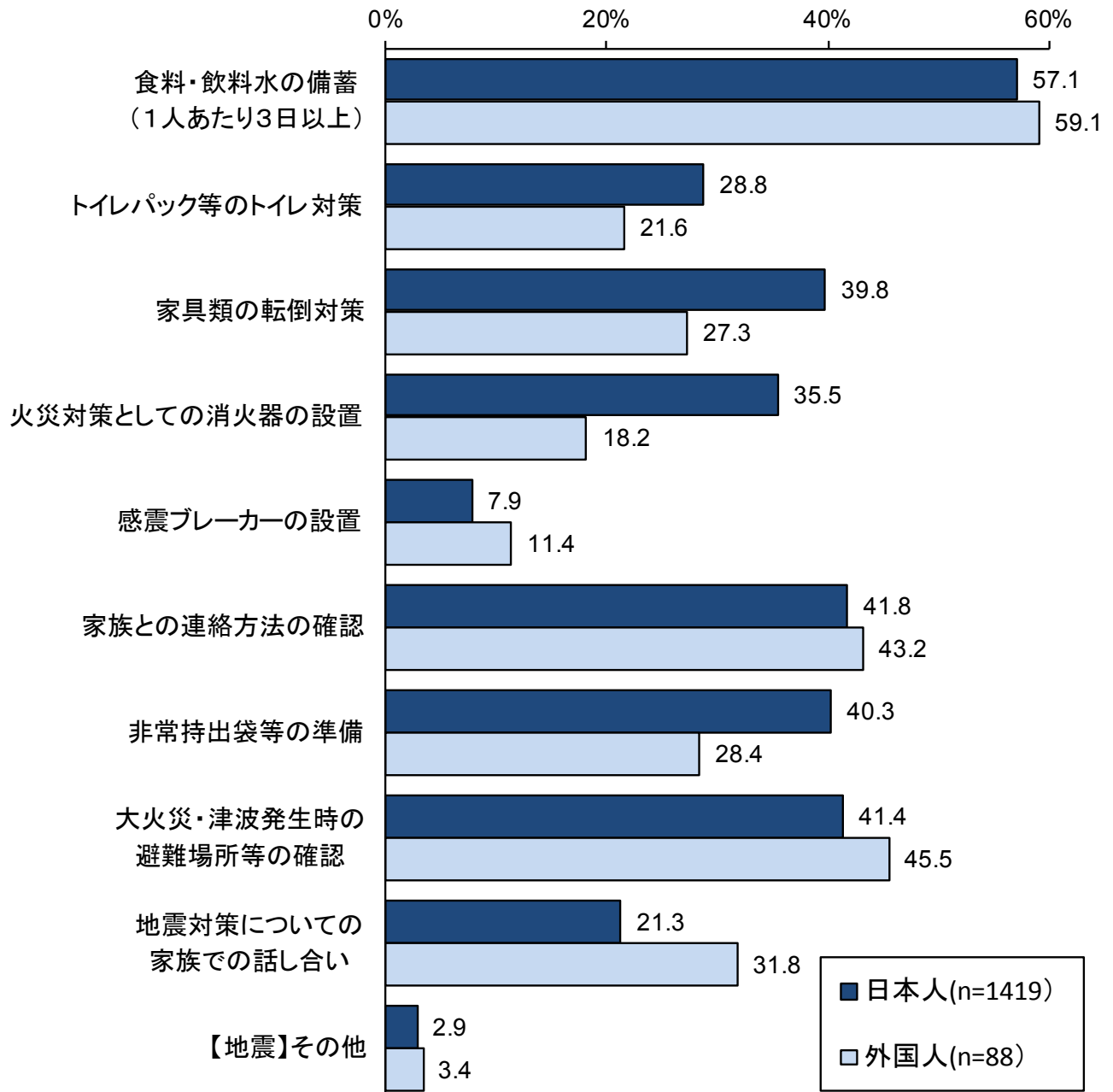
【問2_風水害への対策_居住形態別】



「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－8

地震に対する防災対策について日本人／外国人別に見ると、日本人は外国人に比べ「家具類の転倒対策」や「火災対策としての消火器の設置」「非常持ち出し袋等の準備」などの実施割合が高い一方、外国人は日本人に比べ「地震対策についての家族での話し合い」の実施割合が高くなっている。

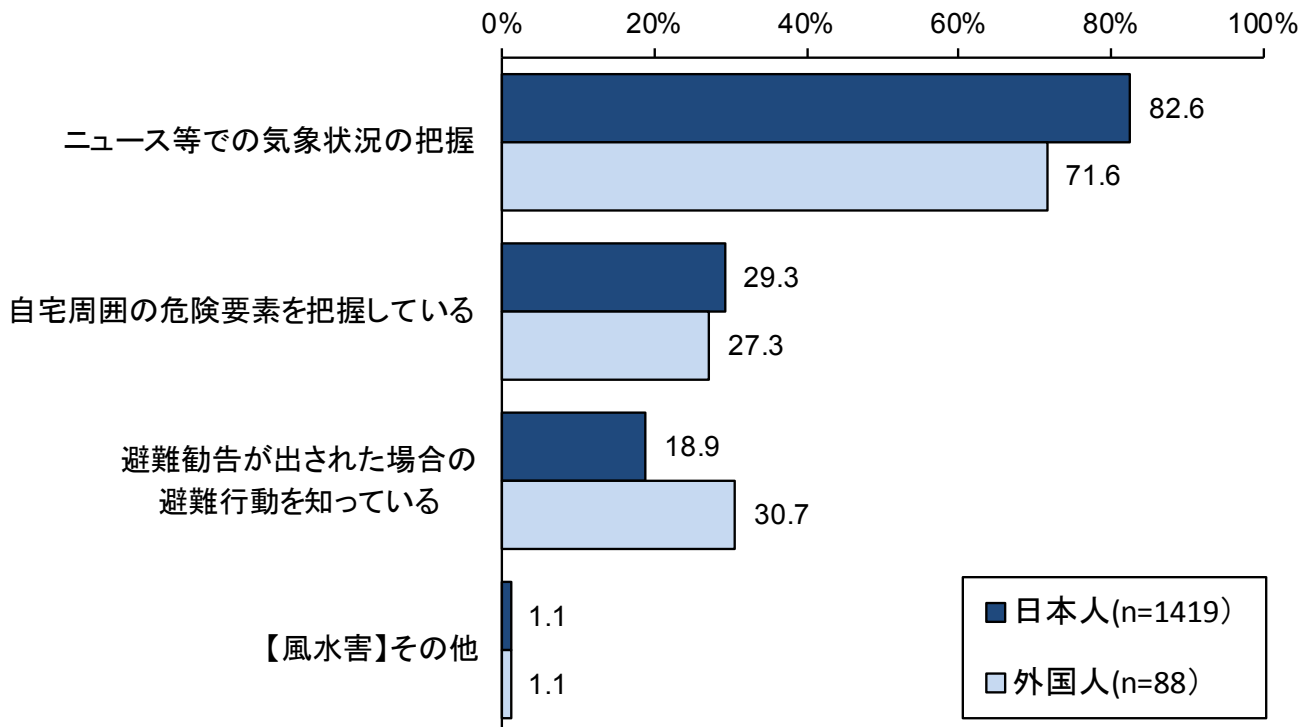
【問2_地震への対策_日本人／外国人別】



「問2 『自助』として実施している防災対策」(複数回答) - 9

風水害に対する防災対策について日本人/外国人別に見ると、外国人は、日本人に比べ「避難勧告が出された場合の避難行動を知っている」の実施割合が高くなっている。

【問2_風水害への対策_日本人/外国人別】



「問2 『自助』として実施している防災対策」（複数回答）－10

地震に対する防災対策を地区別に見ると、C地区で「家具類の転倒対策」、F地区で「感震ブレーカーの設置」などの割合が全体を大きく上回っているほか、M地区ではほぼすべての項目が全体に比べて高くなっている。

【問2_地震への対策_地区別】

		人食 あたり 飲料 3日 以上 の 備蓄 (1)	対 策 ト イ レ パ ツ ク 等 の ト イ レ	家 具 類 の 転 倒 対 策	の 火 災 対 策 と し て の 消 火 器 の 設 置	感 震 ブ レ ー カ ー の 設 置	家 族 と の 連 絡 方 法 の 確 認	非 常 持 出 袋 等 の 準 備	難 大 火 災 ・ 津 波 発 生 時 の 避 難 場 所 等 の 確 認	で の 地 震 対 策 に つ い て の 家 族	(%) 「地震」 その他
全体	n=1,507	57.2	28.3	39.1	34.5	8.1	41.9	39.6	41.7	21.9	2.9
A地区（第1北部地区）	79	44.3	19.0	40.5	35.4	6.3	31.6	32.9	45.6	22.8	1.3
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	58.4	24.7	31.2	29.9	10.4	32.5	37.7	39.0	18.2	2.6
C地区（関内地区）	38	47.4	28.9	52.6	36.8	10.5	39.5	42.1	36.8	23.7	2.6
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	54.3	28.3	29.3	28.3	7.6	38.0	33.7	32.6	17.4	3.3
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	53.1	15.6	18.8	12.5	9.4	9.4	15.6	37.5	12.5	9.4
F地区（石川打越地区）	52	50.0	34.6	48.1	28.8	21.2	46.2	44.2	42.3	30.8	1.9
G地区（第2地区）	197	60.9	38.6	40.1	37.6	5.6	41.6	45.7	38.1	21.3	2.0
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	59.5	28.0	43.6	35.8	8.6	45.5	47.5	42.8	28.0	2.7
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	55.2	35.2	35.2	30.5	5.7	41.9	37.1	40.0	17.1	3.8
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	63.4	25.4	46.5	35.2	5.6	49.3	36.6	50.7	28.2	1.4
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	50.5	19.8	35.1	35.1	7.2	49.1	33.8	43.7	20.7	3.2
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	65.4	29.0	39.3	37.4	6.5	40.2	39.3	41.1	17.8	2.8
M地区（新本牧地区）	81	69.1	39.5	40.7	40.7	12.3	40.7	46.9	56.8	25.9	3.7

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問2 『自助』として実施している防災対策」(複数回答) -11

風水害に対する防災対策を地区別に見ると、C地区で「ニュース等での気象状況の把握」の割合が全体を大きく上回っているほか、F地区・J地区・M地区では「その他」以外のすべての項目が全体に比べて高くなっている。

【問2_風水害への対策_地区別】

(%)

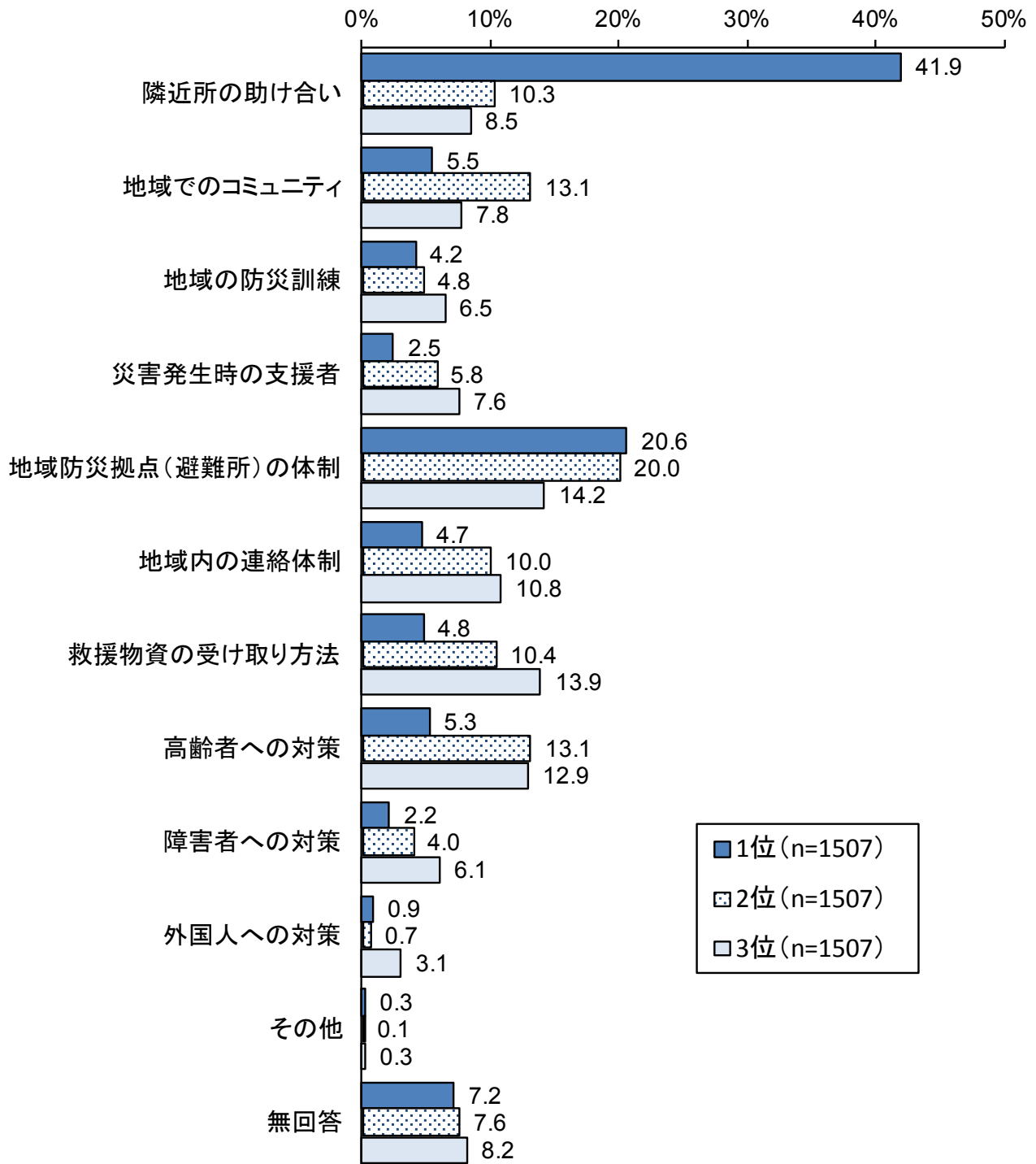
	n=	況 の ユ 把 握 等 で の 気 象 状 況	把 握 し て 困 る 危 険 要 素 を	自 宅 周 圍 の 危 険 要 素 を	い 合 避 難 勧 告 行 動 を 知 れ た 場 合	【 風 水 害 】 そ の 他
全体	1,507	82.0	29.2	19.6	1.1	
A地区□(第1北部地区)	79	83.5	24.1	21.5	-	
B地区□(第1地区中部のうち、長者町を除く)	77	83.1	24.7	15.6	2.6	
C地区□(関内地区)	38	92.1	21.1	21.1	-	
D地区□(埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	92	69.6	16.3	15.2	1.1	
E地区□(寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	32	59.4	21.9	28.1	9.4	
F地区□(石川打越地区)	52	88.5	36.5	25.0	-	
G地区□(第2地区)	197	82.2	28.4	17.8	0.5	
H地区□(第3地区のうち、滝之上を除く)	257	82.1	33.5	17.1	0.8	
I地区□(第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	105	74.3	25.7	25.7	1.9	
J地区□(第4地区北部のうち、山手町を除く)	71	83.1	38.0	25.4	-	
K地区□(本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	222	84.7	30.6	15.3	1.4	
L地区□(第6地区のうち、山手町を除く)	107	88.8	29.9	21.5	-	
M地区□(新本牧地区)	81	85.2	34.6	25.9	-	

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問3 災害発生時に重要度が高い地域の取組」－1

災害発生時に重要度が高い地域の取組について重要度の1位から3位までを尋ねたところ、**重要度1位**として「隣近所の助け合い」が最も多く挙げられた。また、「地域防災拠点の体制」は、各順位ともに多く挙げられている項目となっている。

自由回答では、コミュニティラジオなどの情報共有手段や乳幼児・高齢者への対応などの回答が複数寄せられている。

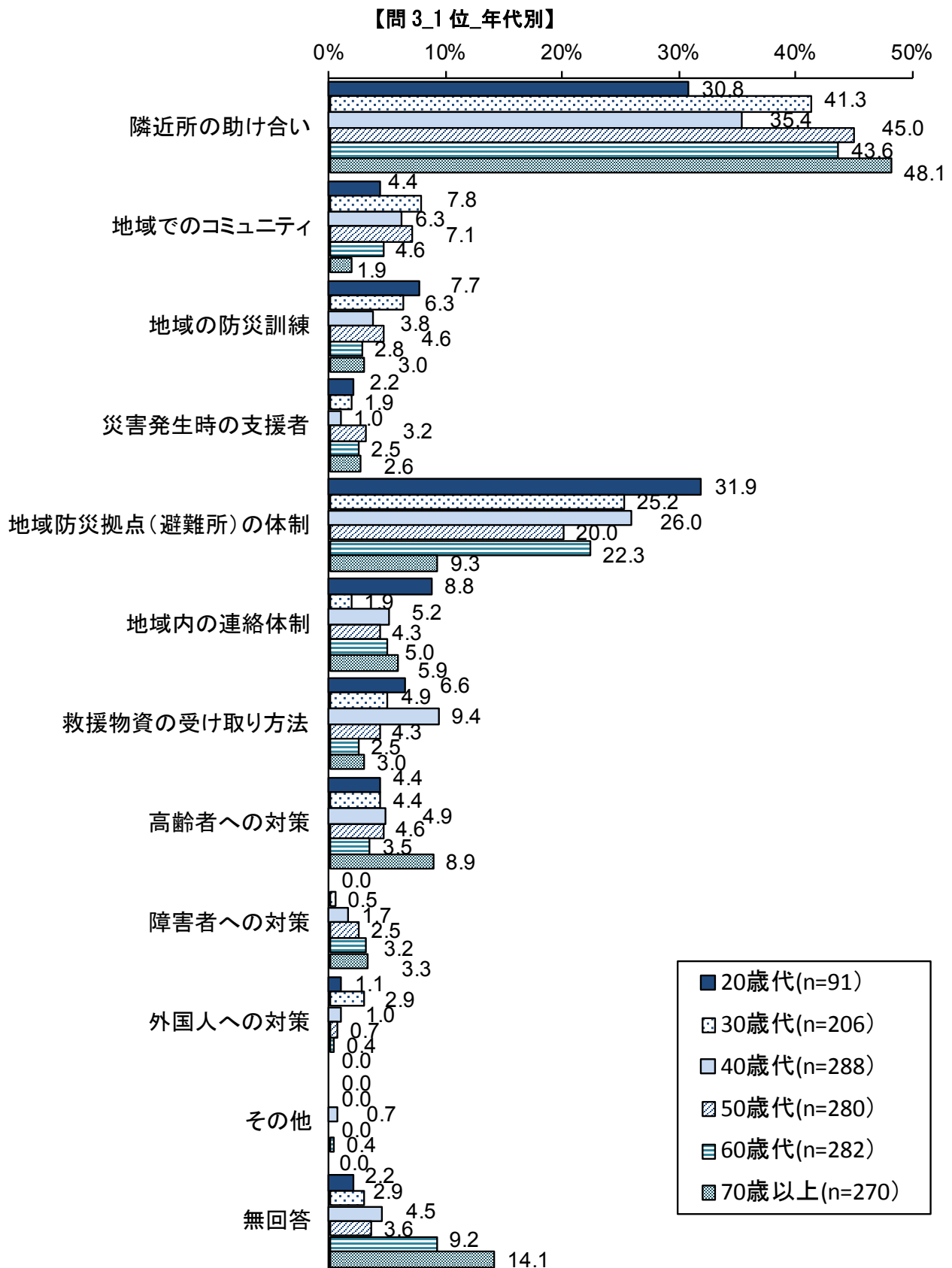


【自由回答より抜粋】

- ・コミュニティラジオ
- ・小さい子供への対策
- ・災害がおさまった後の行動力、待っているだけではだめ

「問3 災害発生時に重要度が高い地域の取組」 - 2

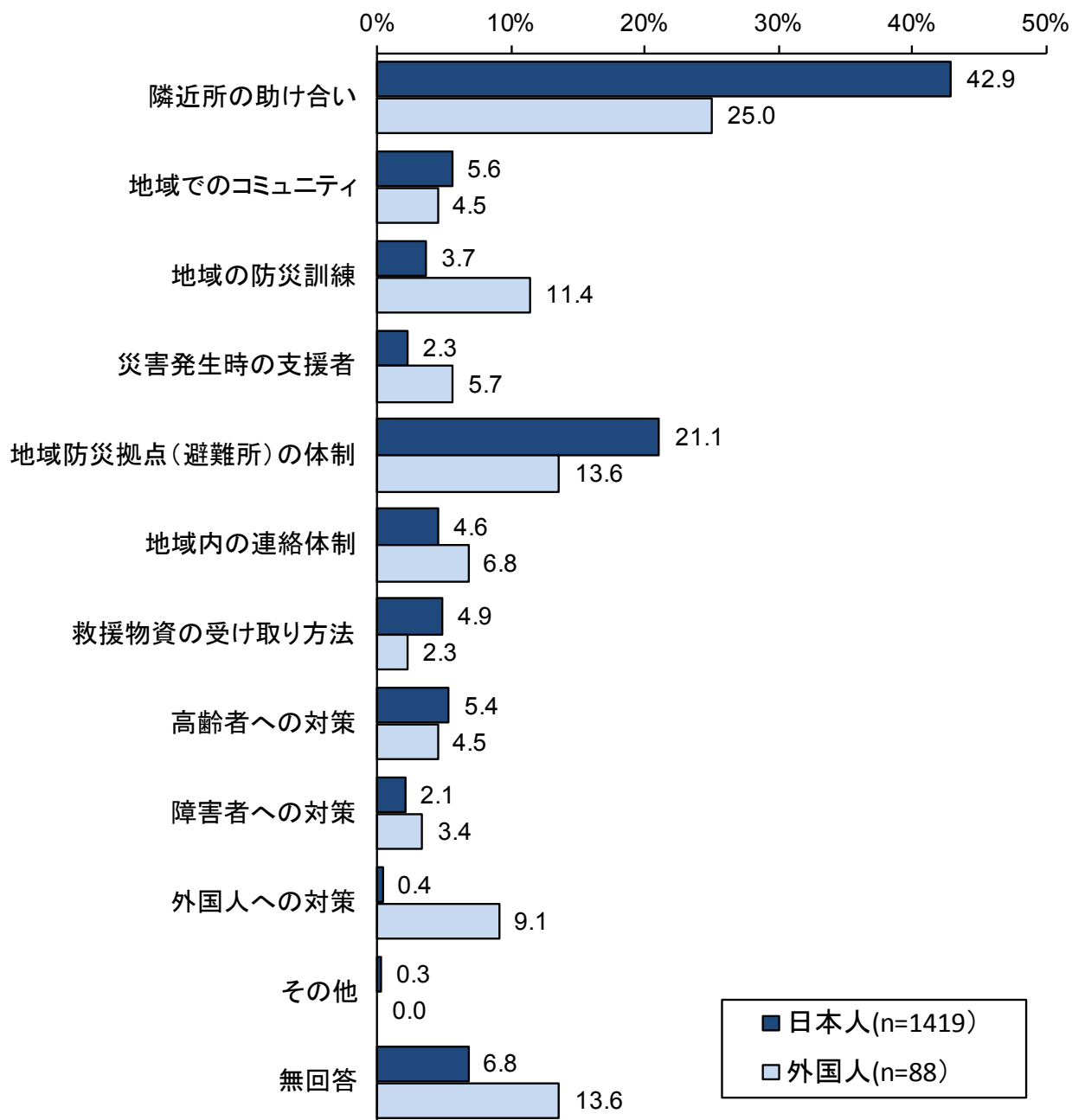
重要度1位について年代別に見ると、若年層では「地域防災拠点の体制」、高齢層では「隣近所の助け合い」が多く挙げられる傾向にある。



「問3 災害発生時に重要度が高い地域の取組」－3

重要度1位について日本人／外国人別に見ると、日本人は外国人に比べ「隣近所の助け合い」「地域防災拠点の体制」などを重要とする割合が高い一方、外国人は日本人に比べ「地域の防災訓練」「災害発生時の支援者」などが高いなど、地域ぐるみの取組よりは個々のレベルでの取組を重視している事がうかがえる。

【問3_1位_日本人／外国人別】



「問3 災害発生時に重要度が高い地域の取組」－4

重要度1位について中区居住年数別に見ると、居住年数が多い層では、「隣近所の助け合い」を重要とする割合が高い一方で、「地域防災拠点の体制」は低くなっている。

【問3_1位_中区居住年数別】

		隣近所の助け合い	地域でのコミュニティ	地域の防災訓練	災害発生時の支援者	地域防災拠点（避難所）の体制	地域内の連絡体制	救援物資の受け取り方法	高齢者への対策	障害者への対策	外国人への対策	その他	無回答
	n=												(%)
全体	1,507	41.9	5.5	4.2	2.5	20.6	4.7	4.8	5.3	2.2	0.9	0.3	7.2
1年未満	60	36.7	6.7	3.3	3.3	16.7	6.7	10.0	8.3	1.7	1.7	-	5.0
1～3年未満	107	34.6	2.8	9.3	0.9	30.8	4.7	2.8	5.6	0.9	2.8	-	4.7
3～5年未満	106	30.2	7.5	7.5	4.7	26.4	4.7	6.6	4.7	-	2.8	-	4.7
5～10年未満	151	36.4	9.9	4.0	2.0	22.5	4.6	4.6	4.6	-	2.0	2.0	7.3
10～20年未満	314	35.7	6.1	5.4	1.9	26.1	6.4	5.7	3.5	3.2	0.3	0.3	5.4
20～30年未満	177	49.2	7.3	5.1	4.5	14.7	5.1	4.5	3.4	2.3	0.6	-	3.4
30年以上	492	50.4	2.8	1.6	1.2	16.9	3.7	3.9	7.1	3.0	0.2	-	9.1

「問3 災害発生時に重要度が高い地域の取組」－5

重要度1位について地区別に見ると、A地区・F地区で「地域防災拠点（避難所）の体制」を重要とする割合が全体を大きく上回る。一方で、D地区・E地区では「隣近所の助け合い」を重要とする割合が全体を大きく下回っている。

【問3_1位_地区別】

		隣近所の助け合い	地域でのコミュニティ	地域の防災訓練	災害発生時の支援	避難所）の体制（避難所）	地域内の連絡体制	救済物資の受け取り	高齢者への対策	障害者への対策	外国人への対策	その他	無回答
	n=												(%)
全体	1,507	41.9	5.5	4.2	2.5	20.6	4.7	4.8	5.3	2.2	0.9	0.3	7.2
A地区（第1北部地区）	79	32.9	1.3	3.8	1.3	31.6	5.1	6.3	5.1	1.3	2.5	-	8.9
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	44.2	6.5	2.6	-	22.1	3.9	5.2	2.6	1.3	2.6	1.3	7.8
C地区（関内地区）	38	36.8	7.9	7.9	2.6	10.5	7.9	10.5	-	2.6	2.6	-	10.5
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	26.1	7.6	5.4	2.2	27.2	4.3	6.5	4.3	1.1	1.1	-	14.1
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	28.1	-	3.1	6.3	15.6	-	9.4	12.5	3.1	-	-	21.9
F地区（石川打越地区）	52	42.3	3.8	1.9	-	30.8	5.8	5.8	3.8	1.9	-	-	3.8
G地区（第2地区）	197	35.5	5.6	6.6	3.6	24.4	5.1	4.6	6.6	0.5	1.5	0.5	5.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	47.5	4.3	4.7	2.3	18.3	5.1	3.5	7.0	0.8	0.4	0.8	5.4
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	45.7	3.8	4.8	3.8	16.2	2.9	9.5	1.9	2.9	1.0	-	7.6
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	47.9	8.5	2.8	4.2	18.3	4.2	4.2	2.8	1.4	-	-	5.6
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	44.6	5.4	3.2	0.9	21.6	5.9	3.2	5.4	3.2	0.5	-	6.3
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	44.9	8.4	2.8	2.8	17.8	4.7	4.7	5.6	3.7	0.9	-	3.7
M地区（新本牧地区）	81	46.9	6.2	3.7	1.2	14.8	6.2	2.5	7.4	8.6	-	-	2.5

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

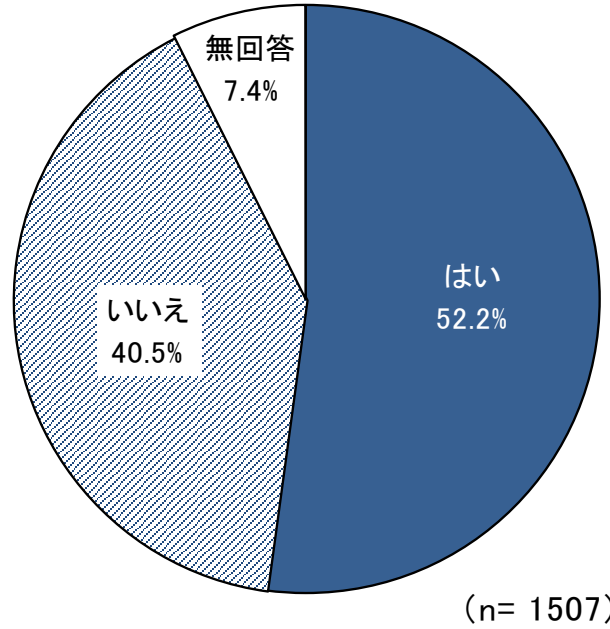
3. 健康づくりのための「運動」の取組について

「問4 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている運動の有無」 - 1

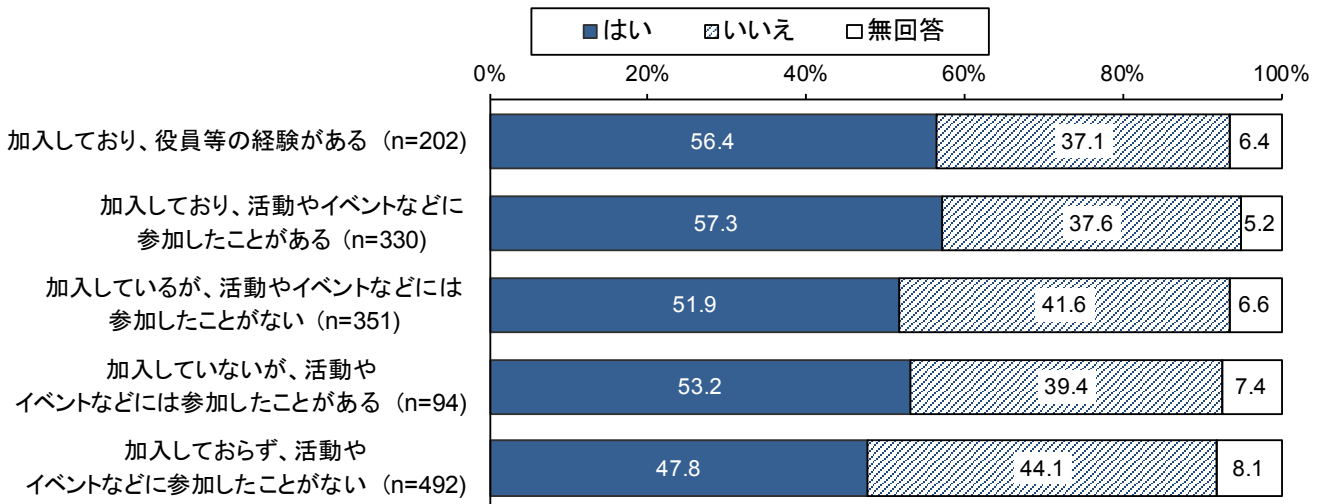
全体の半数超が、健康維持などの為に運動を続けている。

町内会加入の有無別に見ると、積極的に町内会と関わる層は、そうでない層に比べやや運動を続けている割合が高い。

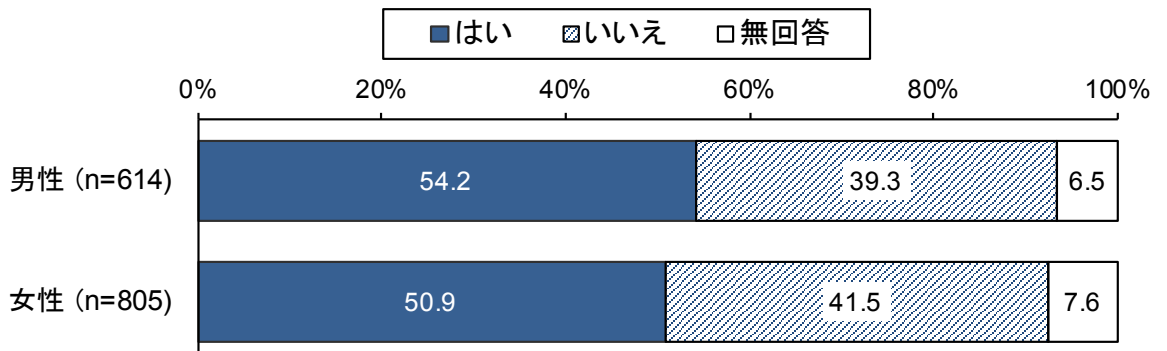
性別に見ると、運動を続けている割合は、男性が女性に比べてやや高くなっている。



【問4_町内会加入有無別】



【問4_性別】

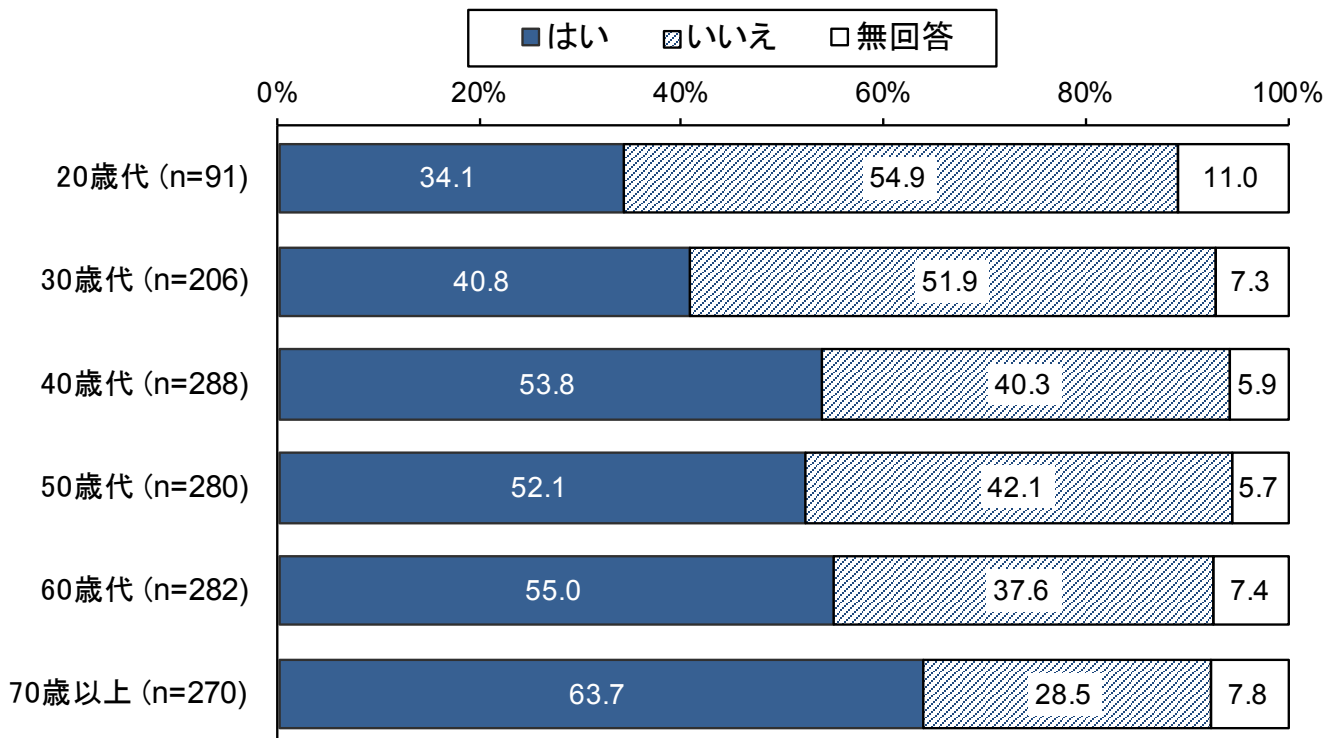


「問4 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている運動の有無」 - 2

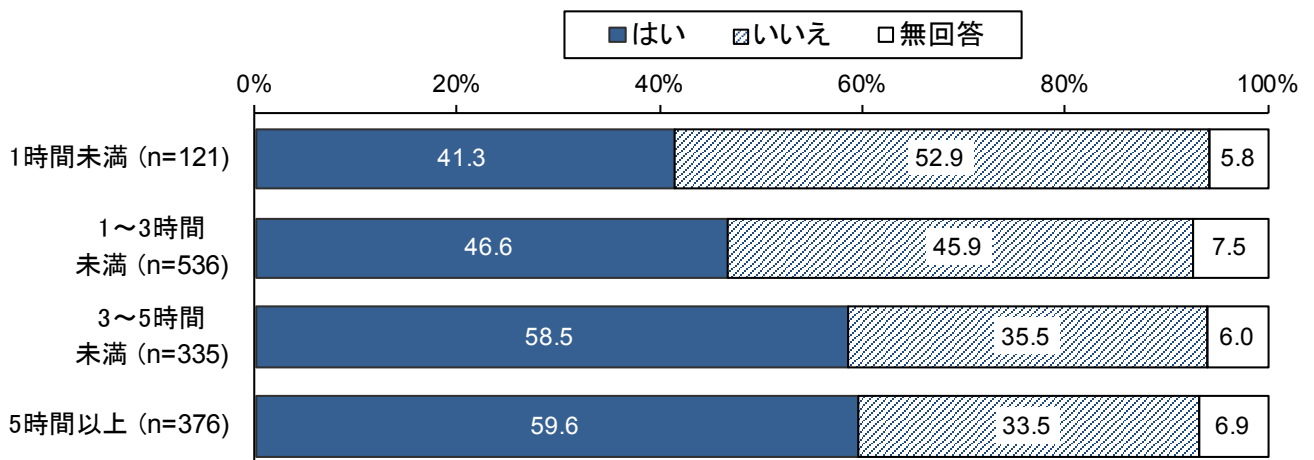
年代別に見ると、30歳代までは運動を続けていない割合の方が高いが、40歳代以上では運動を続けている割合がそれぞれ半数を超え、70歳以上では6割超と高くなっている。

1日あたりの自由時間別に見ると、自由時間が多い層ほど運動を続けている割合が高い傾向にある。

【問4_年代別】



【問4_1日あたり自由時間別】



「問4 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている運動の有無」－3

地区別に見ると、B地区・E地区では運動を続けている割合と続けていない割合がほぼ拮抗する結果となっているほか、I地区では運動を続けていない割合の方が多くなっている。

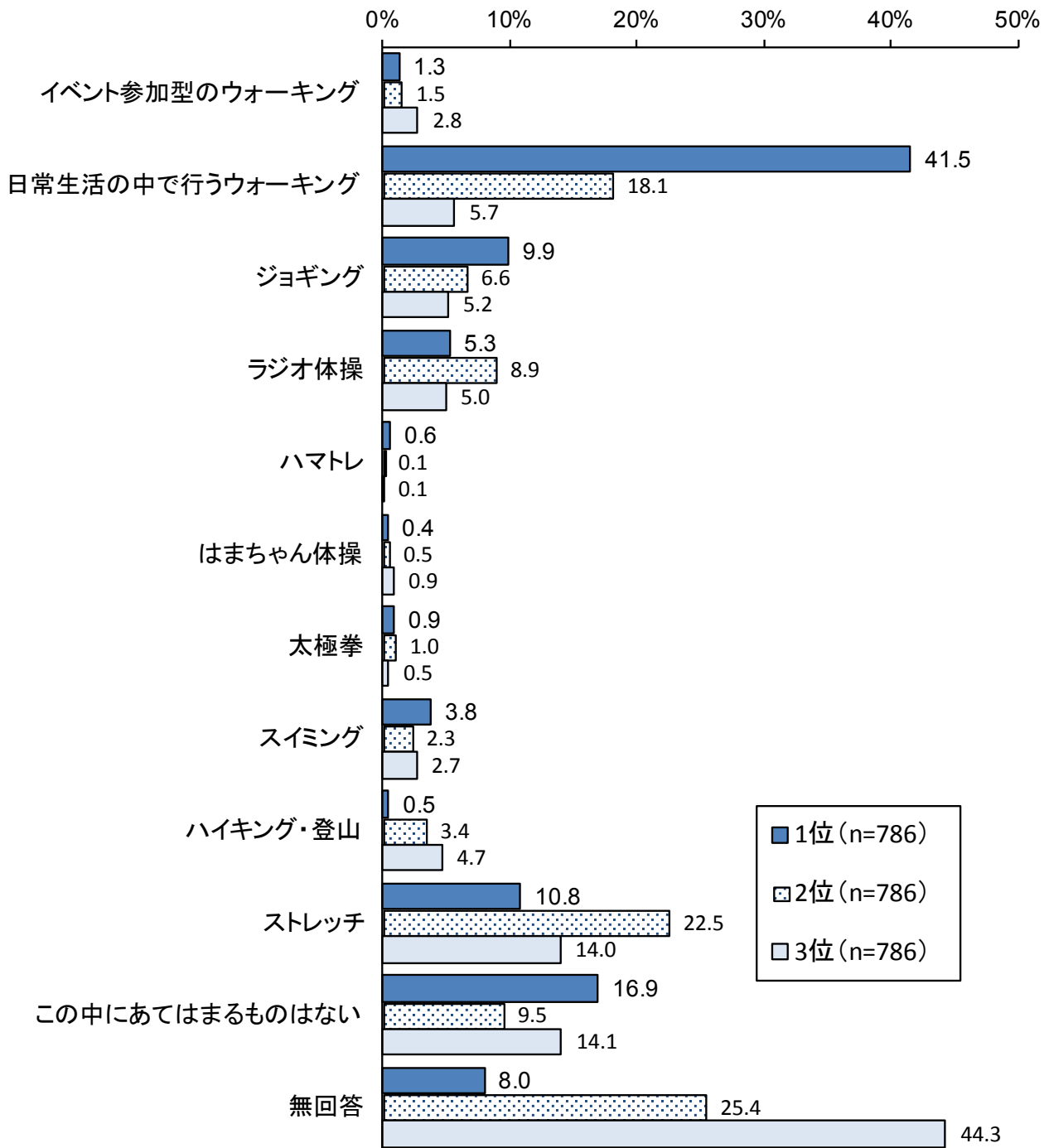
【問4_地区別】

		はい	いいえ	無回答
	n=			(%)
全体	1,507	52.2	40.5	7.4
A地区（第1北部地区）	79	48.1	43.0	8.9
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	46.8	46.8	6.5
C地区（関内地区）	38	47.4	44.7	7.9
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	52.2	34.8	13.0
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	40.6	40.6	18.8
F地区（石川打越地区）	52	53.8	38.5	7.7
G地区（第2地区）	197	54.8	42.1	3.0
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	53.3	38.5	8.2
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	41.9	47.6	10.5
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	60.6	36.6	2.8
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	53.2	39.2	7.7
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	56.1	39.3	4.7
M地区（新本牧地区）	81	59.3	38.3	2.5

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

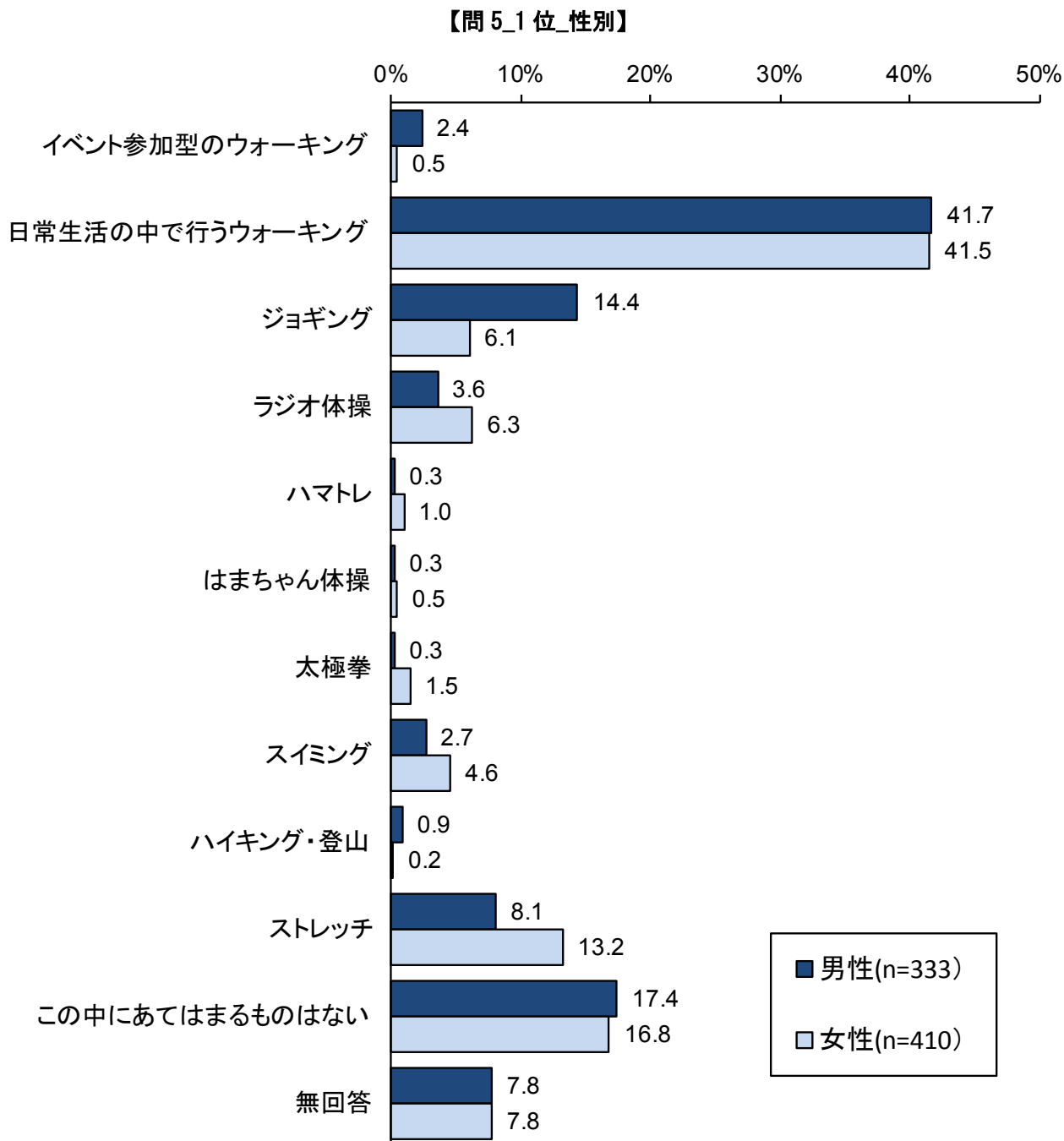
「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－1

問4で運動の取組を続けていると回答した人に対し、健康維持などのため続けている取組を頻度の高さの1位から3位まで尋ねたところ、「日常生活の中で行うウォーキング」が1位として最も多く挙げられた。また、「ストレッチ」は各順位ともに多く挙げられている項目となっている。



「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－2

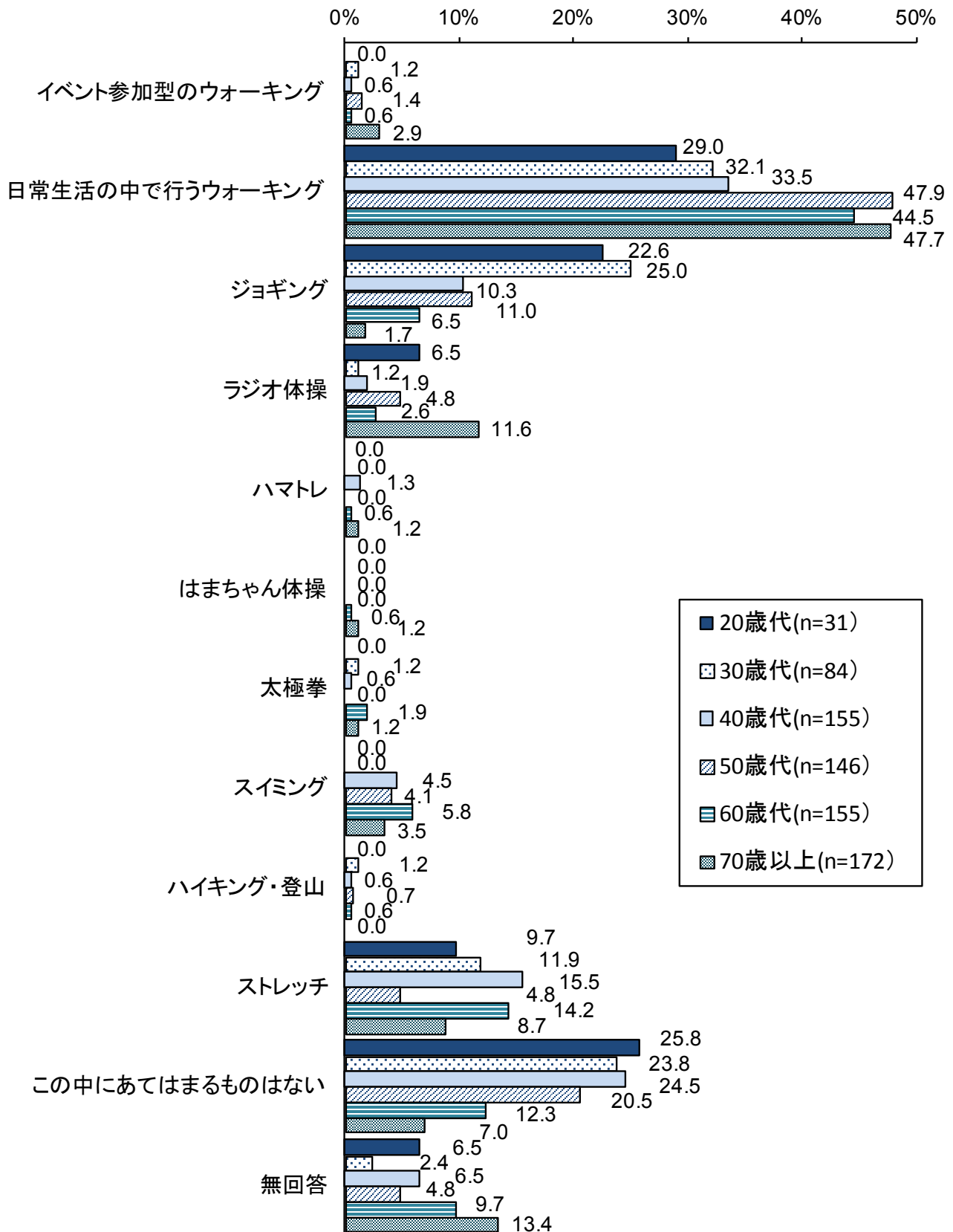
頻度の高い取組1位について性別に見ると、男性は「ジョギング」、女性は「ストレッチ」「ラジオ体操」などが高くなっている。



「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－3

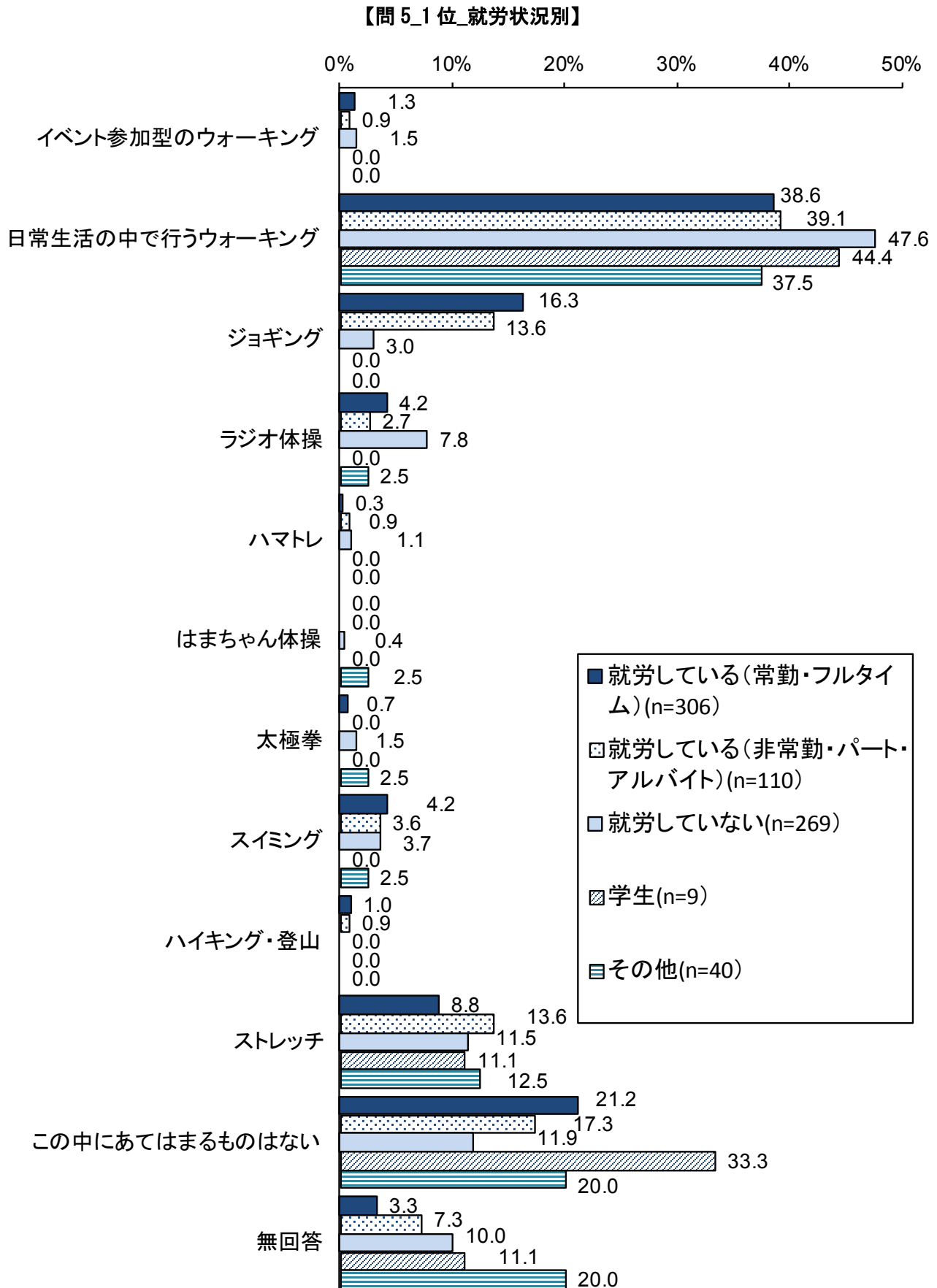
頻度の高い取組1位について年代別に見ると、若年層では「ジョギング」、高齢層では「日常生活の中で行うウォーキング」の割合が高い。

【問5_1位_年代別】



「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－4

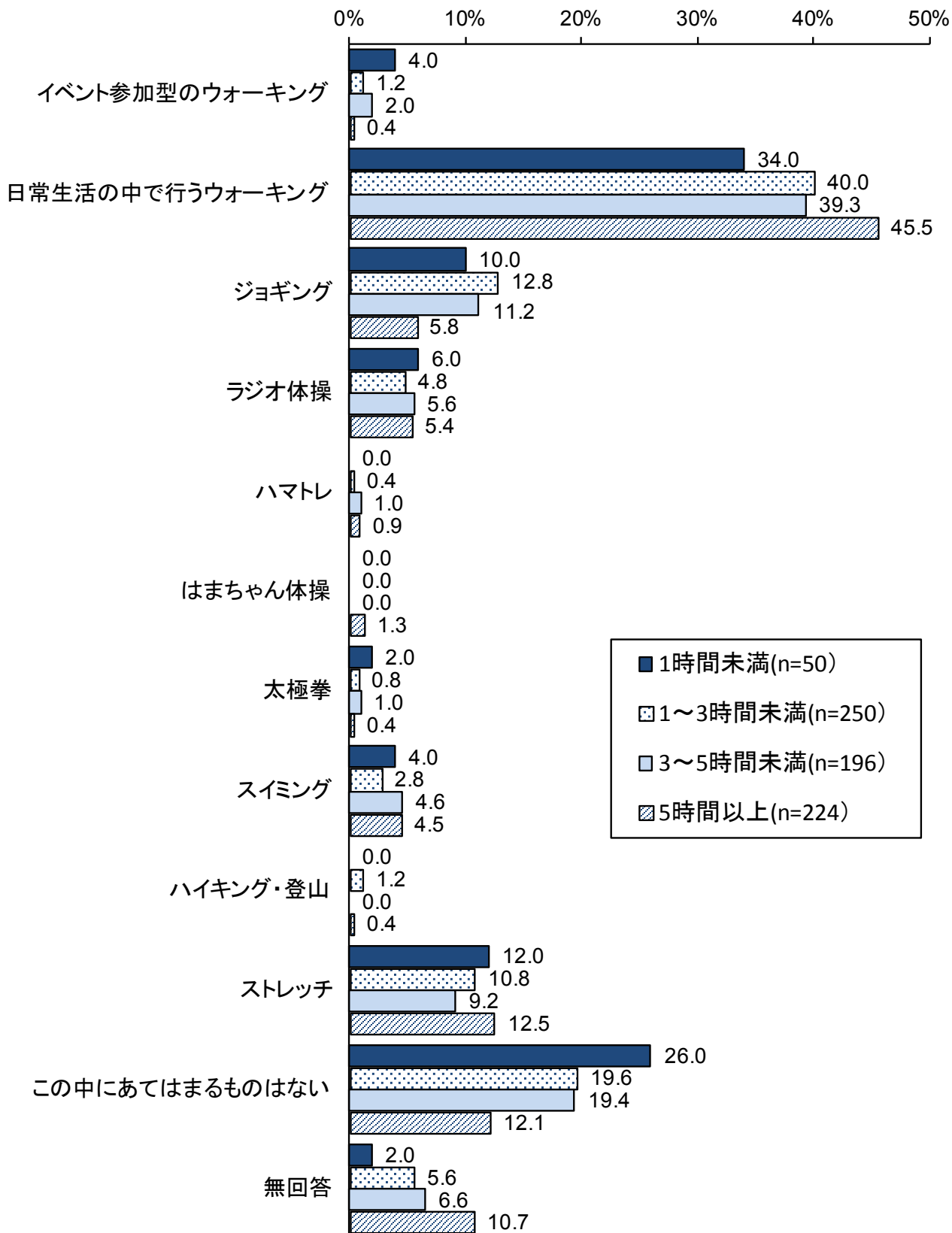
頻度の高い取組1位について就労状況別に見ると、常勤・非常勤を問わず就労している層で「ジョギング」の割合が高くなっている。



「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－5

頻度の高い取組1位について1日あたりの自由時間別に見ると、自由時間が多い層で「日常生活の中で行うウォーキング」の割合が高くなる傾向にある。また、自由時間が1時間未満の層では、「ラジオ体操」「ストレッチ」などの割合が比較的高めとなっている。

【問5_1位_1日あたり自由時間別】



「問5 健康維持、生活習慣病の予防などのために続けている取組内容」－6

頻度の高い取組1位について地区別に見ると、C地区・J地区では「日常生活の中で行うウォーキング」の割合が全体を大きく下回っている。

【問5_地区別】

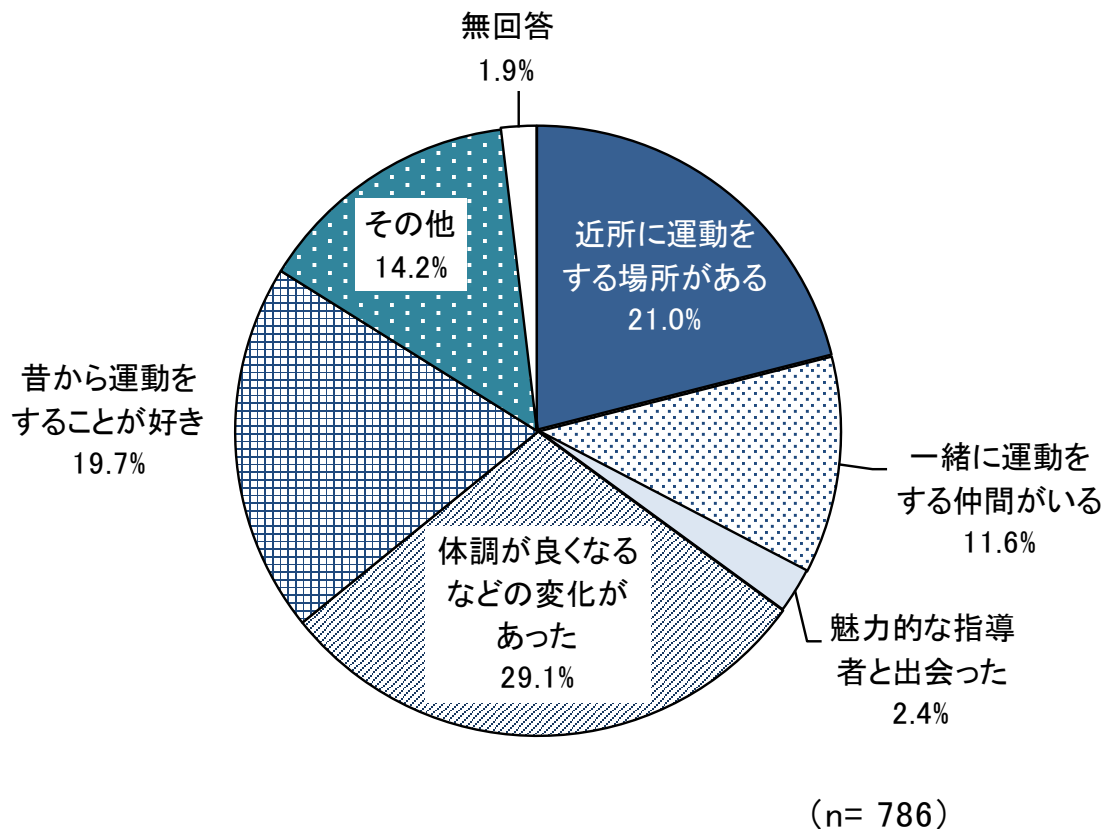
(%)

	n=	ウォーキング参加型の割合	日常生活の中で行うウォーキング	ジョギング	ラジオ体操	ハマトレ	はまちゃん体操	太極拳	スイミング	ハイキング・登山	ストレッチ	この中ではない	無回答
全体	786	1.3	41.5	9.9	5.3	0.6	0.4	0.9	3.8	0.5	10.8	16.9	8.0
A地区（第1北部地区）	38	2.6	42.1	18.4	-	-	-	-	-	-	7.9	26.3	2.6
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	36	-	41.7	8.3	5.6	-	-	-	-	-	2.8	30.6	11.1
C地区（関内地区）	18	-	22.2	11.1	-	-	-	-	5.6	-	22.2	27.8	11.1
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	48	2.1	47.9	8.3	4.2	2.1	-	-	2.1	-	6.3	14.6	12.5
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	13	-	46.2	7.7	-	-	-	-	-	-	23.1	-	23.1
F地区（石川打越地区）	28	-	50.0	7.1	3.6	3.6	-	-	3.6	-	7.1	17.9	7.1
G地区（第2地区）	108	-	45.4	9.3	8.3	0.9	-	3.7	4.6	1.9	11.1	9.3	5.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	137	1.5	45.3	12.4	5.8	-	-	1.5	5.1	-	8.8	13.1	6.6
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	44	2.3	43.2	4.5	4.5	-	-	-	2.3	-	13.6	18.2	11.4
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	43	-	30.2	11.6	7.0	-	2.3	-	4.7	2.3	9.3	25.6	7.0
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	118	1.7	38.1	10.2	5.9	0.8	1.7	0.8	2.5	-	12.7	19.5	5.9
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	60	1.7	36.7	6.7	5.0	1.7	-	-	3.3	1.7	16.7	18.3	8.3
M地区（新本牧地区）	48	4.2	37.5	8.3	2.1	-	-	-	10.4	-	6.3	18.8	12.5

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問6 運動の取組を続けることができている最も大きな理由」 - 1

問4で運動の取組を続けていると回答した人に対し、続けることができている最も大きな理由について尋ねたところ、「体調がよくなるなどの変化があった」が3割近くを占めて最も多く挙げられた。他に「近所に運動をする場所がある」「昔から運動をすることが好き」などの理由も2割前後と多い。**自由回答**では、犬の散歩など、何かのついでに運動をしているという回答や、将来も健康でいたいという回答のほか、景観や風景など、歩いていて楽しい街であるという回答が多く見られた。



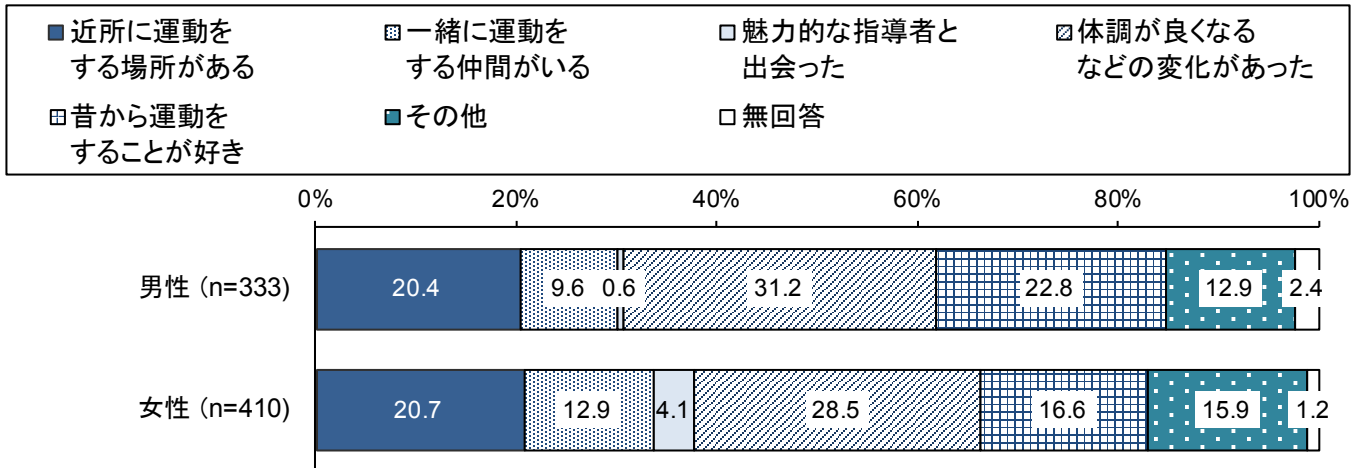
【自由回答より抜粋】

- ・犬と一緒に散歩できるから
- ・いつまでも健康でいたいから。
- ・通勤で自転車を使っているの
- ・横浜の街は歩いていて楽しい

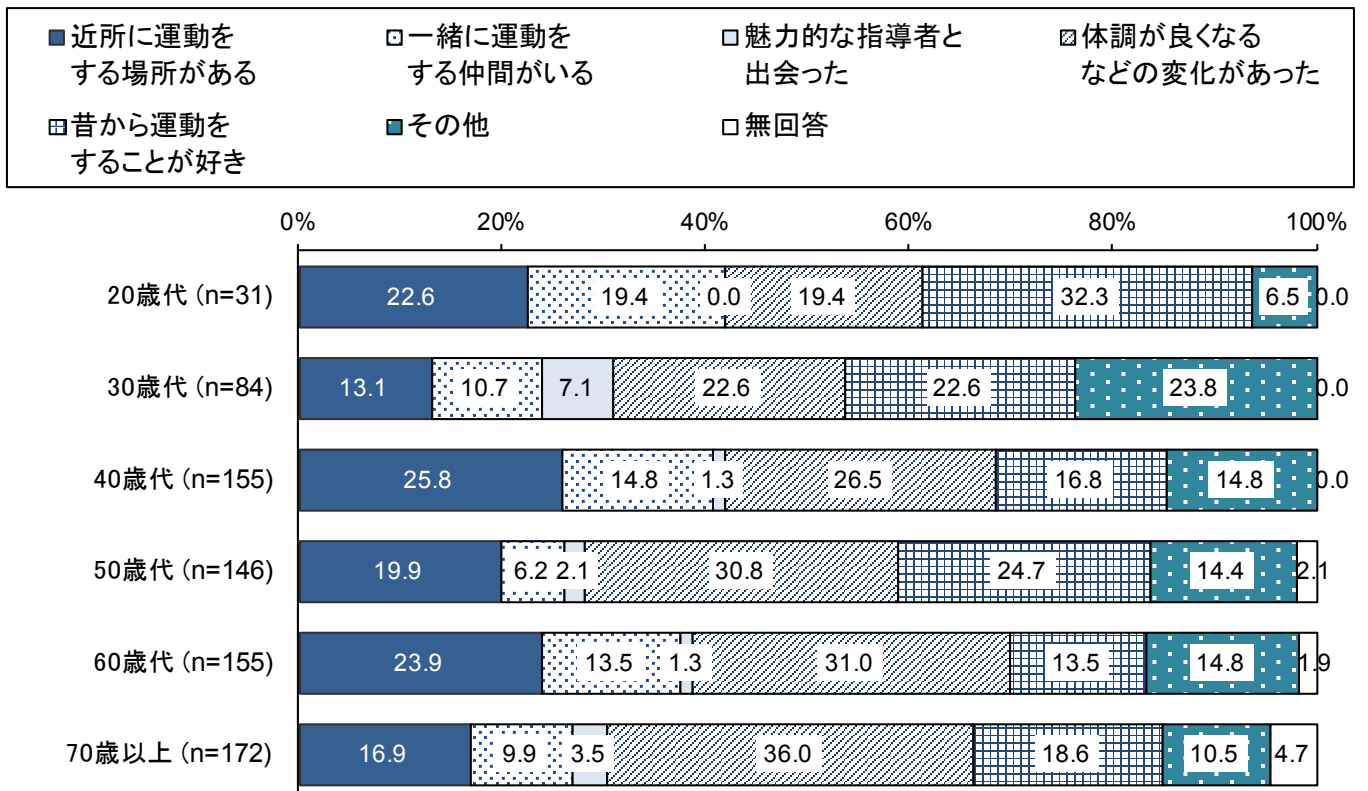
「問6 運動の取組を続けることができている最も大きな理由」 - 2

性別に見ると、男性では「体調がよくなるなどの変化があった」「昔から運動をすることが好き」、女性では「一緒に運動をする仲間がいる」の割合がそれぞれ高い。
 年代別では、20歳代で「昔から運動をすることが好き」が3割超と高くなっている。

【問6_性別】

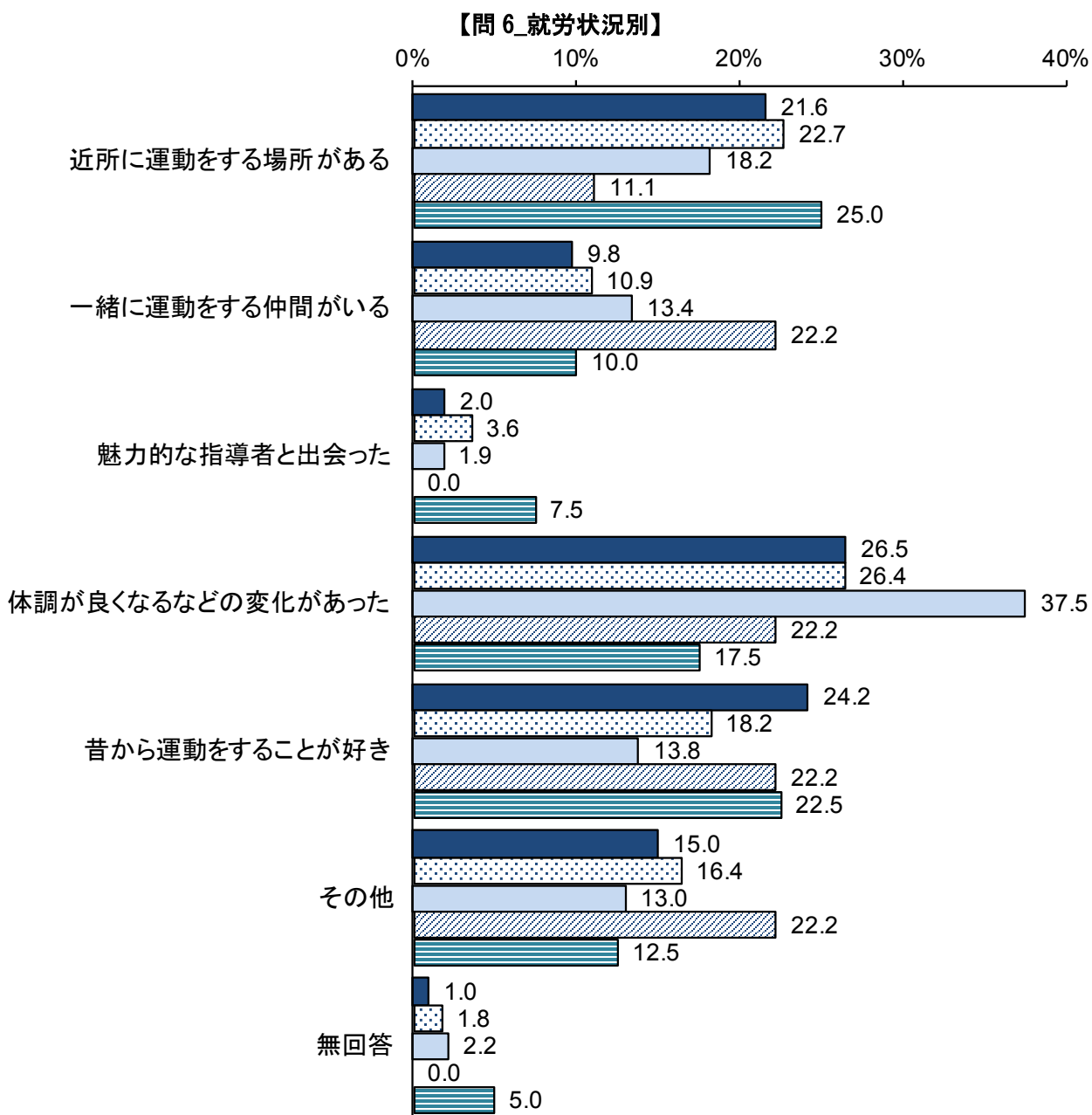


【問6_年代別】



「問6 運動の取組を続けることができている最も大きな理由」 - 3

就労状況別に見ると、就労していない層では、「昔から運動をすることが好き」の割合が他の層に比べ低い一方で、「体調がよくなるなどの変化があった」の割合が高く、運動をすることによる変化の実感が他の層に比べて強いモチベーションになっている事がうかがえる。

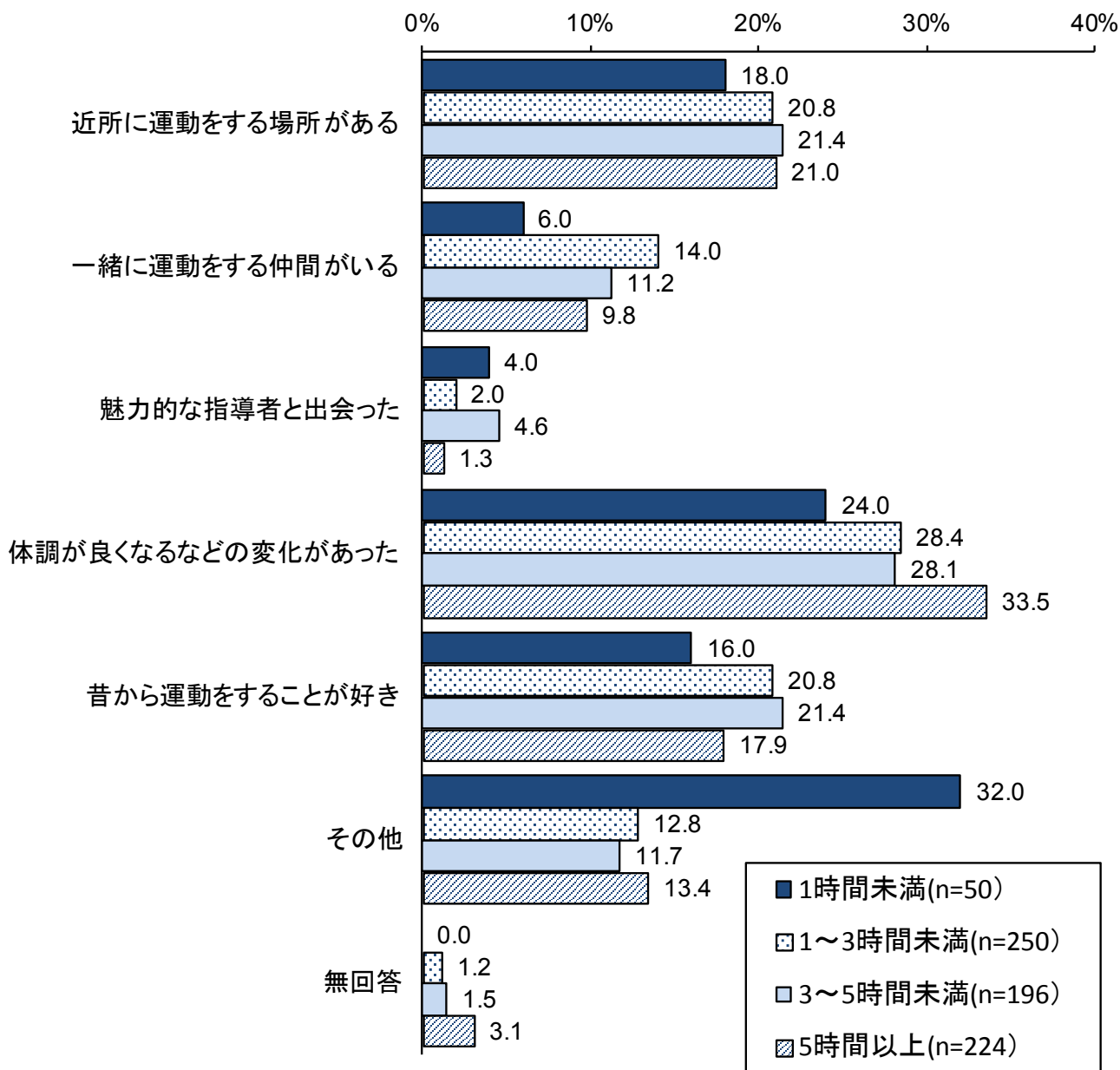


- 就労している(常勤・フルタイム)(n=306)
- ▣ 就労している(非常勤・パート・アルバイト)(n=110)
- 就労していない(n=269)
- ▨ 学生(n=9)
- ▤ その他(n=40)

「問6 運動の取組を続けることができている最も大きな理由」 - 4

1日あたりの自由時間別に見ると、自由時間が多い層では、「体調がよくなるなどの変化があった」の割合が高くなっている。

【問6_1日あたり自由時間別】



「問6 運動の取組を続けることができている最も大きな理由」－5

地区別に見ると、I地区で「体調が良くなるなどの変化があった」、L地区・M地区で「近所に運動をする場所がある」などの割合が全体を大きく上回る一方、F地区・I地区では「近所に運動をする場所がある」の割合が全体を大きく下回る結果となった。

【問6_地区別】

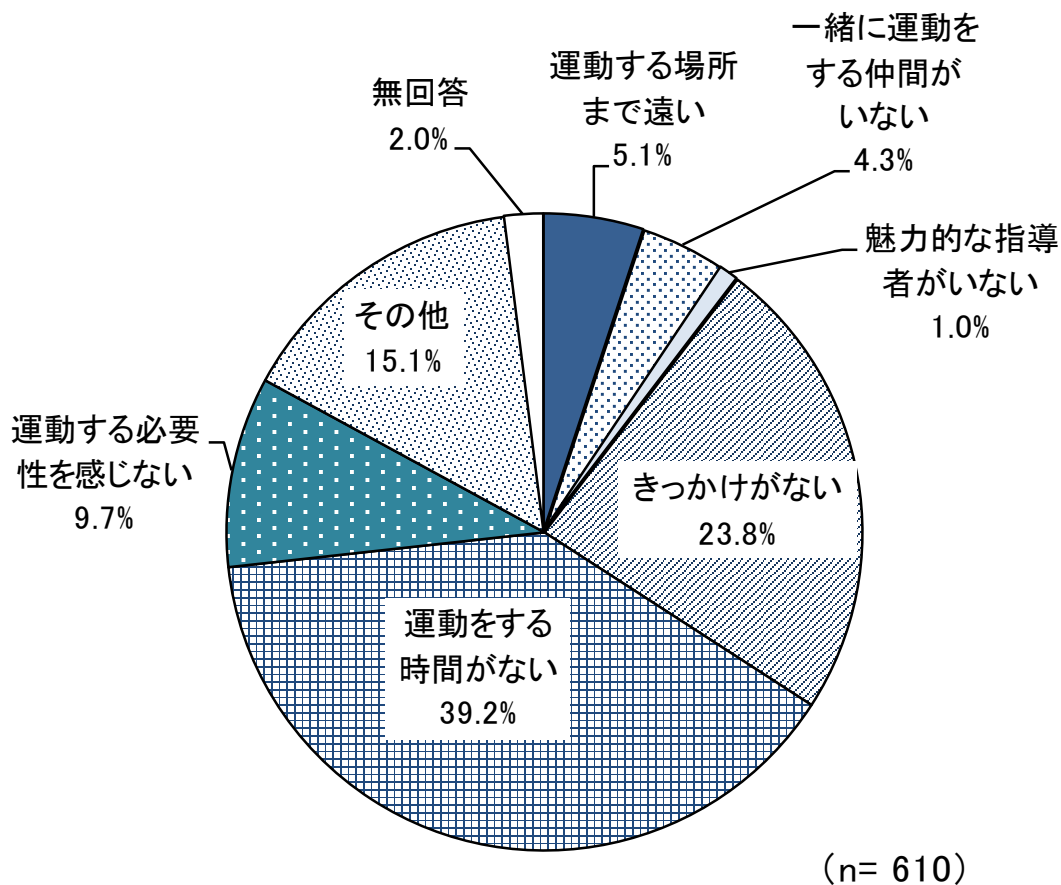
		す近 る所 場に 所運 が動 あを る	す一 る緒 仲に 間運 が動 いを る	出魅 会力 つ的 たな 指 導者 と	たな 体 ど調 のが 変良 化く がな ある つ	す昔 るか こら と運 が動 好を き	そ の 他	無 回 答
	n=							(%)
全体	786	21.0	11.6	2.4	29.1	19.7	14.2	1.9
A地区（第1北部地区）	38	23.7	10.5	2.6	28.9	28.9	5.3	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	36	13.9	16.7	-	33.3	13.9	19.4	2.8
C地区（関内地区）	18	22.2	11.1	-	38.9	11.1	16.7	-
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	48	20.8	2.1	2.1	29.2	20.8	20.8	4.2
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	13	23.1	-	-	38.5	23.1	15.4	-
F地区（石川打越地区）	28	10.7	10.7	7.1	32.1	10.7	28.6	-
G地区（第2地区）	108	27.8	11.1	2.8	28.7	14.8	13.0	1.9
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	137	19.0	10.2	2.2	27.7	21.9	15.3	3.6
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	44	4.5	9.1	-	45.5	25.0	9.1	6.8
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	43	23.3	14.0	2.3	27.9	16.3	16.3	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	118	13.6	13.6	2.5	28.8	23.7	17.8	-
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	60	31.7	15.0	3.3	26.7	16.7	5.0	1.7
M地区（新本牧地区）	48	33.3	14.6	6.3	22.9	12.5	10.4	-

※ 地区割りについて、詳細は3ページをご覧ください。

「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」 - 1

問4で運動を続けていないと回答した人に対し、続かなかった理由・始めなかった理由として最も大きな理由について尋ねたところ、「運動をする時間がない」が最も多く挙げられた理由となった。次いで「きっかけがない」が2割強となっている。

自由回答では、けがや病気・体調が悪いといった理由で運動できないという回答が特に多く見られたほか、仕事などで体を動かす分で充分と考えている回答が見られた。



【自由回答より抜粋】

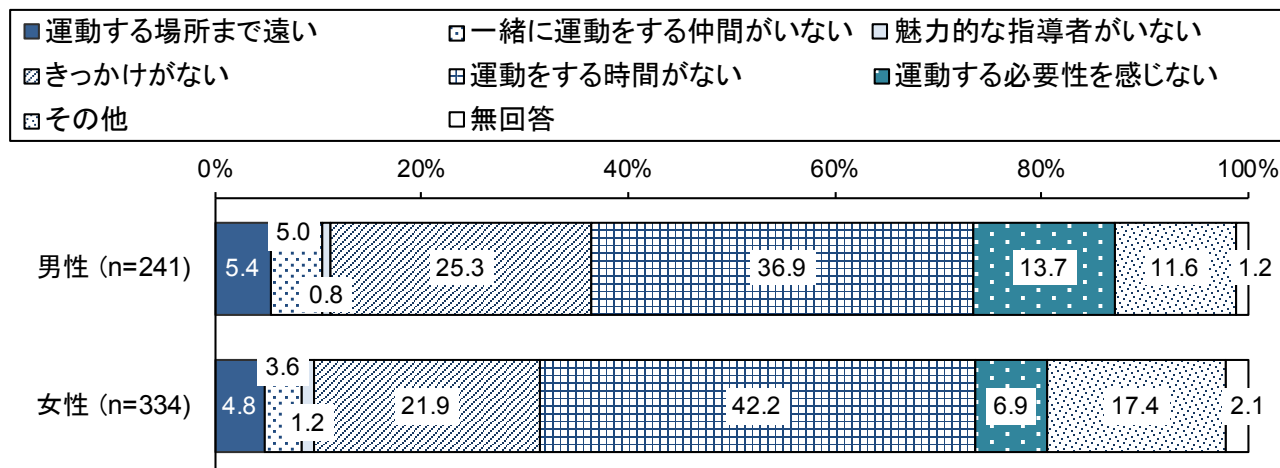
- ・足を痛めているため、できませんでした
- ・身体上運動ができない、してはいけない手術をしたため
- ・運動する体力と気力が残っていない
- ・仕事ですでに体を使っている。休日は休んでいたい
- ・日常生活の中で動く事が多い為、家事や仕事（外出等）、通勤等

「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」 - 2

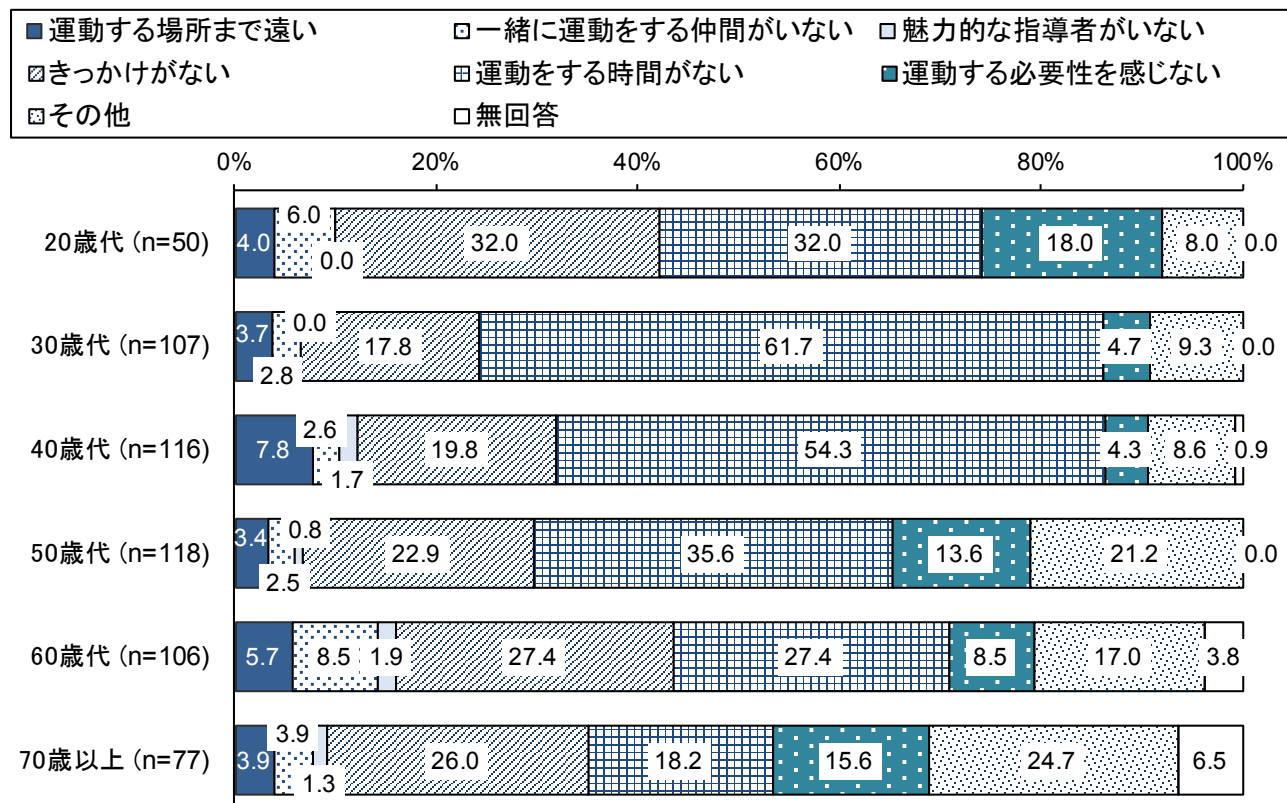
性別に見ると、男性では「運動をする必要性を感じない」「きっかけがない」、女性では「運動をする時間がない」などの割合が高くなっている。

年代別では、30～40歳代で「運動をする時間がない」の割合が5割～6割を占め、特に高くなっている。

【問7_性別】



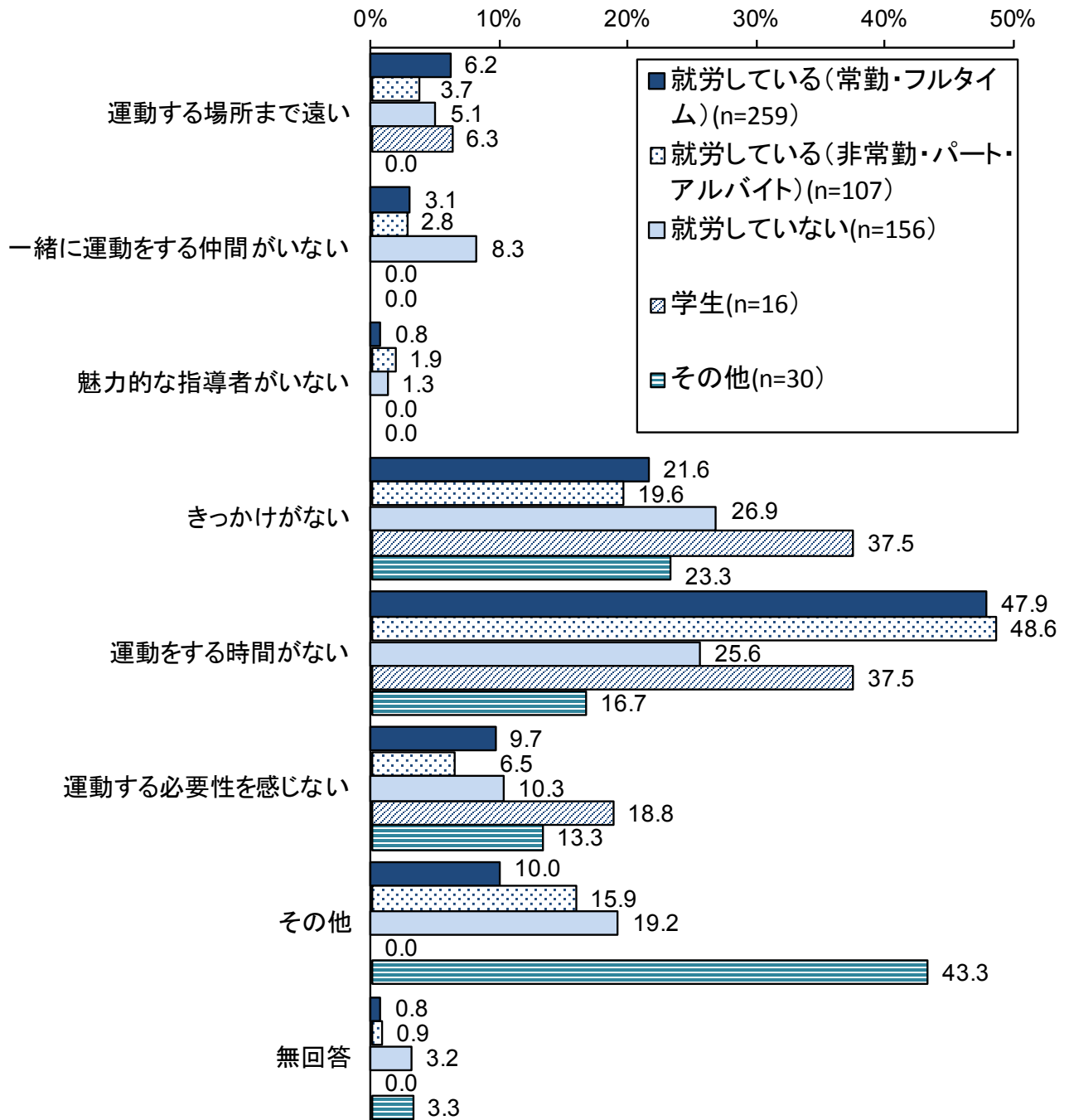
【問7_年代別】



「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」 - 3

就労状況別に見ると、常勤・非常勤を問わず就労している層で「運動をする時間がない」の割合が半数近くを占めて高い。また、就労していない層では、「きっかけがない」の割合がやや高めとなっている。

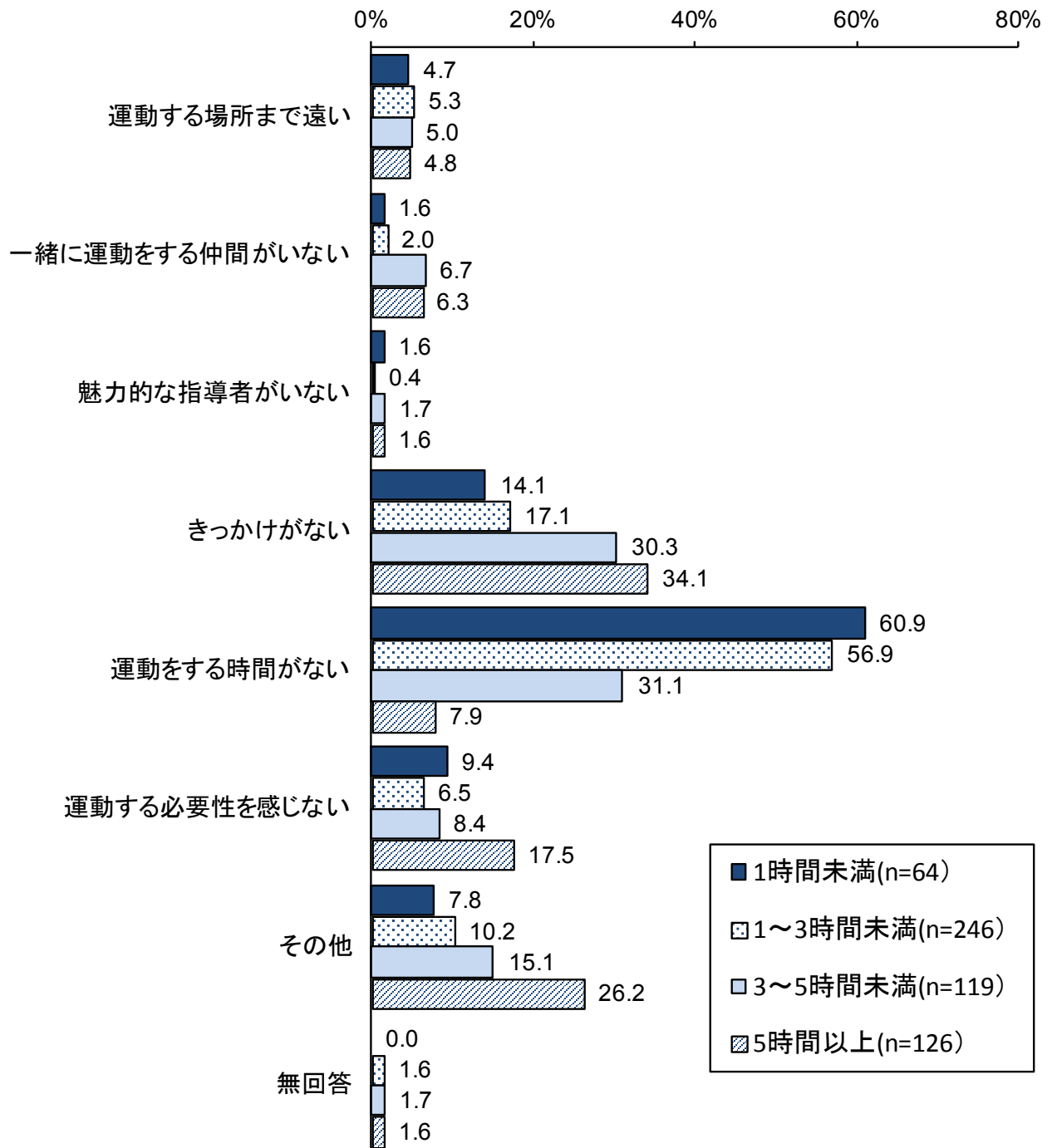
【問7_就労状況別】



「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」 - 4

1日あたりの自由時間別に見ると、自由時間が少ない層ほど「運動をする時間がない」の割合が高い一方、自由時間が長い層ほど「きっかけがない」の割合が高くなる傾向が見られる。

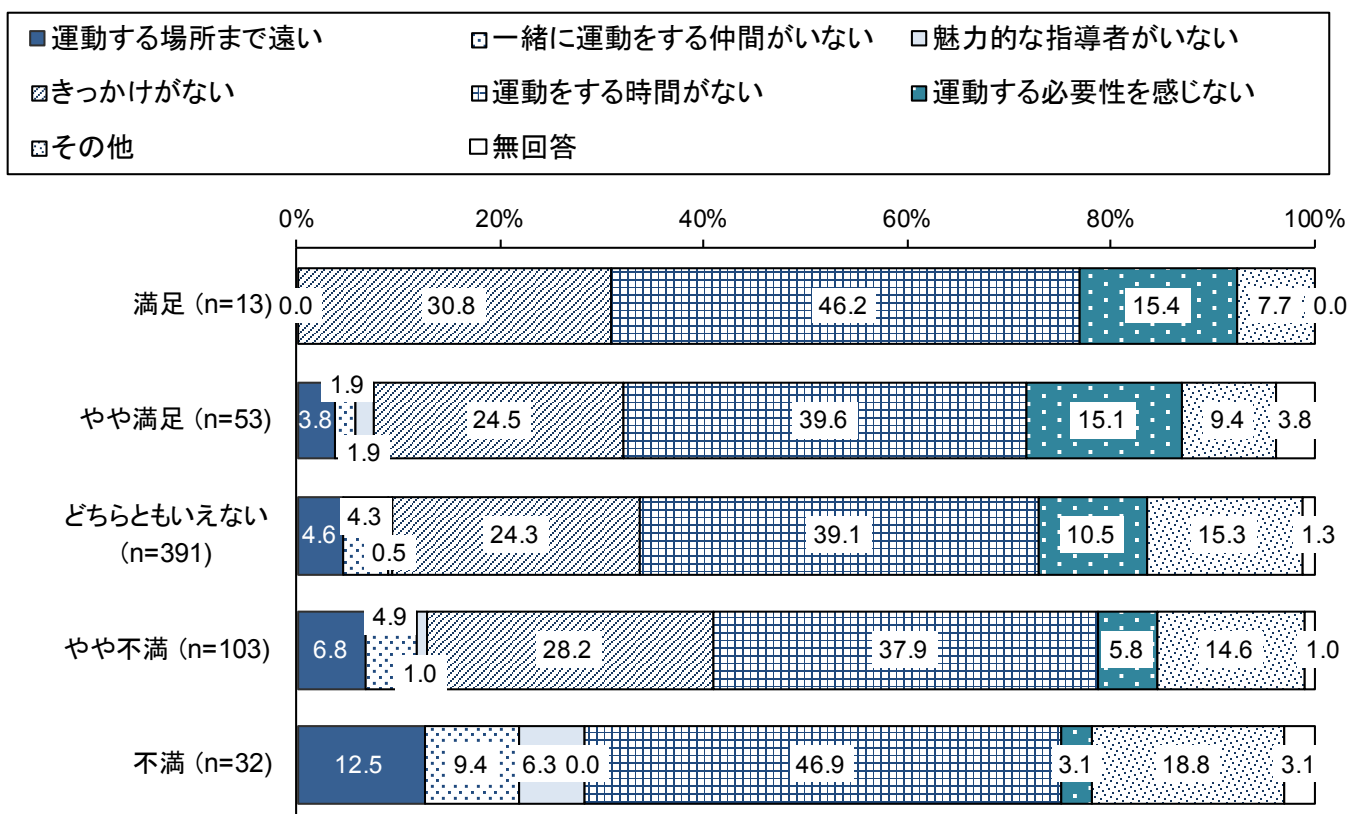
【問7_1日あたり自由時間別】



「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」 - 5

スポーツ施設や屋外レクリエーション施設の整備・使いやすさに対する満足度別に見ると、各施設への満足度が高い層では、「運動する場所まで遠い」「一緒に運動をする仲間がいない」「魅力的な指導者がいない」などの外的要因の割合が低くなる傾向にある。一方で、「運動をする時間がない」の割合は、満足度に関らず一定の水準を占めている。

【問7_「スポーツ施設や屋外レクリエーション施設の整備や使いやすさ」満足度別】



「問7 運動の取組が続かなかった／始めなかった最も大きな理由」－6

地区別に見ると、D地区で「運動する場所まで遠い」、B地区で「きっかけがない」、I地区・J地区で「運動をする時間がない」、E地区で「運動する必要性を感じない」の割合がそれぞれ全体を大きく上回っている。

【問7_地区別】

(%)

	n=	で運動する場所まで遠い	一緒に運動しない	魅力的ないな指導者がいない	きっかけがない	運動をする時間がない	運動する必要性を感じない	その他	無回答
全体	610	5.1	4.3	1.0	23.8	39.2	9.7	15.1	2.0
A地区（第1北部地区）	34	2.9	-	-	29.4	47.1	5.9	14.7	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	36	2.8	5.6	2.8	36.1	33.3	2.8	13.9	2.8
C地区（関内地区）	17	-	5.9	5.9	29.4	29.4	-	29.4	-
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	32	15.6	6.3	-	31.3	21.9	12.5	12.5	-
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	13	-	7.7	-	23.1	15.4	23.1	23.1	7.7
F地区（石川打越地区）	20	5.0	5.0	-	25.0	35.0	5.0	25.0	-
G地区（第2地区）	83	9.6	1.2	2.4	16.9	39.8	8.4	18.1	3.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	99	5.1	4.0	1.0	18.2	45.5	9.1	14.1	3.0
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	50	2.0	4.0	-	22.0	52.0	14.0	6.0	-
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	26	7.7	3.8	-	3.8	61.5	15.4	3.8	3.8
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	87	5.7	5.7	1.1	26.4	39.1	11.5	10.3	-
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	42	-	4.8	-	33.3	35.7	7.1	19.0	-
M地区（新本牧地区）	31	3.2	3.2	-	16.1	32.3	12.9	29.0	3.2

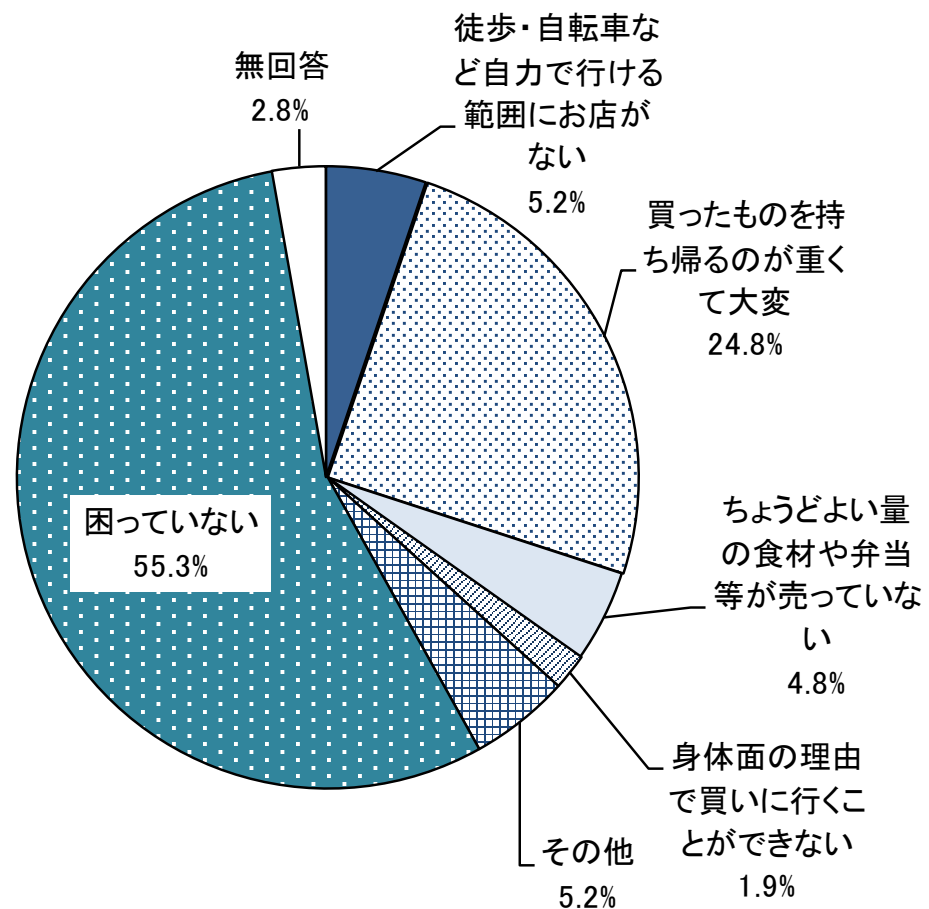
※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

4. 毎日の食事に関する「買い物支援」について

「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」- 1

毎日の食事に関する買物で最も困っていることについて尋ねたところ、半数以上が「困っていない」と回答しているが、一方で「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」の項目が困っていることとして多く挙げられた。

自由回答では、店が夜遅くまで開いていないとの回答や、坂や階段が多く困っているとの回答、価格の高さに対する回答などが多く寄せられた。



(n= 1507)

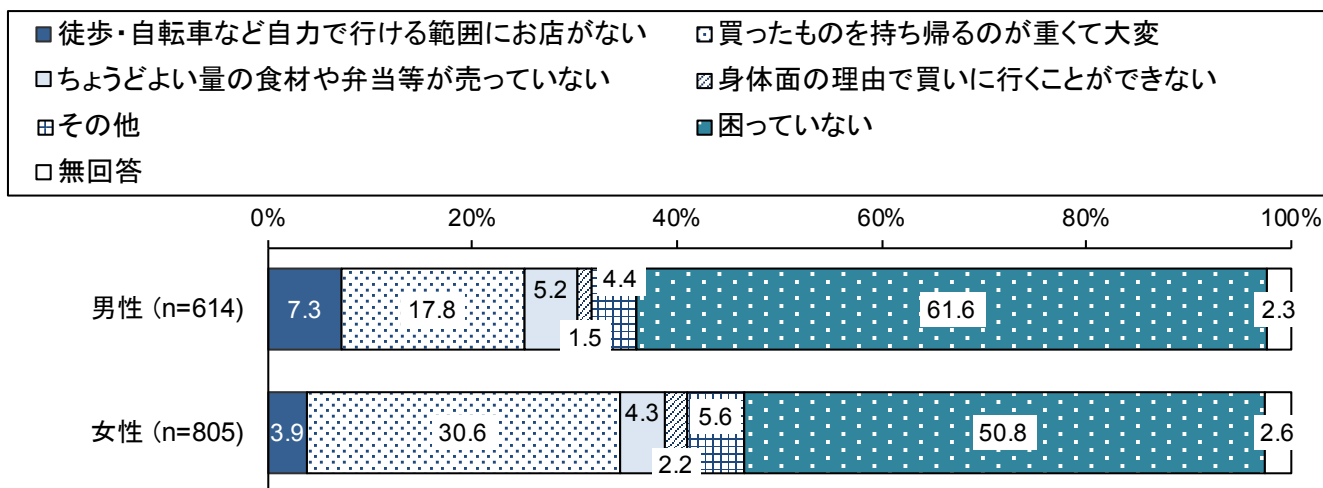
【自由回答より抜粋】

- ・スーパーの営業時間内に買い物にいけない日が多い。
- ・おそくまでやってるスーパーがない
- ・坂が多いのでケガや、妊娠中などは大変だった
- ・物価が高い、良品を安価で売る店がない
- ・鮮度がよく価格が手頃なお店が少ない。

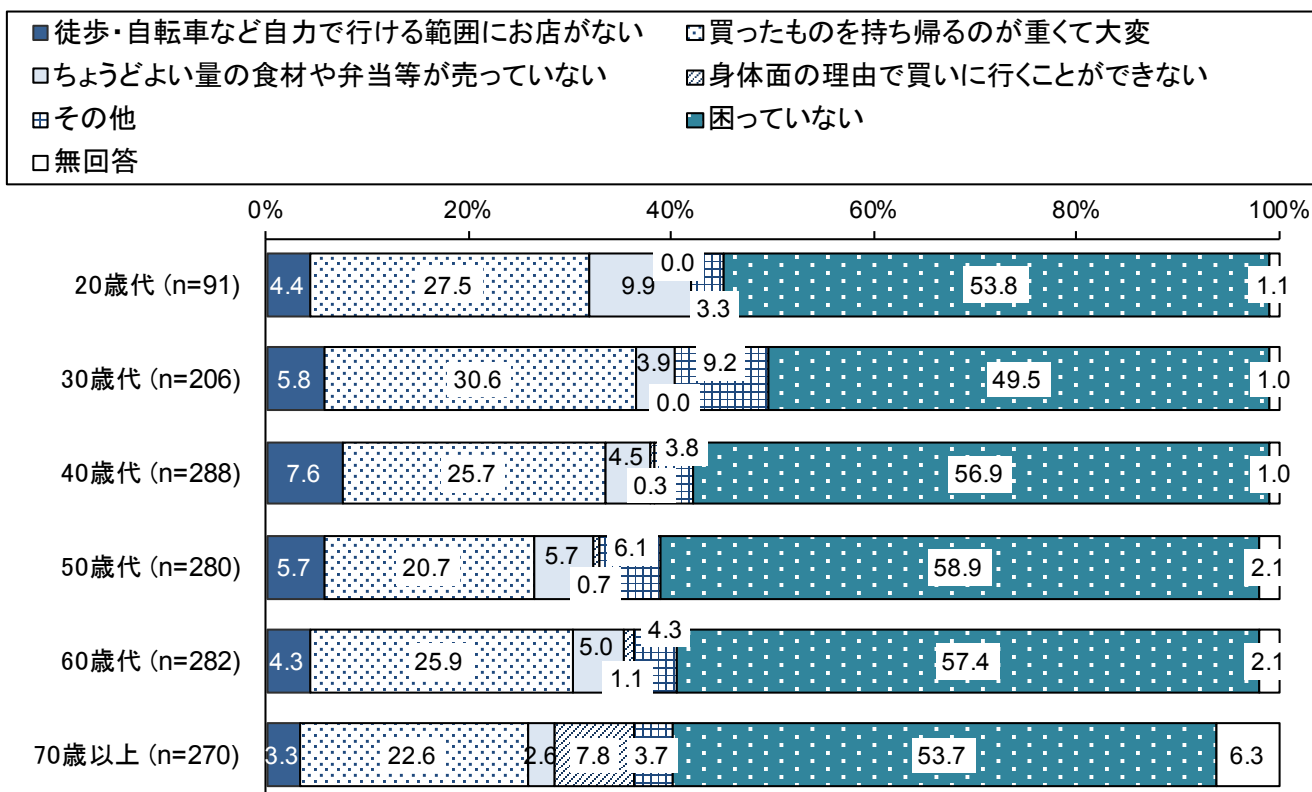
「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」－2

性別に見ると、男性では「困っていない」のほか「徒歩・自転車など自力で行ける範囲にお店がない」、女性では「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」の割合がそれぞれ高くなっている。
 年代別では、30歳代を中心に「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」の割合が高くなっており、これは子育て中、だっこをしながら・ベビーカーを使いながらの買物が多くなるためと考えられる。一方で70歳以上では、「身体面の理由で買いに行くことができない」の割合が他の年代に比べ高い。

【問8_性別】



【問8_年代別】



「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」－3

同居家族別に見ると、祖母や15歳未満の子供と同居している層で「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」などを中心に困っている割合が高い。また、ひとり暮らしの層では、「ちょうどよい量の食材や弁当などが売っていない」の割合が他の層に比べて高くなっている。

【問8_同居家族別】

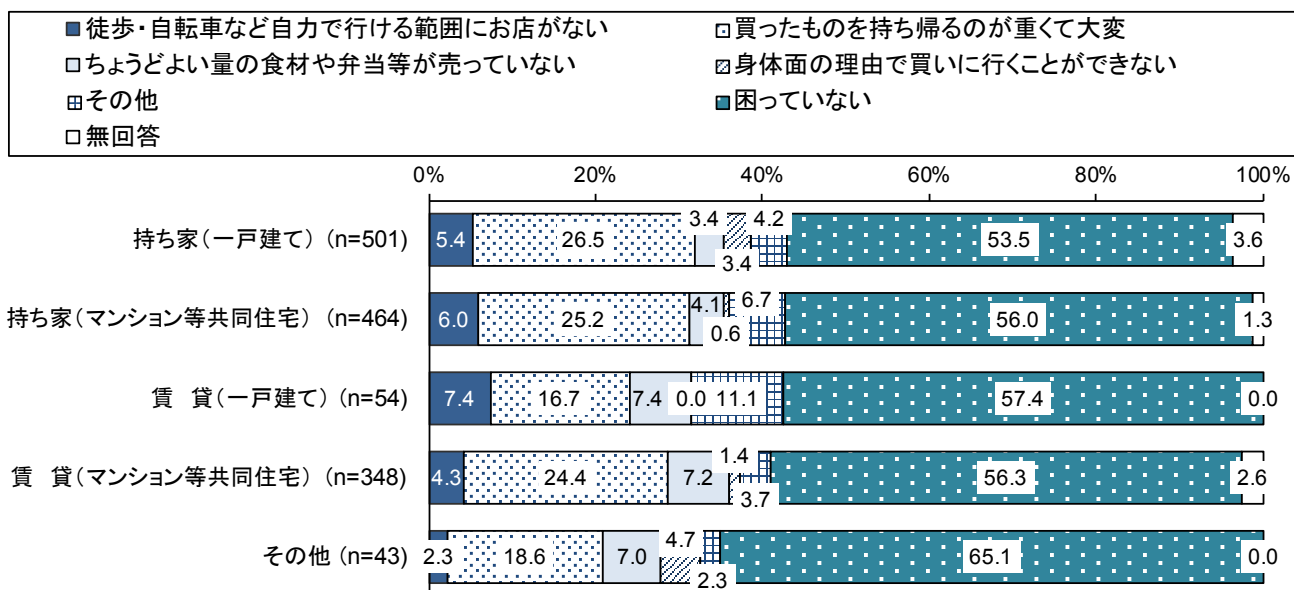
(%)

	n=	店 が な い	力 で 行 け る 範 囲 に お	徒 歩 ・ 自 転 車 な ど 自	る 買 の が 重 く て 大 変 帰	買 つ た も の を 持 ち 帰	い な い	材 や 弁 当 等 が 売 つ て	ち よ う ど よ い 量 の 食	い に 行 く こ と が で き な い	身 体 の 理 由 で 買 い	そ の 他	困 つ て い な い	無 回 答
全体	1,507	5.2	24.8	4.8	1.9	5.2	55.3	2.8						
祖父(義祖父)	4	-	25.0	-	-	-	75.0	-						
祖母(義祖母)	20	5.0	35.0	-	-	15.0	45.0	-						
父(義父)	105	3.8	27.6	1.9	-	3.8	61.9	1.0						
母(義母)	190	5.3	24.2	4.2	0.5	3.7	61.1	1.1						
配偶者	908	5.7	26.0	3.3	1.7	5.6	55.3	2.4						
兄弟姉妹	65	4.6	27.7	7.7	-	4.6	52.3	3.1						
子(15歳未満)	263	6.1	33.1	2.3	-	7.6	49.0	1.9						
子(15歳以上)	381	4.5	22.0	1.8	2.4	6.6	58.8	3.9						
孫(15歳未満)	16	-	18.8	-	-	-	81.3	-						
孫(15歳以上)	18	5.6	11.1	5.6	5.6	-	55.6	16.7						
ひとり暮らし	262	3.8	16.4	11.1	2.3	4.6	59.5	2.3						
その他	38	7.9	15.8	2.6	5.3	2.6	60.5	5.3						

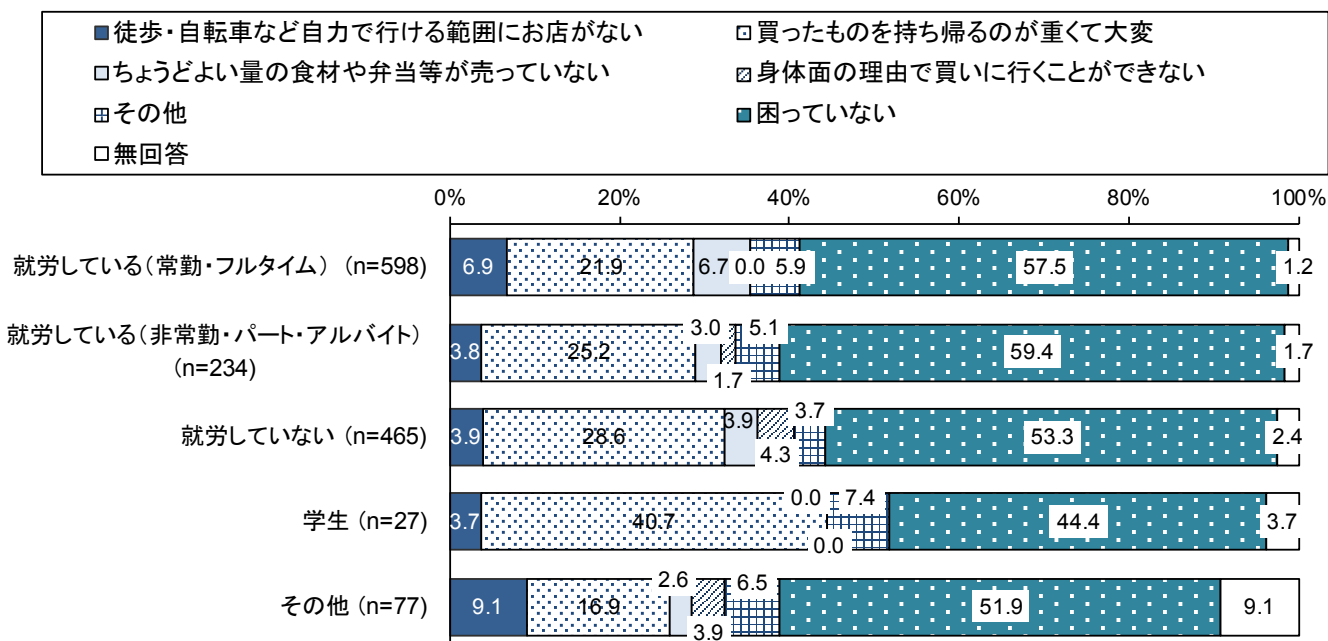
「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」－4

居住形態別に見ると、賃貸一戸建ての層で「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」の割合が他の層に比べて低い一方、「徒歩・自転車など自力で行ける範囲にお店がない」の割合がやや高い。
 就労状況別では、学生で「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」が4割を占めて特に高い一方、「困ってない」割合が他の層に比べて低く、困っている割合が高いと言える。

【問8_居住形態別】



【問8_就労状況別】

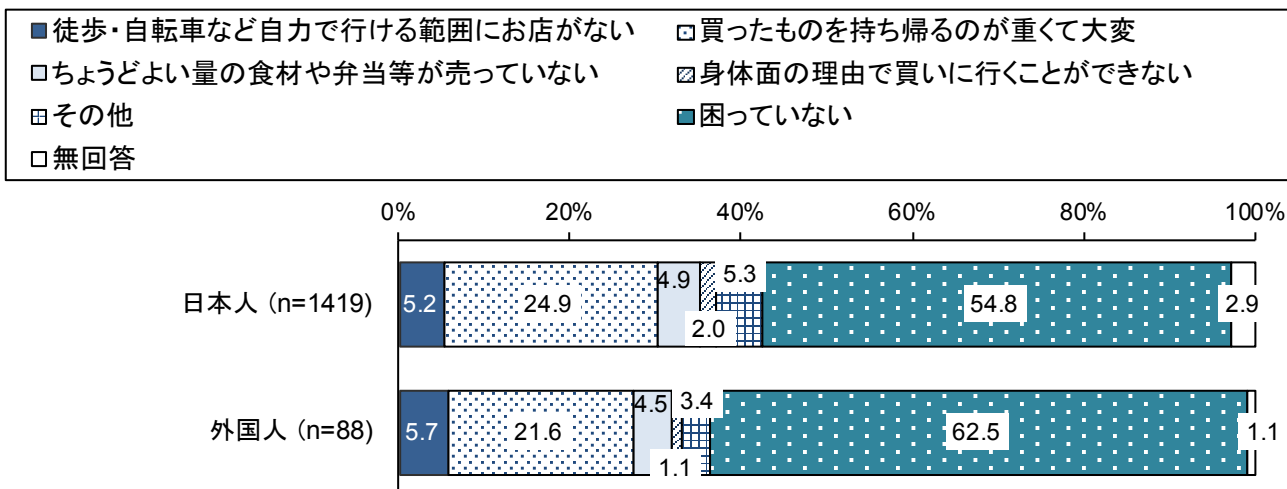


「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」 - 5

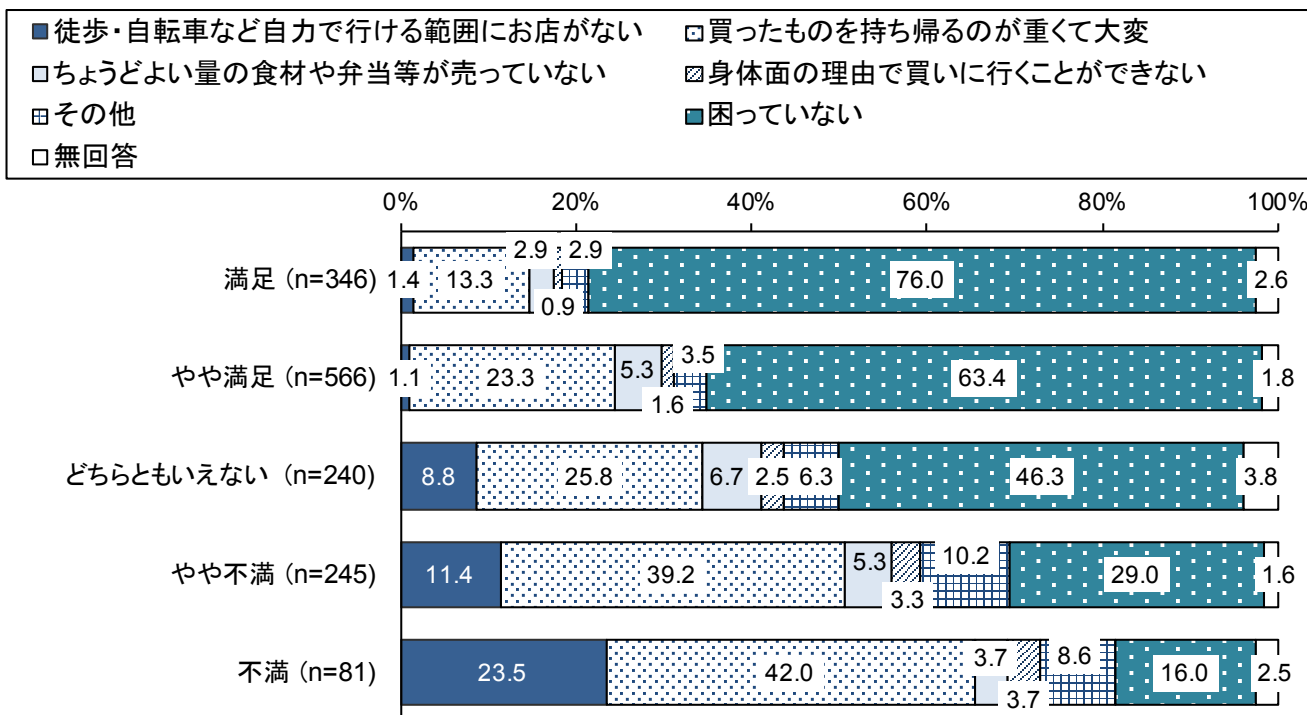
日本人／外国人別に見ると、外国人では「困っていない」の割合が6割超と、日本人よりは買い物に困っていない状況である事がうかがえる。

日常の買い物の利便性に対する満足度別に見ると、満足度が低くなるに従って「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」「徒歩・自転車など自力で行ける範囲にお店がない」の割合が高くなる一方、「その他」を含む他の要因の割合は小幅な変動にとどまっており、買ったものの持ち運び、店までの距離などが買い物の利便性で不満を感じる大きな要因になっていると考えられる。

【問8_日本人／外国人別】



【問8_「日常の買い物の利便性」満足度別】



「問8 健康な生活のために大切な毎日の食事に関する買物で最も困っていること」－6

地区別に見ると、L地区で「徒歩・自転車など自力で行ける範囲にお店がない」「買ったものを持ち帰るのが重くて大変」の割合がそれぞれ各地区の中で最も高いほか、「困っていない」が最も低く、この地区の住人が買い物の利便性に対して不満を持っている事がうかがえる。

【問8_地区別】

(%)

	n=	に お 店 が 行 け な い	自 力 で 自 ら 買 い 込 む の が 重 い	徒 歩 ・ 自 転 車 な ど で 買 い 込 む の が 重 い	変 換 の た り に 重 い 物 を 持 ち か え る の が 重 い	買 い た も の を 持 ち か え る の が 重 い	売 り 場 の 材 料 が 重 い	食 材 の 買 い 込 み が 重 い	ち よ う ど よ う な 量 の 買 い 込 み	き な い 行 く こ と が 重 い	い な い 理 由 が 重 い	身 体 面 の 理 由 が 重 い	そ の 他	困 っ て い な い	無 回 答
全体	1,507	5.2	24.8	4.8	1.9	5.2	55.3	2.8							
A地区（第1北部地区）	79	-	15.2	7.6	1.3	6.3	65.8	3.8							
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	1.3	18.2	5.2	2.6	5.2	67.5	-							
C地区（関内地区）	38	13.2	31.6	2.6	-	13.2	36.8	2.6							
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	-	18.5	6.5	2.2	5.4	64.1	3.3							
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	3.1	6.3	3.1	-	3.1	68.8	15.6							
F地区（石川打越地区）	52	1.9	30.8	3.8	1.9	5.8	51.9	3.8							
G地区（第2地区）	197	5.1	27.4	8.1	0.5	3.6	53.8	1.5							
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	10.1	31.5	2.7	3.1	5.1	45.9	1.6							
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	3.8	23.8	-	1.0	2.9	64.8	3.8							
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	1.4	21.1	5.6	-	4.2	66.2	1.4							
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	3.6	23.4	7.2	2.7	5.0	55.0	3.2							
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	17.8	35.5	1.9	2.8	7.5	32.7	1.9							
M地区（新本牧地区）	81	-	16.0	3.7	2.5	3.7	74.1	-							

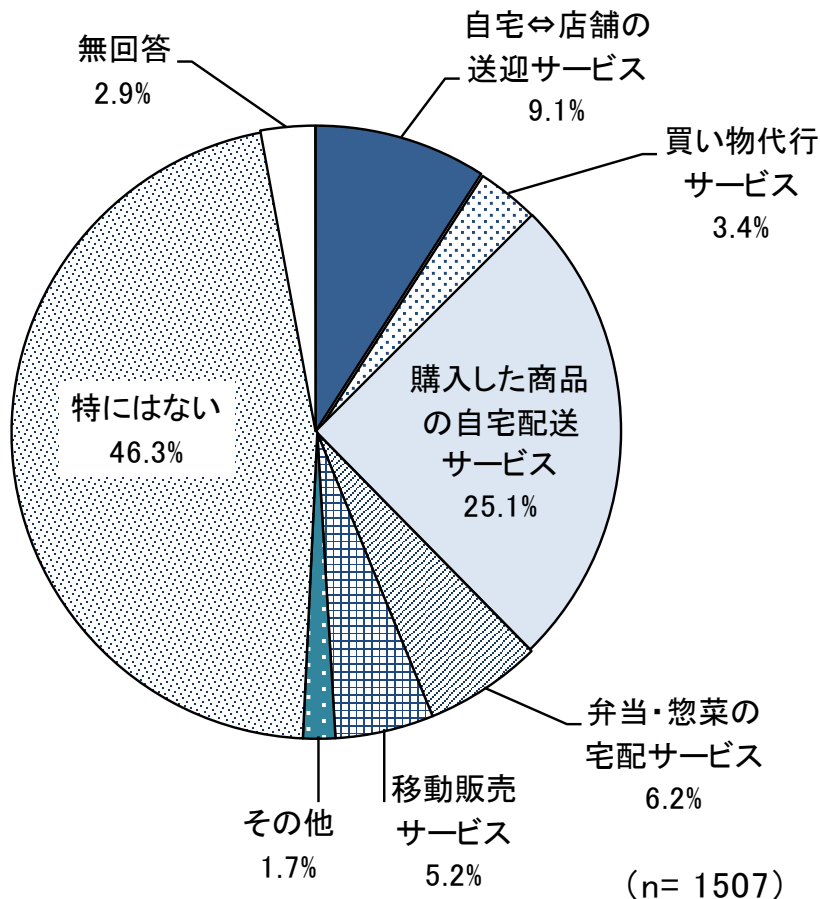
※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」 - 1

毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービスについて尋ねたところ、「購入した商品の自宅配送サービス」が最も多く挙げられた。一方で、「特にはない」との回答も半数近くを占めている。

自由回答では、インターネットでの販売サービスや、お米の精米サービスなどが挙げられている。

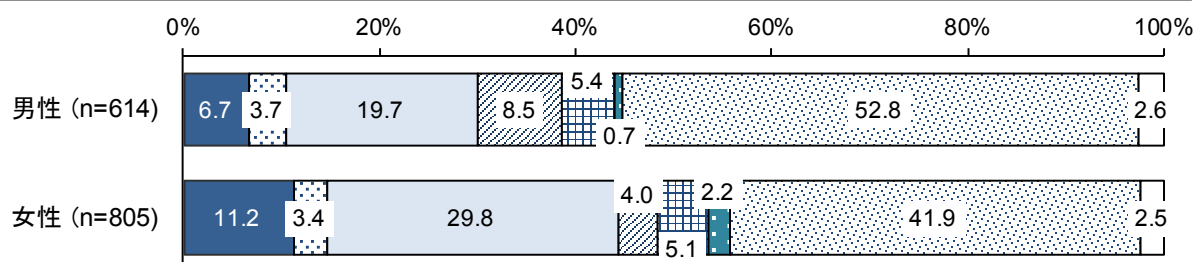
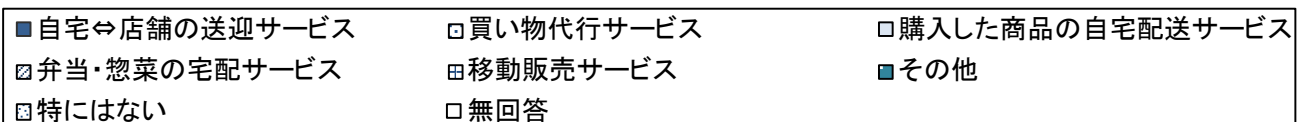
性別に見ると、女性では、「購入した商品の自宅配送サービス」「自宅⇄店舗の送迎サービス」などの割合が高い。



【自由回答より抜粋】

- ・インターネットによる買物の充実化
- ・精米サービス、玄米→白米

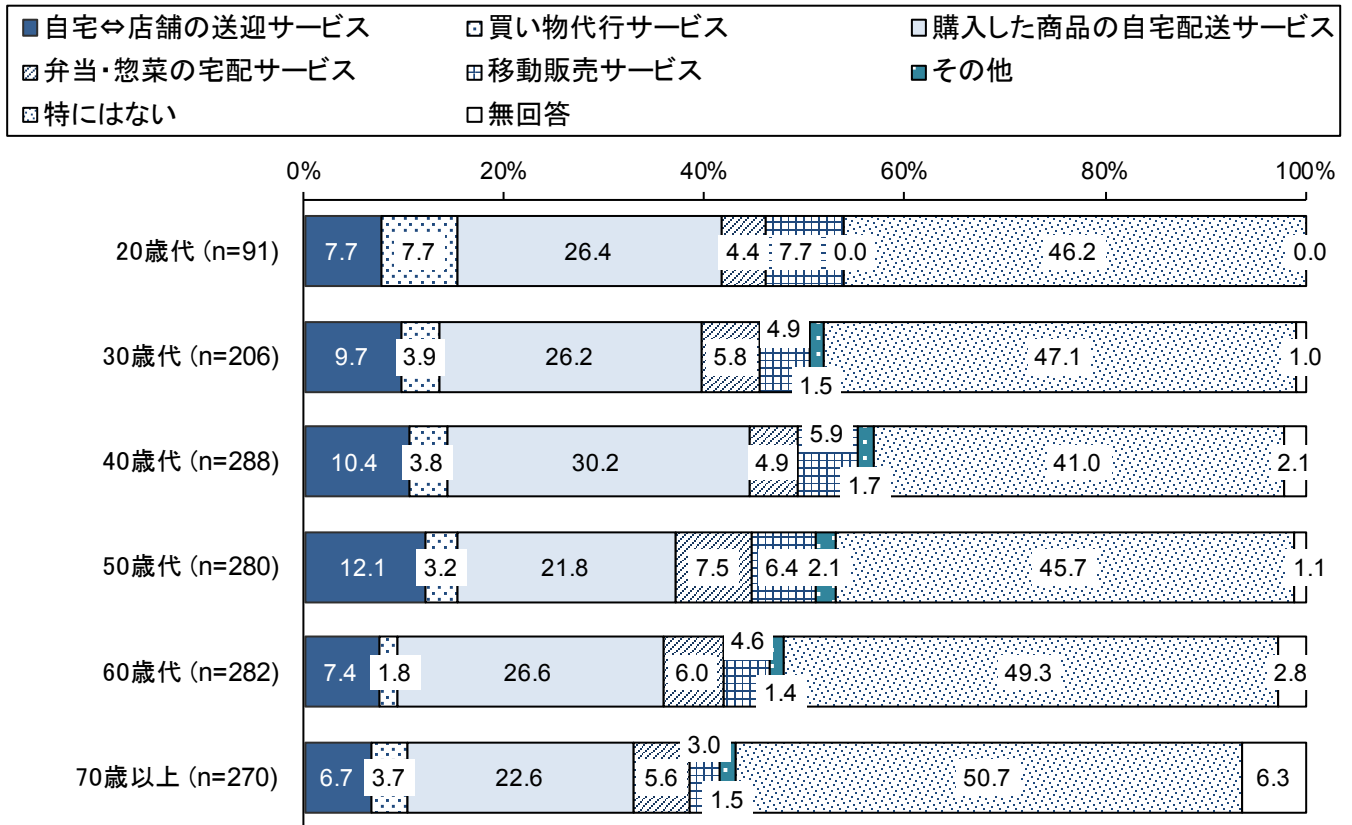
【問9_性別】



「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」 - 2

年代別に見ると、40歳代で「購入した商品の自宅配送サービス」の割合がやや高い。また、高齢層では年代が高いほど「特にはない」の割合が高くなる傾向が見られる。

【問9_年代別】



「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」 - 3

同居家族別に見ると、祖母や15歳未満の子供と同居している層で「自宅⇔店舗の送迎サービス」などが高いほか、ひとり暮らしの層では「弁当・惣菜の宅配サービス」の割合が高いなど、問8の買物で困っている内容に対応するサービスの割合が高くなっている。

【問9_同居家族別】

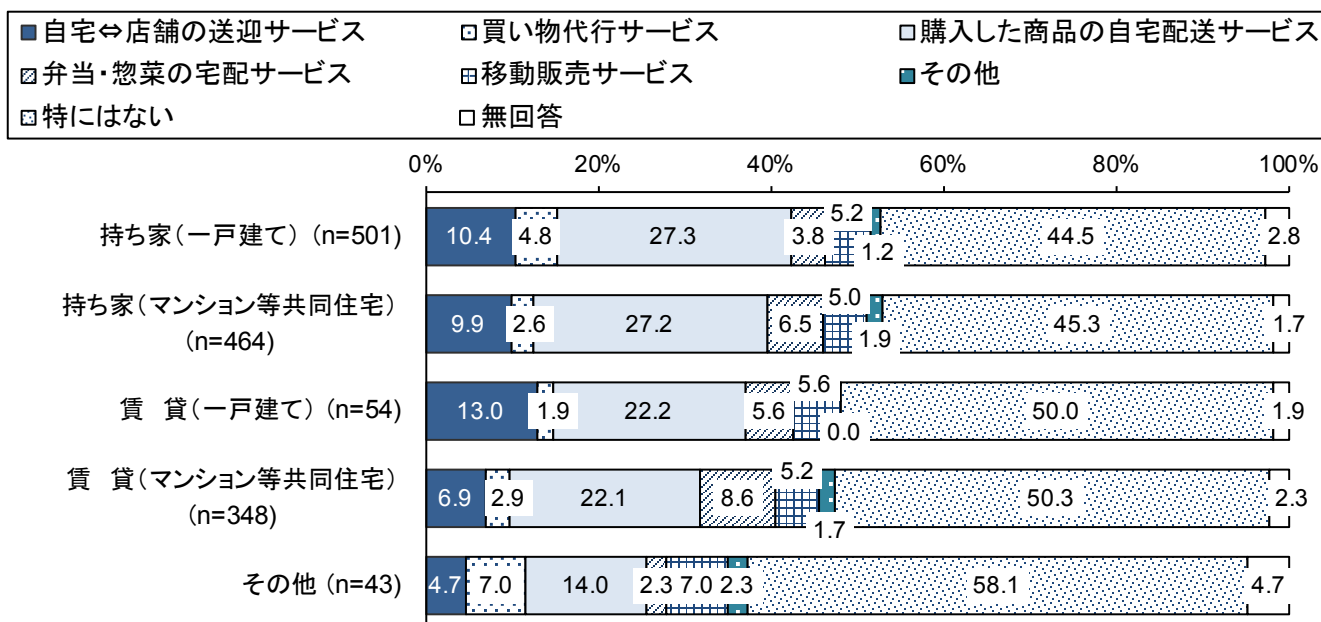
		サ ー ビ ス	自 宅 ⇔ 店 舗 の 送 迎	ス 買 い 物 代 行 サ ー ビ ス	宅 購 入 し た 商 品 の 自 配 送	サ ー ビ ス ・ 惣 菜 の 宅 配	移 動 販 売 サ ー ビ ス	そ の 他	特 に は な い	無 回 答	(%)
	n=										
全体	1,507		9.1	3.4	25.1	6.2	5.2	1.7	46.3	2.9	
祖父（義祖父）	4		-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	
祖母（義祖母）	20		20.0	10.0	40.0	5.0	-	-	25.0	-	
父（義父）	105		7.6	7.6	30.5	2.9	8.6	-	42.9	-	
母（義母）	190		8.9	5.8	31.6	3.2	5.8	-	44.7	-	
配偶者	908		9.4	3.1	26.9	4.6	5.5	1.5	46.8	2.2	
兄弟姉妹	65		7.7	6.2	29.2	6.2	7.7	-	43.1	-	
子（15歳未満）	263		11.8	4.6	28.1	4.6	7.6	1.5	39.5	2.3	
子（15歳以上）	381		8.9	2.9	26.8	4.2	5.5	2.4	46.2	3.1	
孫（15歳未満）	16		6.3	6.3	12.5	-	6.3	-	68.8	-	
孫（15歳以上）	18		5.6	-	22.2	-	5.6	-	55.6	11.1	
ひとり暮らし	262		8.4	2.3	12.6	12.2	4.6	1.1	55.3	3.4	
その他	38		10.5	2.6	28.9	-	5.3	5.3	44.7	2.6	

「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」 - 4

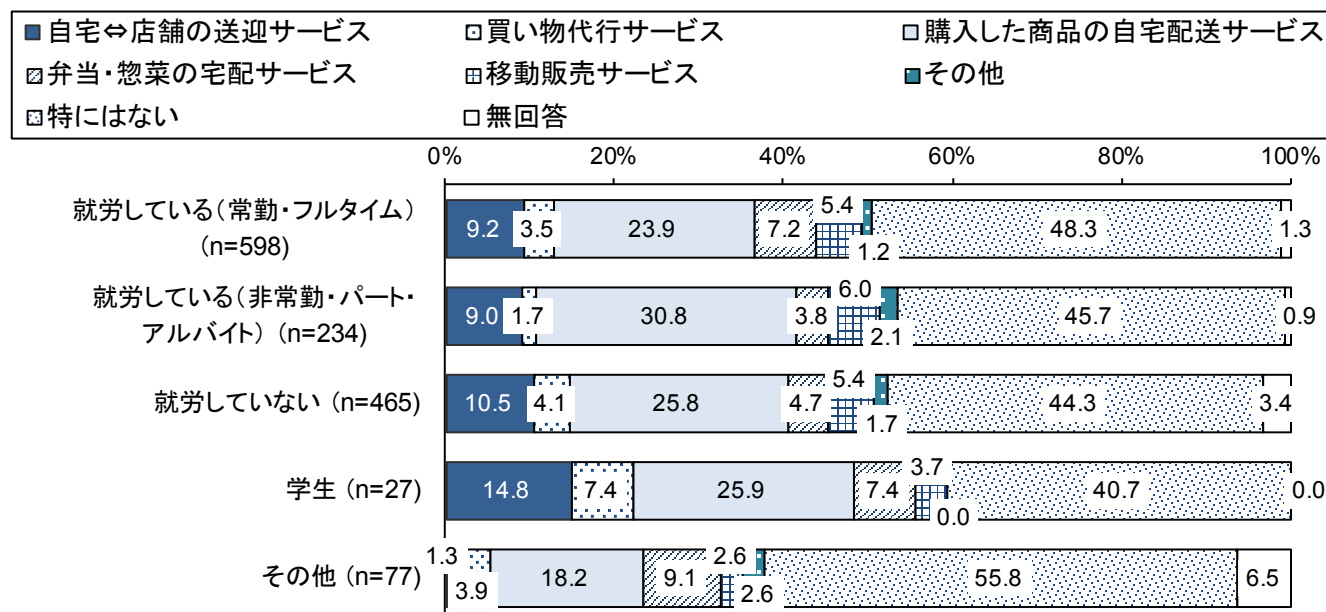
居住形態別に見ると、持ち家の各層では「購入した商品の自宅配送サービス」はそれぞれ3割近くを占めて高い。また、一戸建ての各層では「自宅⇄店舗の送迎サービス」の割合が他の層に比べやや高い。

就労状況別では、非常勤・パート・アルバイト層で「購入した商品の自宅配送サービス」の割合が3割超と高い。

【問9_居住形態別】



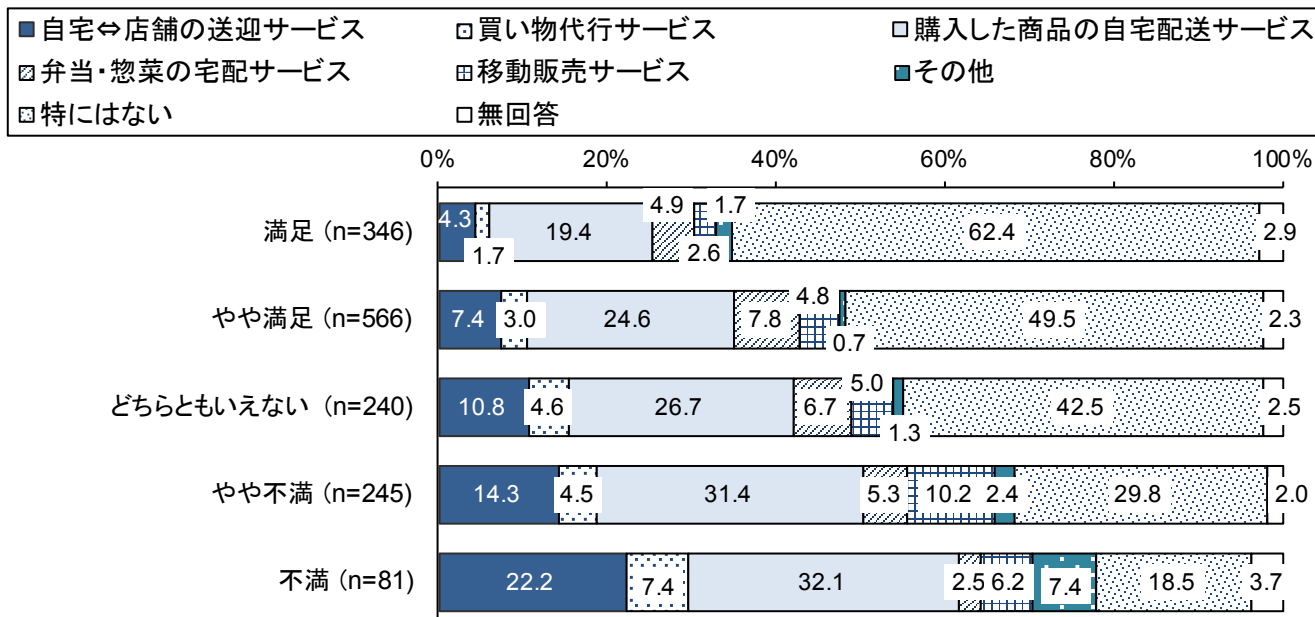
【問9_就労状況別】



「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」 - 5

日常の買い物の利便性に対する満足度別に見ると、満足度が低くなるに従って「購入した商品の自宅配送サービス」「自宅⇄店舗の送迎サービス」の割合がそれぞれ高くなる傾向にある。

【問9_「日常の買い物の利便性」満足度別】



「問9 毎日の食事に関する買物への支援として使ってみたいサービス」－6

地区別に見ると、C地区・L地区で「購入した商品の自宅配送サービス」の割合がそれぞれ全体を大きく上回っている。

【問9_地区別】

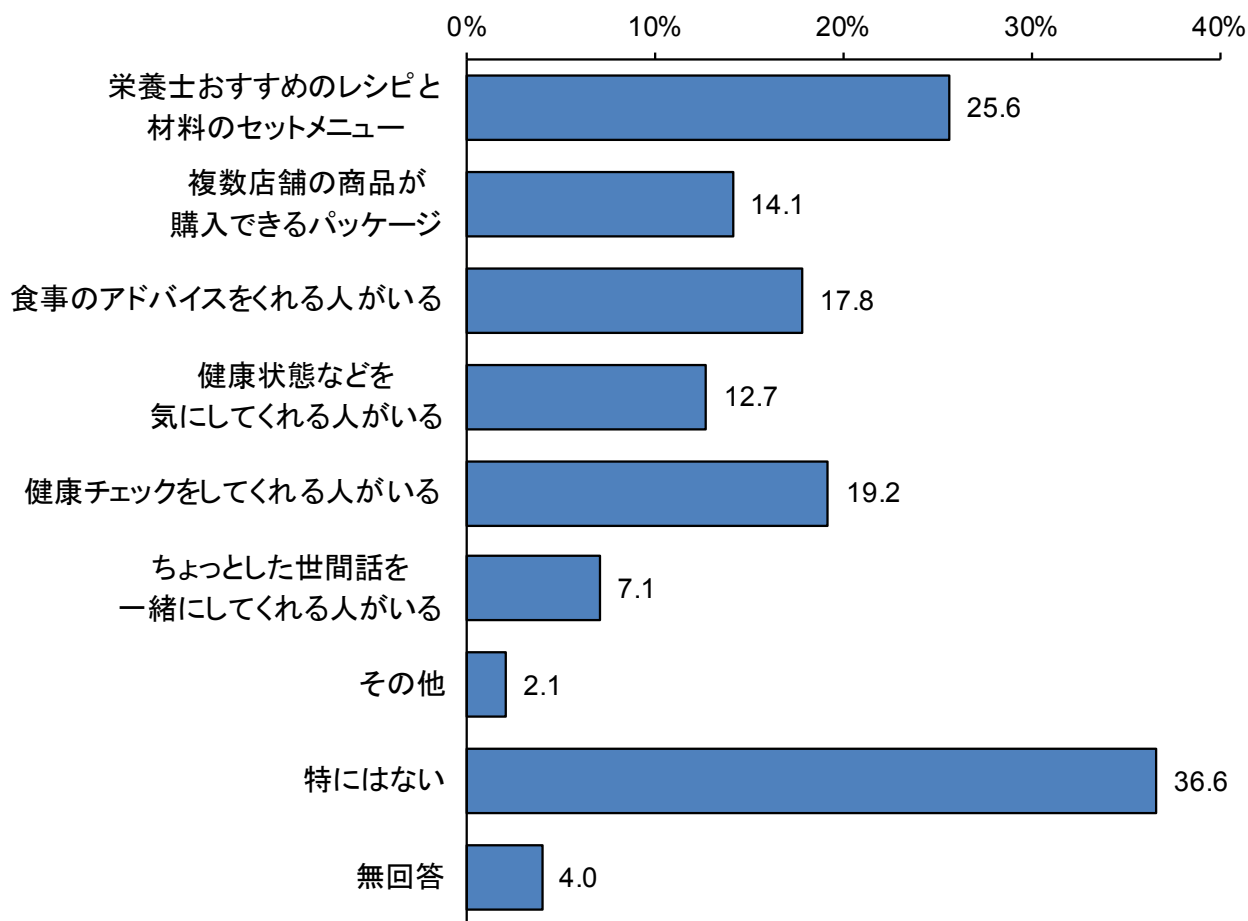
		サ ー ビ ス	自 宅 ⇄ 店 舗 の 送 迎	ス 買 い 物 代 行 サ ー ビ ス	宅 購 入 し た 商 品 の 自 宅 配 送 サ ー ビ ス	サ 弁 当 ビ ス ・ 惣 菜 の 宅 配	移 動 販 売 サ ー ビ ス	そ の 他	特 に は な い	(%) 無 回 答
	n=									
全体	1,507	9.1	3.4	25.1	6.2	5.2	1.7	46.3	2.9	
A地区（第1北部地区）	79	8.9	1.3	19.0	10.1	3.8	2.5	50.6	3.8	
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	3.9	1.3	22.1	10.4	2.6	1.3	57.1	1.3	
C地区（関内地区）	38	13.2	5.3	36.8	5.3	5.3	2.6	28.9	2.6	
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	5.4	4.3	18.5	9.8	6.5	2.2	45.7	7.6	
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	3.1	3.1	-	9.4	3.1	3.1	62.5	15.6	
F地区（石川打越地区）	52	11.5	3.8	25.0	3.8	7.7	5.8	42.3	-	
G地区（第2地区）	197	8.6	2.0	26.9	8.6	4.6	0.5	46.7	2.0	
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	15.2	6.2	31.1	3.5	4.7	1.6	36.6	1.2	
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	3.8	1.9	22.9	2.9	7.6	-	56.2	4.8	
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	2.8	4.2	21.1	5.6	7.0	1.4	57.7	-	
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	9.0	5.0	23.4	4.5	6.3	0.9	48.6	2.3	
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	17.8	-	38.3	2.8	5.6	1.9	31.8	1.9	
M地区（新本牧地区）	81	-	3.7	21.0	6.2	2.5	2.5	64.2	-	

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」（複数回答）－ 1

毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組については、「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」が最も多く挙げられ、次いで「健康チェックをしてくれる人がいる」「食事のアドバイスをくれる人がいる」の順となっている。

自由回答では、残り物を利用したレシピや簡単なレシピ等の機能性を持たせたレシピの紹介や、量り売りといった個別対応についての回答などが寄せられた。



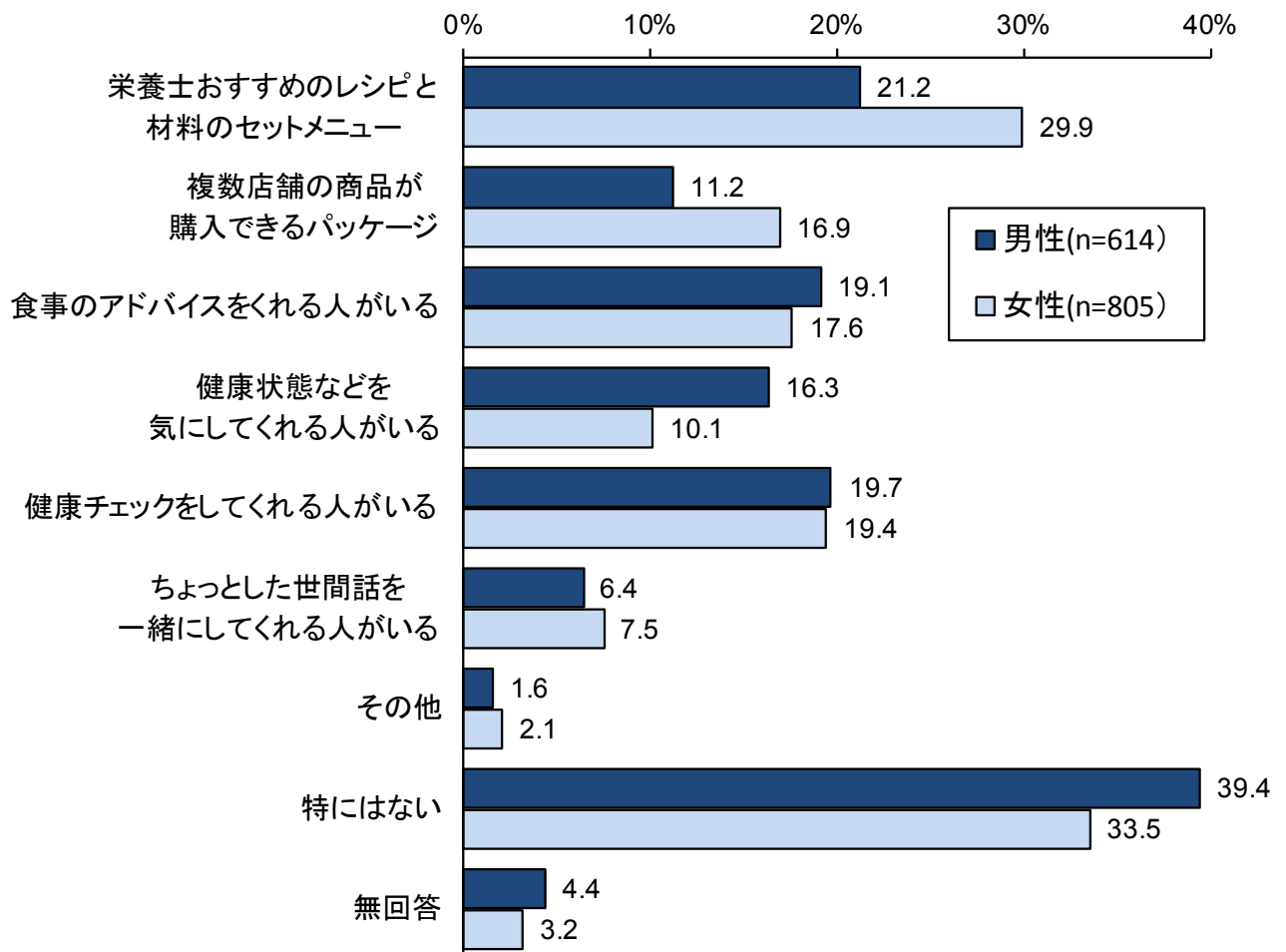
【自由回答より抜粋】

- ・楽チンレシピ、お安いレシピ、おもしろレシピを提供してくれる人がいる。
- ・マイ容器、計り売りで割引
- ・他店の情報（地域内のベンチマーク制度）が店で見れる

「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」（複数回答）－ 2

性別に見ると、男性では「健康状態などを気にしてくれる人がある」といった生活面でのプラスアルファの取組、女性では「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」「複数店舗の商品が購入できるパッケージ」といった献立作りや買物の補助の取組の割合がそれぞれ高くなっている。

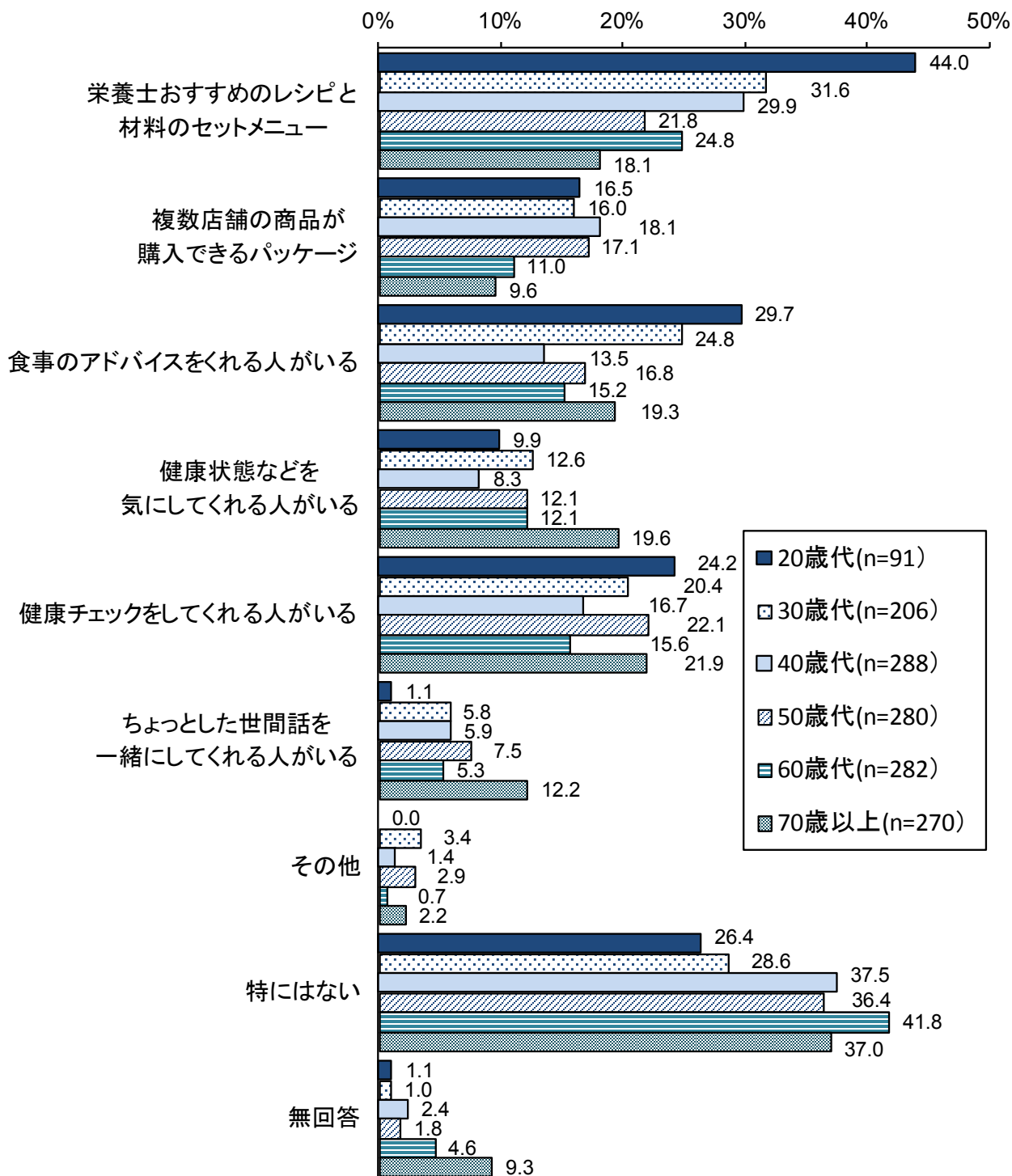
【問 10_性別】



「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」(複数回答) - 3

年代別に見ると、若年層では「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」「食事のアドバイスをくれる人がある」など、直接食事に関わる取組が多く挙げられる一方で、70歳以上では「健康状態などを気にしてくれる人がある」「ちょっとした世間話を一緒にしてくれる人がある」など、人との触れ合いを求めている事がうかがえる。

【問 10_年代別】



「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」(複数回答) - 4

同居家族別に見ると、孫と同居している層やひとり暮らし層などで「健康状態などを気にしてくれる人がいる」の割合が高くなっている。

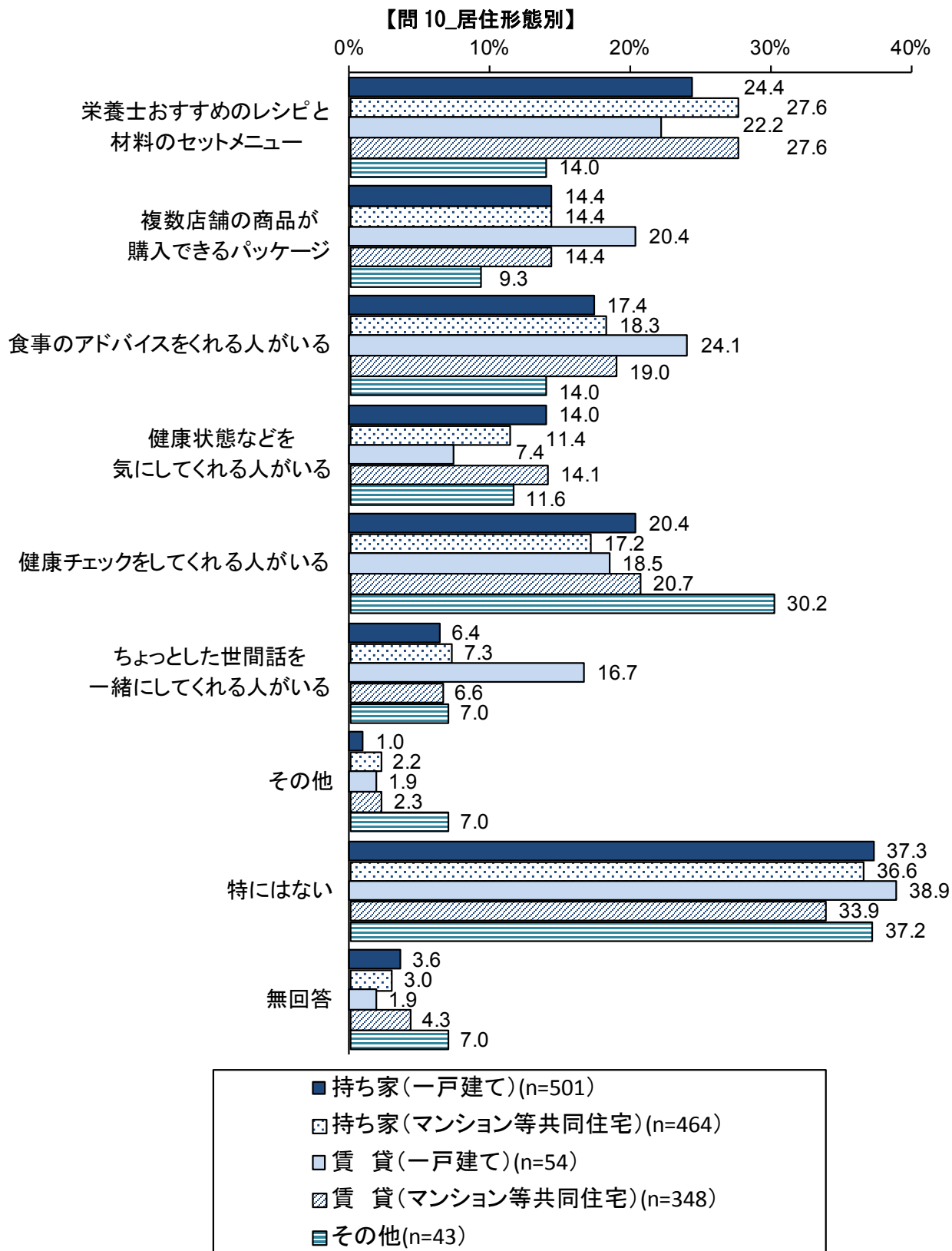
【問 10_同居家族別】

(%)

	n=	の栄 セ養 ツ士 トお メす ニユ ー のレ シピ と材 料	パ複 ツ数 ケ店 ー舗 ジの 商品 が購 入で きる	い食 る事 の アド バイ スを くれ る人 が	人健 が康 いる状態 などを 気にし てくれ る	い健 る康 チエ ツク をし てくれ る人 が	てち くよ つと し た世 間話 を一 緒にし	そ の 他	特 には ない	無 回 答
全体	1,507	25.6	14.1	17.8	12.7	19.2	7.1	2.1	36.6	4.0
祖父(義祖父)	4	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0	-
祖母(義祖母)	20	35.0	10.0	20.0	5.0	35.0	5.0	5.0	15.0	-
父(義父)	105	37.1	16.2	22.9	9.5	22.9	2.9	1.0	33.3	1.0
母(義母)	190	35.8	13.2	20.5	9.5	23.7	5.3	1.6	35.8	1.1
配偶者	908	26.0	15.5	17.3	12.1	17.0	5.8	1.9	36.7	3.3
兄弟姉妹	65	36.9	18.5	15.4	7.7	24.6	6.2	-	30.8	3.1
子(15歳未満)	263	29.3	15.6	18.6	8.0	17.9	5.3	2.3	33.8	2.7
子(15歳以上)	381	23.1	14.7	18.6	13.9	19.4	9.2	1.6	38.6	3.7
孫(15歳未満)	16	12.5	-	12.5	25.0	18.8	25.0	-	43.8	6.3
孫(15歳以上)	18	22.2	11.1	11.1	16.7	11.1	16.7	5.6	33.3	11.1
ひとり暮らし	262	22.9	11.1	19.5	14.9	20.6	8.8	1.9	38.5	3.8
その他	38	13.2	13.2	18.4	10.5	31.6	5.3	5.3	34.2	5.3

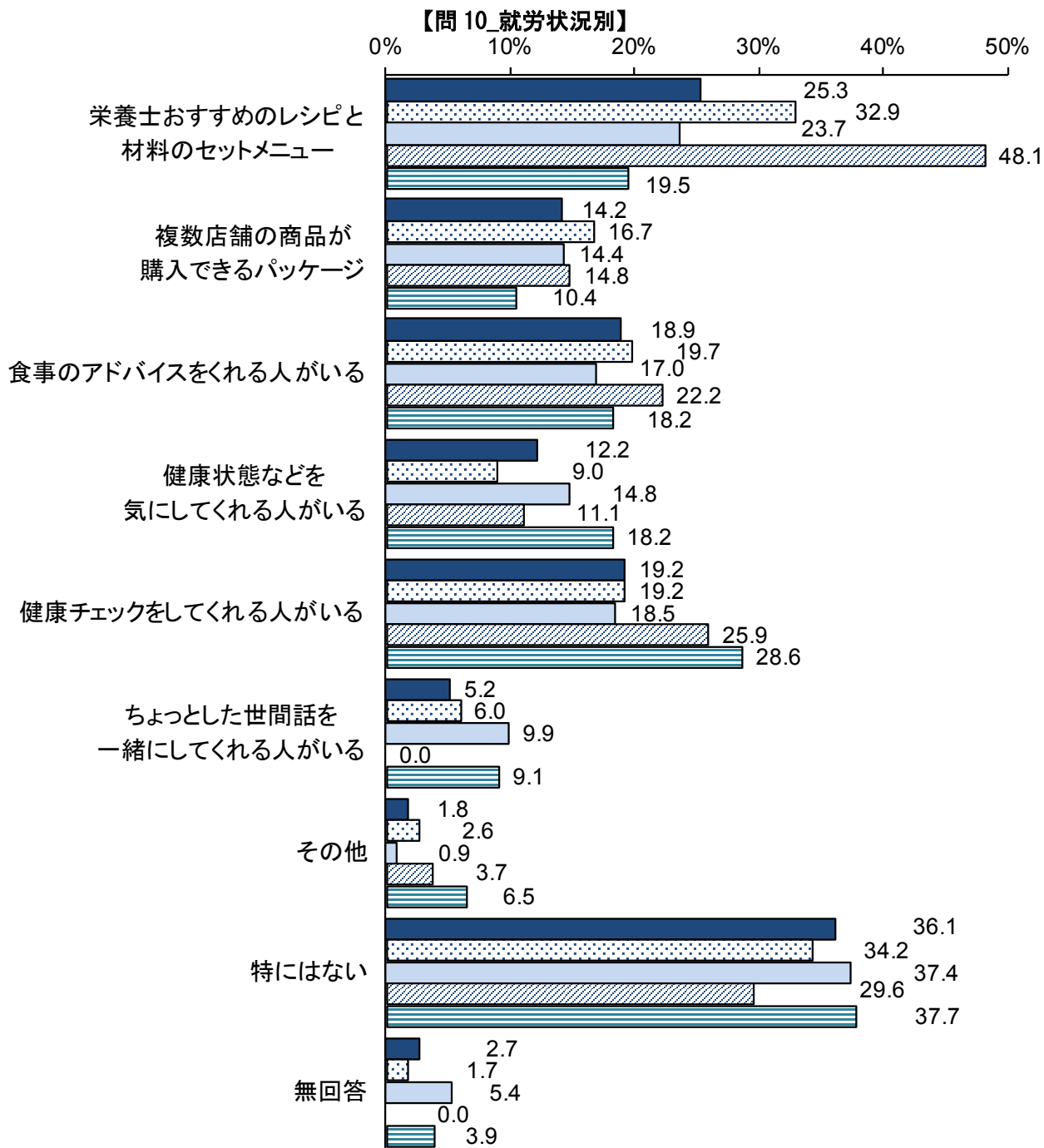
「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」（複数回答）－ 5

居住形態別に見ると、賃貸一戸建ての層で「複数店舗の商品が購入できるパッケージ」「食事のアドバイスをくれる人がある」「ちょっとした世間話を一緒にしてくれる人がある」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっている。



「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」(複数回答) - 6

就労状況別に見ると、学生で「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」が半数近くを占め、他の層に比べて特に高くなっている。

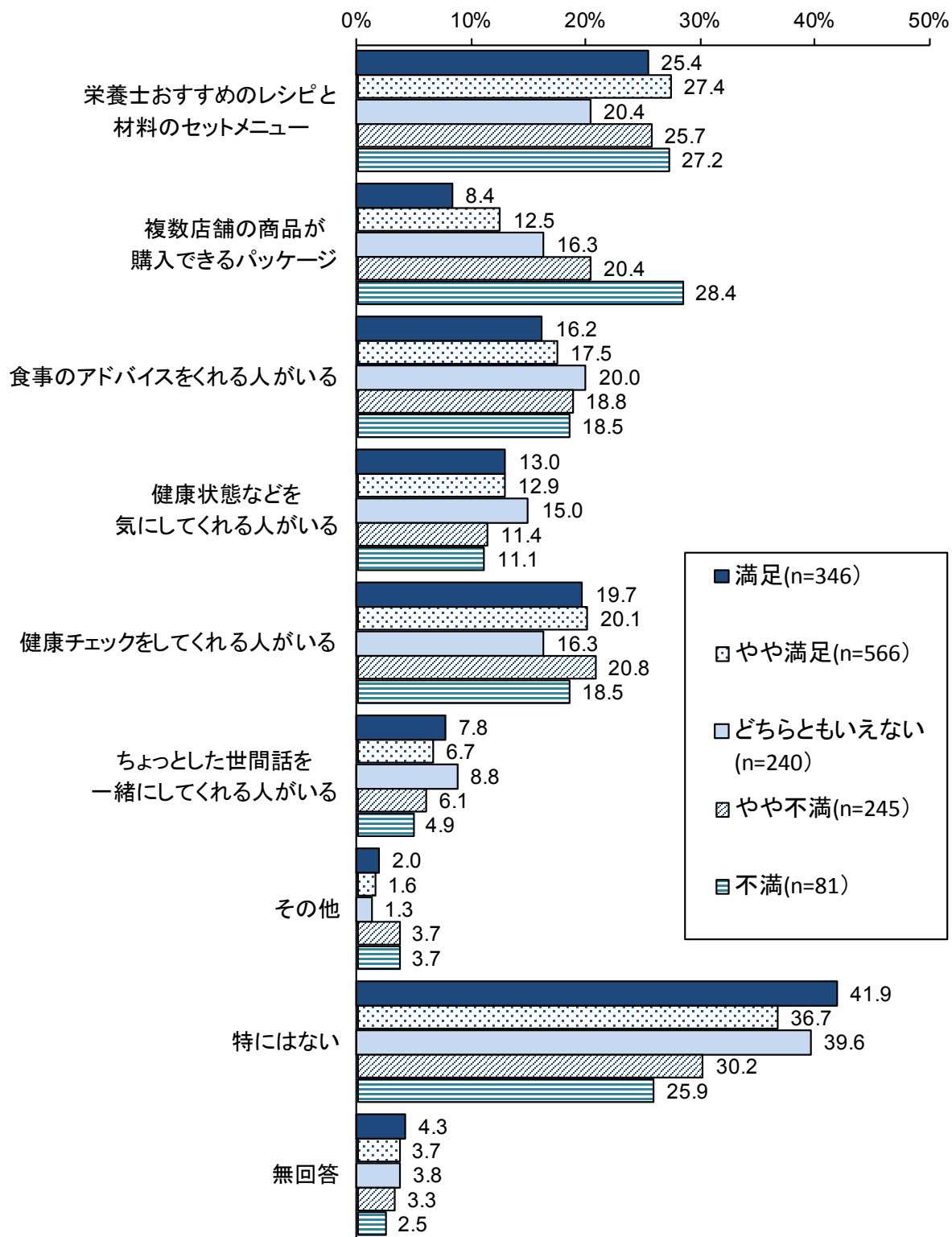


■ 就労している(常勤・フルタイム)(n=598)
 □ 就労している(非常勤・パート・アルバイト)(n=234)
 □ 就労していない(n=465)
 ▨ 学生(n=27)
 ▨ その他(n=77)

「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」（複数回答）－ 7

日常の買い物の利便性に対する満足度別に見ると、満足度が低くなるに従って「複数店舗の商品が購入できるパッケージ」の割合が高くなる傾向にある。また、「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」「健康チェックをしてくれる人がいる」などではどちらともいえない層の割合がやや低いものの、その他の各層の割合は満足度に関らず一定の水準にとどまっている。

【問 10_「日常の買い物の利便性」満足度別】



「問 10 毎日の食事に関する買い物支援のプラスアルファとしてよいと思う取組」(複数回答) - 8

地区別に見ると、F地区で「健康チェックをしてくれる人がいる」の割合が全体を大きく上回る一方、E地区で「栄養士おすすめのレシピと材料のセットメニュー」、M地区で「複数店舗の商品が購入できるパッケージ」の割合がそれぞれ全体を大きく下回っている。

【問 10_地区別】

(%)

	n=	と栄 材養 料士 のお すす め のレ シピ	き複 る数 パツ ケの ー商 ジ品 が購 入で	る食 人が いる アド バイ スを くれ	く健 康状 態な どを 気に して	る健 康チ ェツ クを して くれ	緒ち にし つと くし た世 人間 話が い	そ の 他	特 に は な い	無 回 答
全体	1,507	25.6	14.1	17.8	12.7	19.2	7.1	2.1	36.6	4.0
A地区 (第1北部地区)	79	35.4	15.2	20.3	11.4	16.5	2.5	-	32.9	3.8
B地区 (第1地区中部のうち、長者町を除く)	77	26.0	14.3	20.8	19.5	23.4	13.0	2.6	39.0	-
C地区 (関内地区)	38	26.3	18.4	10.5	21.1	10.5	5.3	2.6	39.5	7.9
D地区 (埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	92	27.2	18.5	21.7	10.9	17.4	7.6	1.1	29.3	9.8
E地区 (寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	32	6.3	-	15.6	18.8	21.9	9.4	3.1	40.6	18.8
F地区 (石川打越地区)	52	15.4	11.5	11.5	19.2	34.6	15.4	7.7	28.8	1.9
G地区 (第2地区)	197	25.4	11.2	20.8	10.7	23.9	6.1	2.0	38.1	3.0
H地区 (第3地区のうち、滝之上を除く)	257	29.2	18.3	17.5	8.9	15.6	5.4	1.2	36.2	2.7
I地区 (第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	105	28.6	12.4	17.1	12.4	24.8	8.6	1.0	39.0	4.8
J地区 (第4地区北部のうち、山手町を除く)	71	31.0	11.3	18.3	9.9	18.3	4.2	-	38.0	-
K地区 (本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	222	23.4	16.2	19.8	14.0	18.0	6.8	2.3	35.1	3.6
L地区 (第6地区のうち、山手町を除く)	107	24.3	19.6	15.9	15.9	21.5	7.5	0.9	29.9	3.7
M地区 (新本牧地区)	81	22.2	3.7	9.9	11.1	12.3	9.9	4.9	46.9	1.2

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

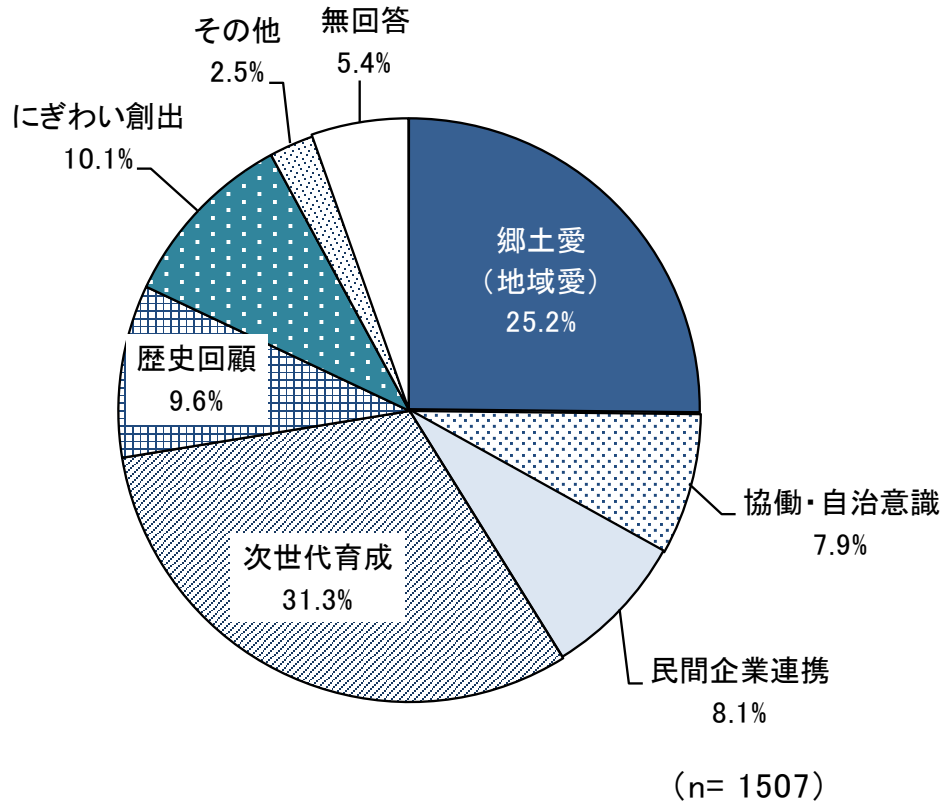
5. 「区制90周年記念事業」について

「問11 区制90周年を記念するにあたり最も重要だと思う視点」－1

区制90周年を記念するにあたり最も重要だと思う視点については、「次世代育成」が最も多く挙げられ、次いで「郷土愛」「にぎわい創出」の順となっている。

自由回答では、過去への感謝・将来に向けての回答などが寄せられた。

性別に見ると、男性では「歴史回顧」「にぎわい創出」、女性では「郷土愛」「次世代育成」の割合がそれぞれ高い。

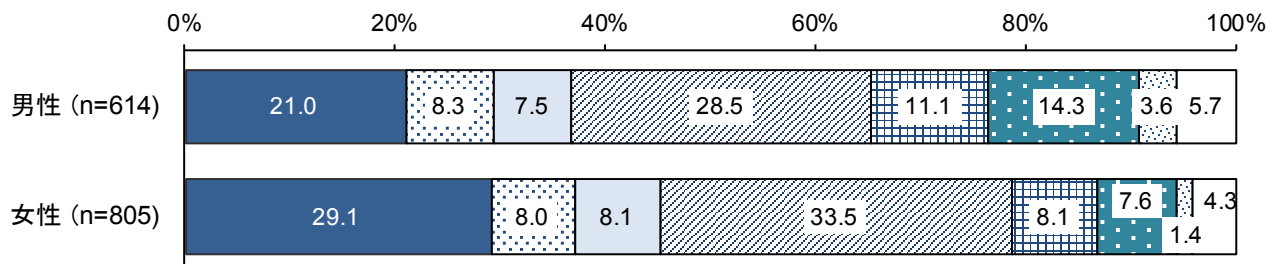


【自由回答より抜粋】

- ・ 将来の精神、心のあり方を考える。
- ・ 都市計画の発表…中区の将来像
- ・ 地道な努力により積み上げられた現在に感謝すること

【問11_性別】

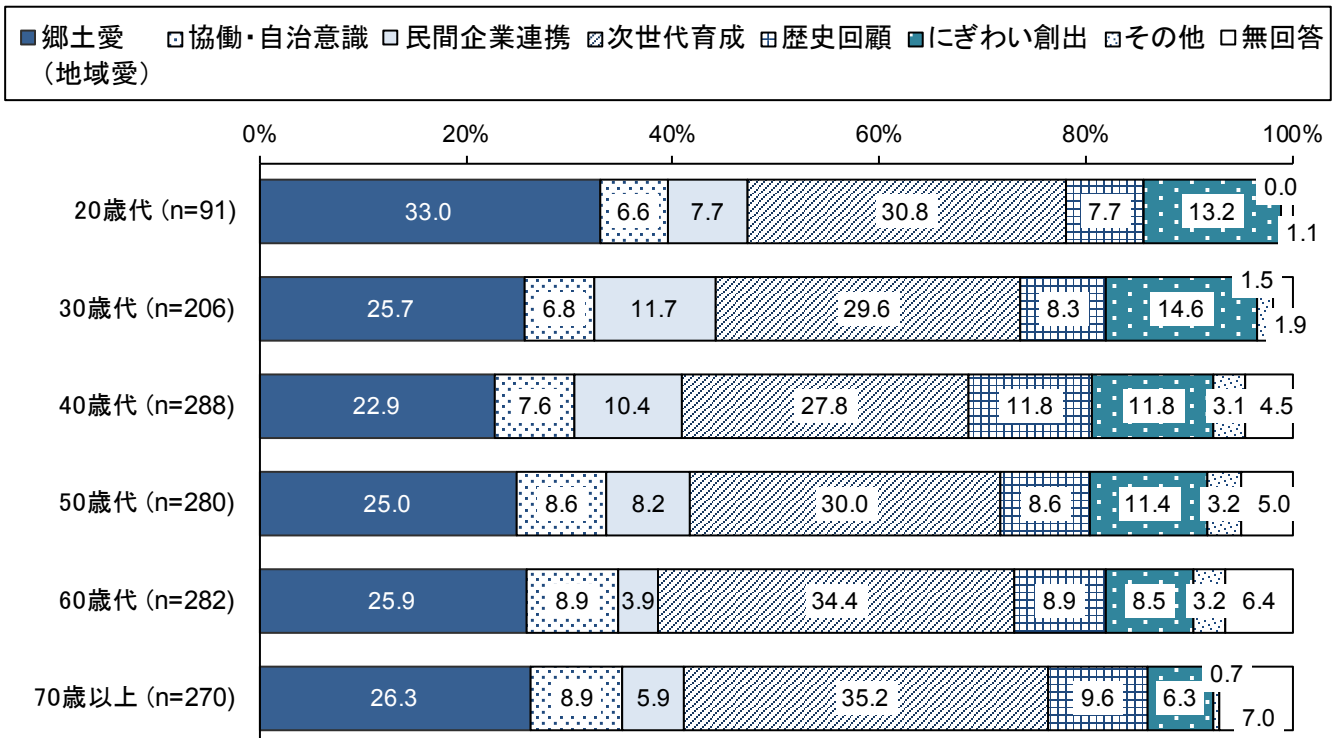
■ 郷土愛 (地域愛) □ 協働・自治意識 □ 民間企業連携 □ 次世代育成 □ 歴史回顧 ■ にぎわい創出 □ その他 □ 無回答



「問 11 区制90周年を記念するにあたり最も重要だと思う視点」－2

年代別に見ると、20歳代で「郷土愛」が3割を超えて高いほか、若年層では高齢層に比べ「にぎわい創出」の割合が高くなっている。

【問 11_年代別】



「問 11 区制90周年を記念するにあたり最も重要だと思う視点」－3

地区別に見ると、C地区・E地区で「にぎわい創出」の割合がそれぞれ全体を大きく上回る一方、C地区では「次世代育成」が全体を大きく下回る結果となった。

【問 11_地区別】

(%)

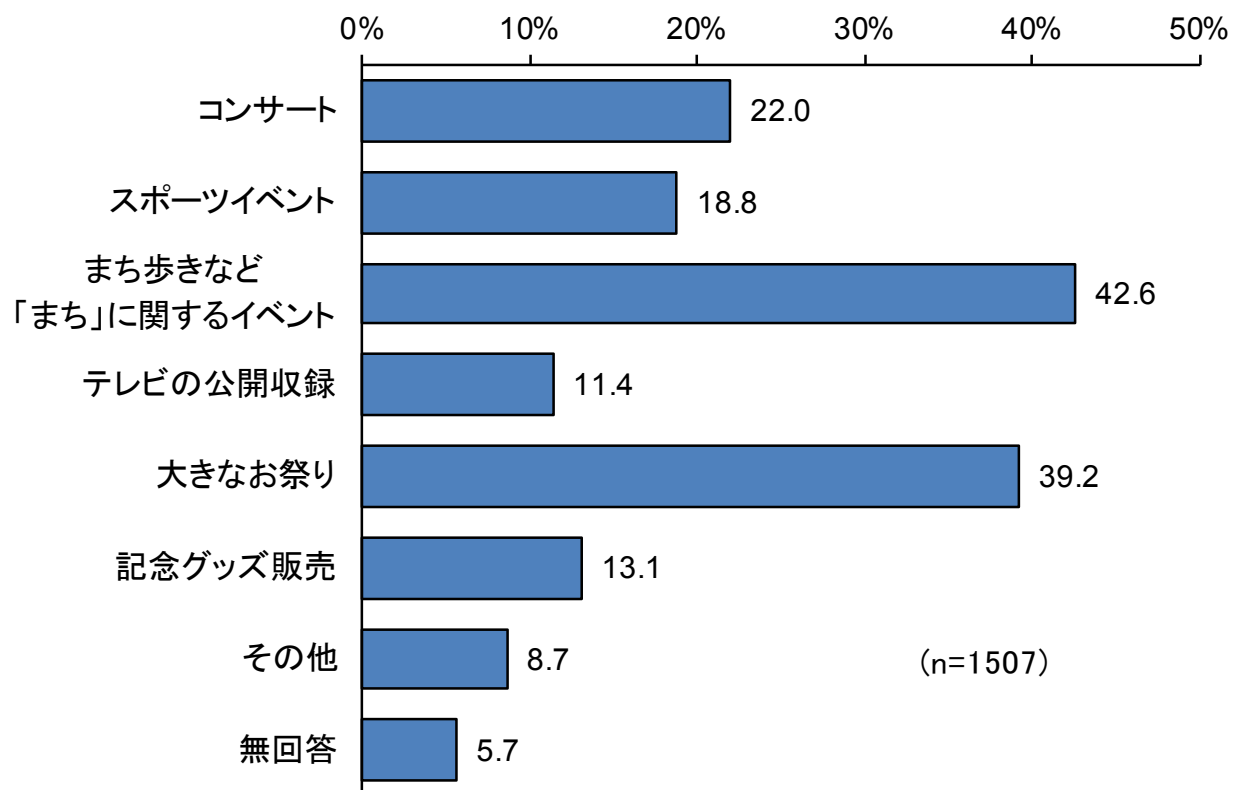
	n=	(郷土愛 地域愛)	識協働・自治意	民間企業連携	次世代育成	歴史回顧	にぎわい創出	その他	無回答
全体	1,507	25.2	7.9	8.1	31.3	9.6	10.1	2.5	5.4
A地区(第1北部地区)	79	30.4	8.9	5.1	31.6	6.3	11.4	1.3	5.1
B地区(第1地区中部のうち、長者町を除く)	77	24.7	5.2	5.2	32.5	14.3	11.7	2.6	3.9
C地区(関内地区)	38	26.3	10.5	10.5	21.1	7.9	21.1	-	2.6
D地区(埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	92	19.6	3.3	10.9	30.4	10.9	13.0	2.2	9.8
E地区(寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	32	18.8	3.1	9.4	28.1	6.3	21.9	6.3	6.3
F地区(石川打越地区)	52	26.9	9.6	5.8	26.9	15.4	9.6	3.8	1.9
G地区(第2地区)	197	29.9	9.6	7.6	28.4	8.6	10.2	3.0	2.5
H地区(第3地区のうち、滝之上を除く)	257	23.7	6.6	9.3	31.1	10.5	9.3	3.1	6.2
I地区(第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	105	24.8	5.7	7.6	35.2	10.5	8.6	2.9	4.8
J地区(第4地区北部のうち、山手町を除く)	71	21.1	16.9	4.2	38.0	11.3	4.2	-	4.2
K地区(本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	222	25.2	9.0	9.0	35.6	6.8	8.6	1.4	4.5
L地区(第6地区のうち、山手町を除く)	107	27.1	9.3	5.6	32.7	8.4	10.3	0.9	5.6
M地区(新本牧地区)	81	28.4	8.6	7.4	23.5	6.2	13.6	3.7	8.6

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

「問 12 区制 90 周年を迎えるにあたり行うとよいと思う記念事業」（複数回答）－ 1

区制 90 周年を迎えるにあたり行うとよいと思う記念事業については、「まち歩きなど『まち』に関するイベント」が最も多く挙げられ、僅差で「大きなお祭り」が続いている。

自由回答では、様々な人が参加しやすいイベントや中区に対しての理解が深まるイベントなどの回答が多く寄せられた一方で、税金を使ったイベントに対しては否定的な声も大きい。

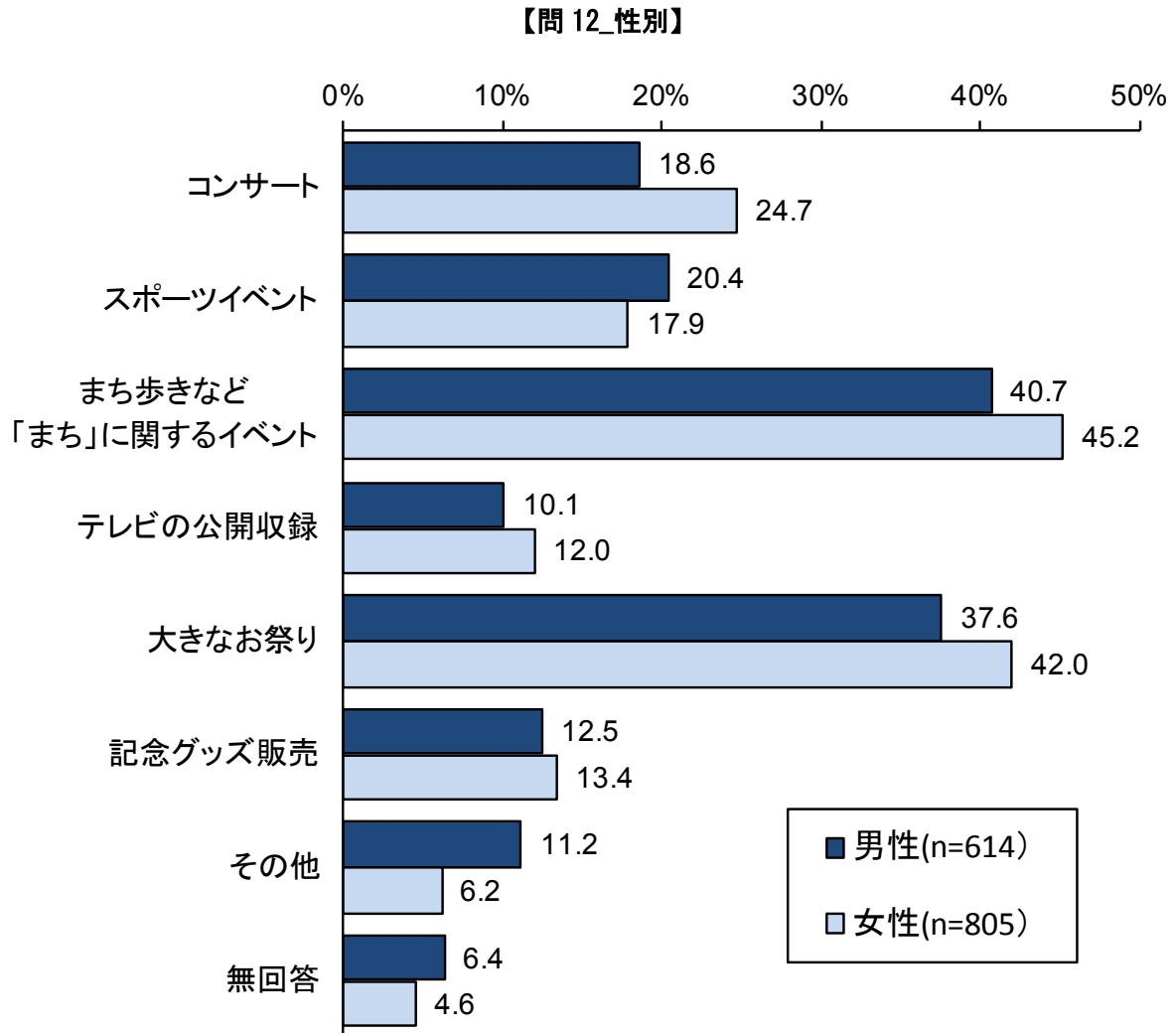


【自由回答より抜粋】

- ・ナカクイズ（中区に関するクイズ）を行い、中区を広く知ってもらおう。意外と接点のない外国人の方とふれあいたい。
- ・高齢者や子供も楽しめるもの
- ・お金がかかり過ぎたり、一部のしか楽しめない記念事業はいらない。（コンサート、ダンスとか）
- ・子供が中区に関心や誇りをもてるイベント
- ・お金のかからないボランティア中心の市民参加型

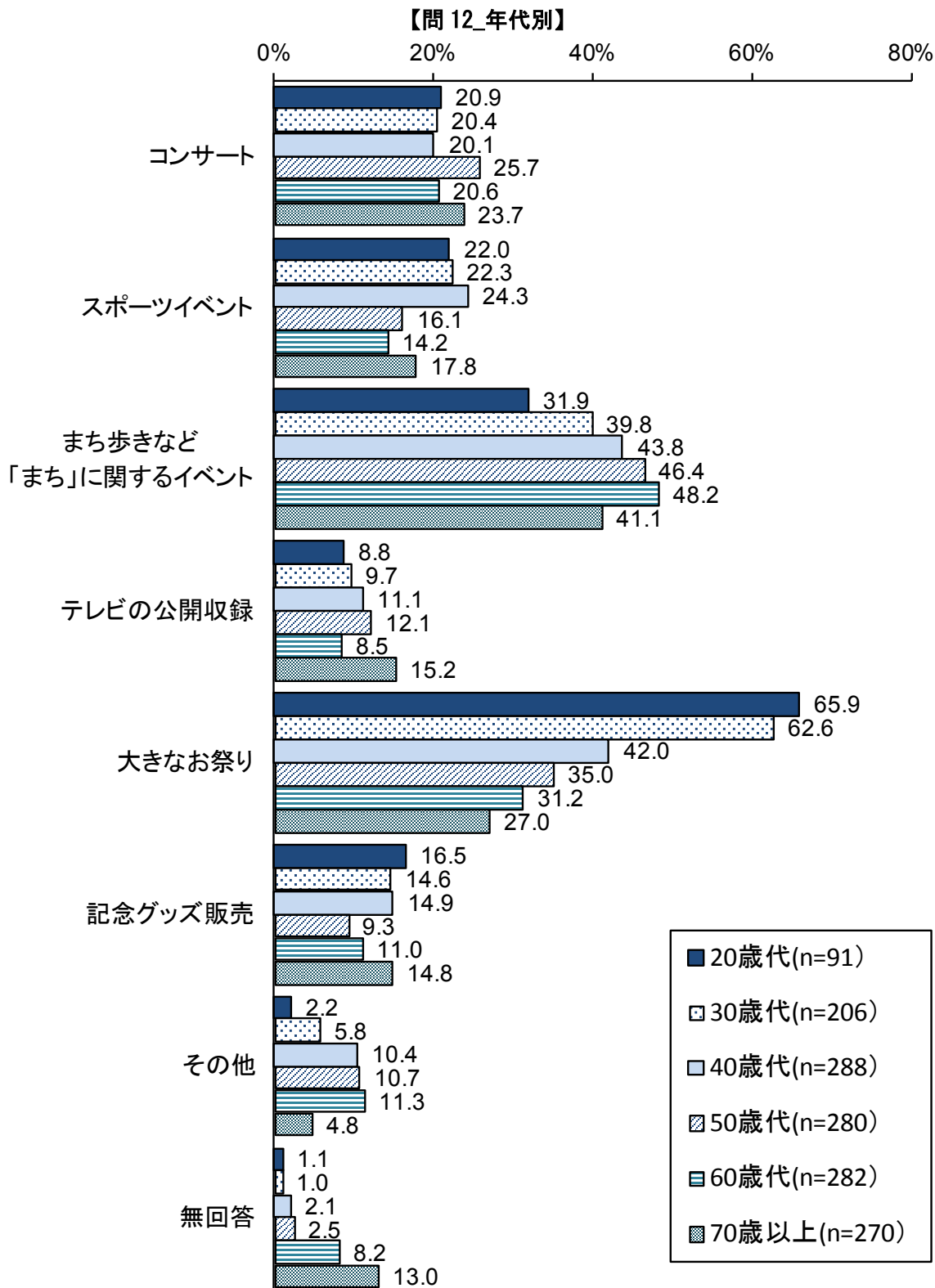
「問 12 区制 90 周年を迎えるにあたり行うとよいと思う記念事業」（複数回答）－ 2

性別に見ると、男性では「スポーツイベント」など一部項目が高い一方、女性では「コンサート」をはじめ多くの項目の割合が男性を上回る結果となっている。



「問 12 区制 90 周年を迎えるにあたり行うとよいと思う記念事業」（複数回答）－ 3

年代別に見ると、年代が若いほど「大きなお祭り」の割合も高くなっており、20 歳代では 7 割近くに迫っている。「スポーツイベント」は 40 歳代以前の割合と 50 歳代以降の割合との間にはっきりとした差が見られ、若年層におけるニーズが高いと考えられる。また、「テレビの公開収録」は、70 歳以上の割合が各年代で最も高い。



「問 12 区制 90 周年を迎えるにあたり行くとよいと思う記念事業」（複数回答）－ 4

地区別に見ると、C 地区で「コンサート」、B 地区・J 地区で「まち歩きなど『まち』に関するイベント」の割合がそれぞれ全体を大きく上回る一方、A 地区で「大きなお祭り」、F 地区で「まち歩きなど『まち』に関するイベント」の割合がそれぞれ全体を大きく下回る結果となった。

【問 12_地区別】

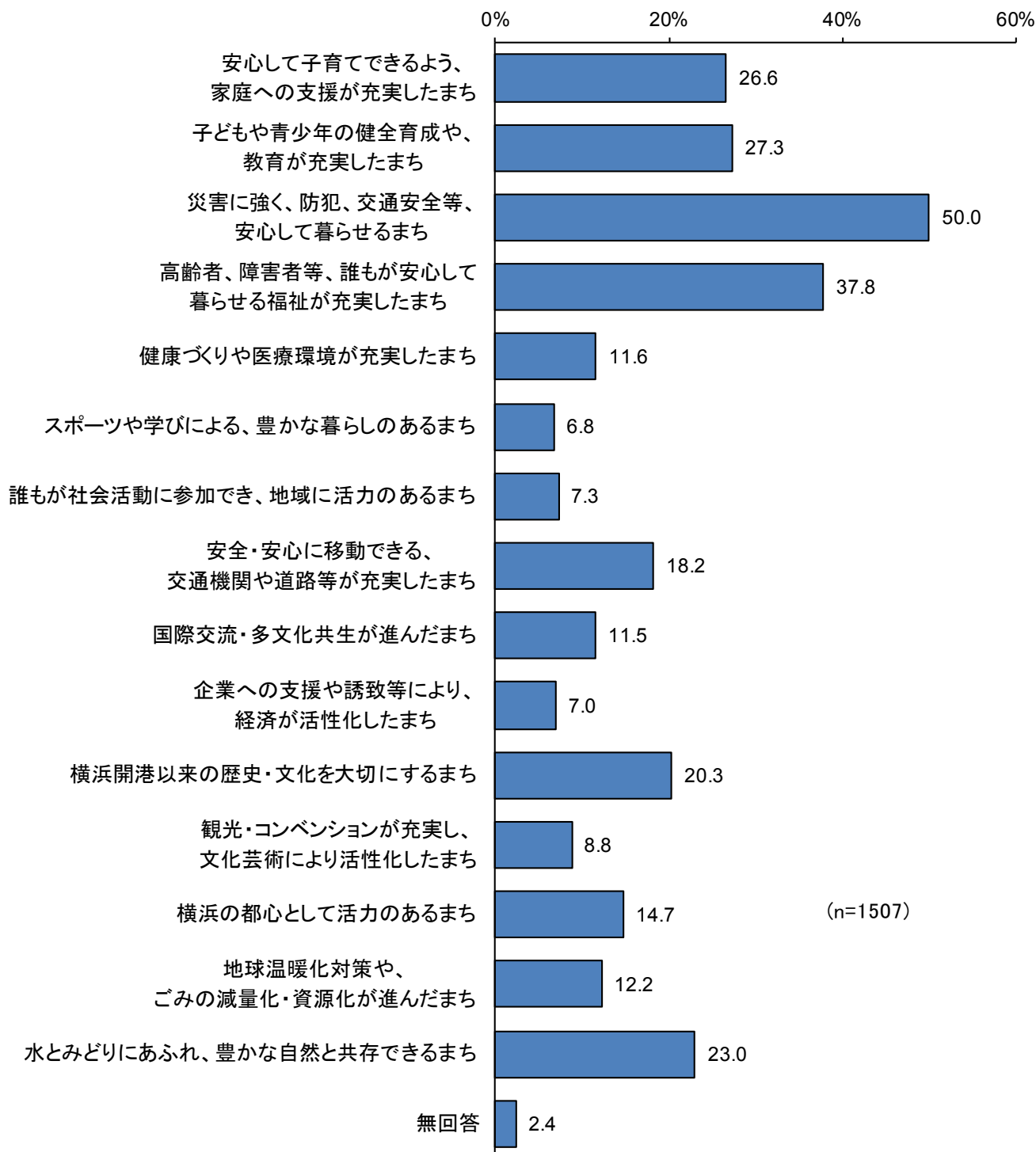
(%)

	n=	コンサート	スポーツイベント	まち歩きなど「まち」に関するイベント	テレビの公開収録	大きなお祭り	記念グッズ販売	その他	無回答
全体	1,507	22.0	18.8	42.6	11.4	39.2	13.1	8.7	5.7
A地区（第1北部地区）	79	22.8	22.8	44.3	12.7	22.8	8.9	10.1	6.3
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	15.6	18.2	54.5	11.7	41.6	15.6	5.2	2.6
C地区（関内地区）	38	34.2	13.2	44.7	15.8	44.7	10.5	13.2	5.3
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	25.0	19.6	35.9	10.9	42.4	17.4	7.6	8.7
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	15.6	15.6	40.6	15.6	31.3	9.4	9.4	9.4
F地区（石川打越地区）	52	15.4	13.5	30.8	11.5	38.5	13.5	19.2	3.8
G地区（第2地区）	197	24.9	24.4	42.1	12.7	44.2	15.2	6.6	4.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	23.0	21.4	43.2	12.1	36.2	12.1	9.7	5.1
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	24.8	15.2	37.1	10.5	44.8	12.4	10.5	5.7
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	16.9	22.5	56.3	9.9	42.3	12.7	4.2	2.8
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	20.3	16.7	46.4	9.5	41.9	13.1	6.3	7.2
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	20.6	10.3	40.2	9.3	44.9	12.1	7.5	6.5
M地区（新本牧地区）	81	27.2	19.8	43.2	8.6	37.0	9.9	11.1	2.5

※ 地区割りの詳細は、3 ページをご覧ください。

「問 13 区制 90 周年を迎える際、どのような『まち』になっていてほしいか」(3つまで回答) -1

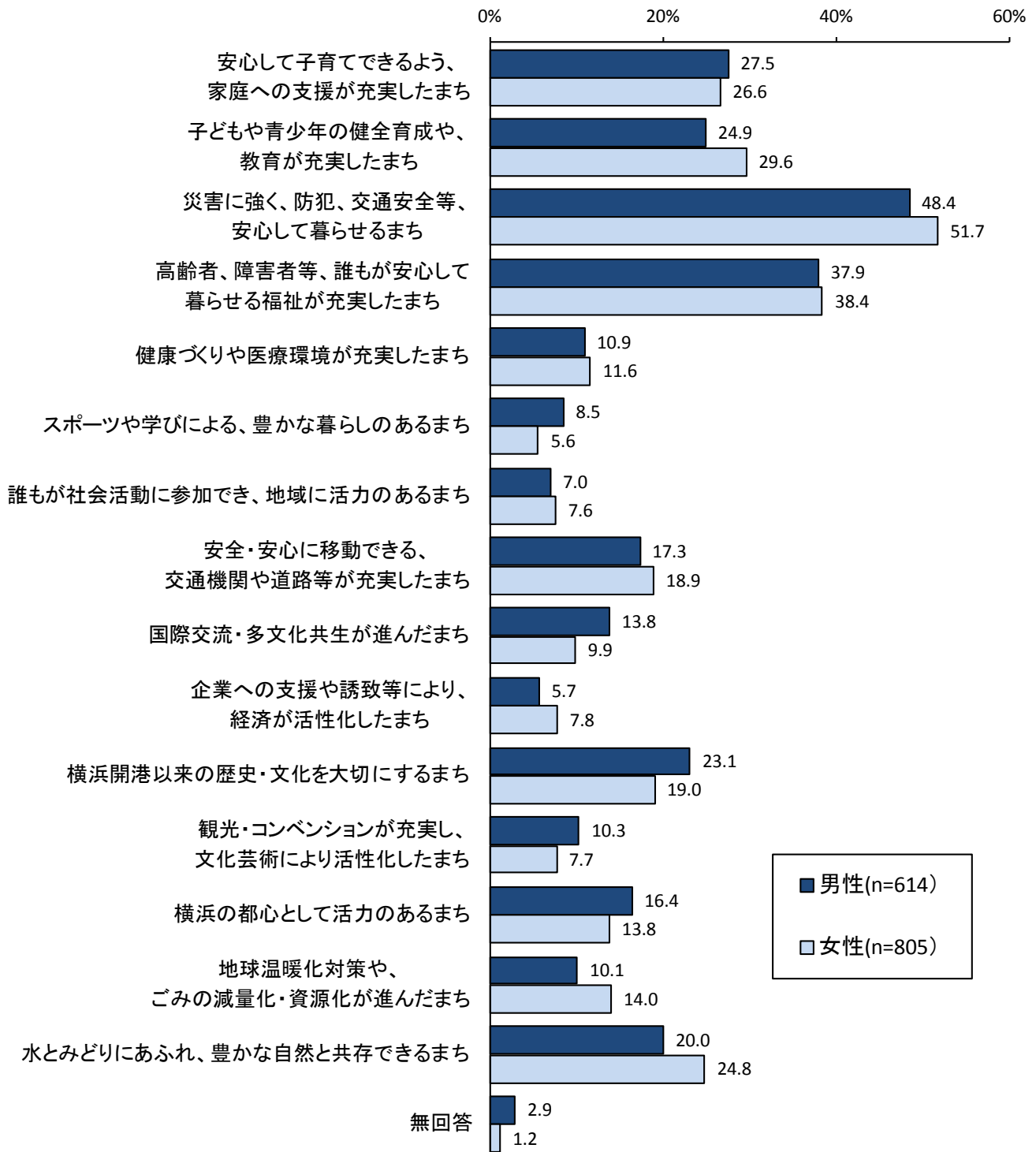
区制 90 周年を迎える際、どのような『まち』になっていてほしいか尋ねたところ、「災害に強く、防犯、交通安全等、安心して暮らせるまち」が半数を占めて最も多く挙げられている。



「問 13 区制 90 周年を迎える際、どのような『まち』になってほしいか」(3つまで回答) -2

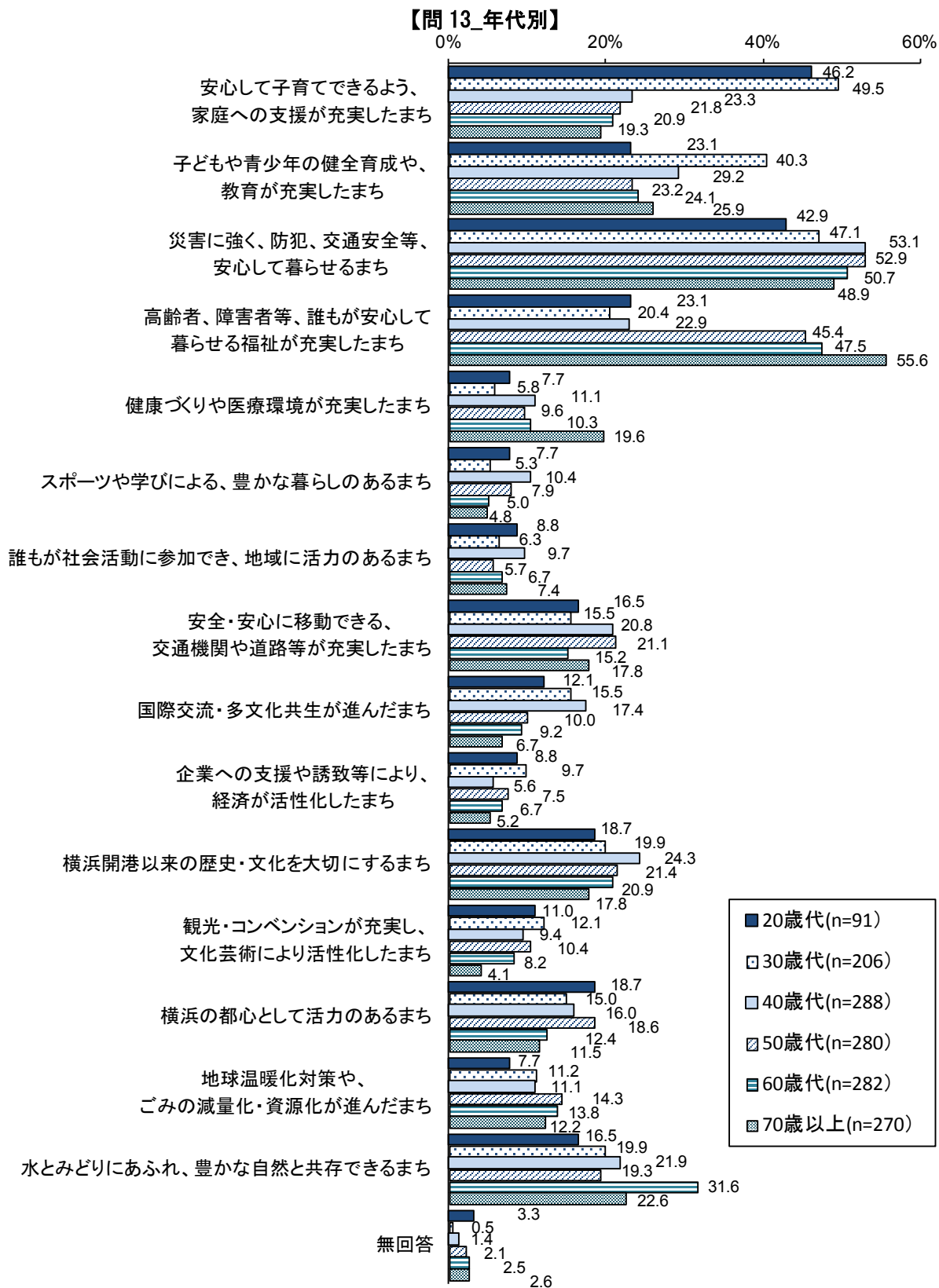
性別を見ると、男性では「横浜開港以来の歴史・文化を大切にするまち」など、女性では「災害に強く、防犯、交通安全等、安心して暮らせるまち」「水とみどりにあふれ、豊かな自然と共存できるまち」などが高くなっているが、全体で上位に挙げられた項目の多くでは女性の方が高い結果となっている。

【問 13_性別】



「問 13 区制 90 周年を迎える際、どのような『まち』になってほしいか」(3つまで回答) - 3

年代別に見ると、「災害に強く、防犯、交通安全等、安心して暮らせるまち」については各年代とも4~5割と一定の水準にある一方、若年層では「安心して子育てができるよう、家庭への支援が充実したまち」など、高齢層では「高齢者、障害者等、誰もが安心して暮らせる福祉が充実したまち」などがそれぞれ他の年代に比べ目立って高くなっており、年代によって希望する『まち』の姿が異なっていることがうかがえる。



「問 13 区制 90 周年を迎える際、どのような『まち』になってほしいか」(3つまで回答) - 4

地区別に見ると、E 地区では「健康づくりや医療環境が充実したまち」、M 地区で「安全・安心に移動できる、交通機関や道路等が充実したまち」、C 地区で「横浜開港以来の歴史・文化を大切にす
るまち」、A 地区で「横浜の都心として活力のあるまち」の割合がそれぞれ全体を大きく上回っている。

【問 13_地区別】

		の 支 援 が 充 実 し た ま ち	安 心 し て 子 育 て 可 能 な ま ち	が 充 実 し た ま ち	子 ど も や 青 少 年 の 健 全 育 成 や 、 教 育	心 し て 暮 ら せ る ま ち	災 害 に 強 く 、 防 犯 、 交 通 安 全 等 、 安	暮 ら せ る 福 祉 が 充 実 し た ま ち	高 齢 者 、 障 害 者 等 、 誰 も が 安 心 し て	健 康 づ く り や 医 療 環 境 が 充 実 し た ま ち	ス ポ ー ツ や 学 び に よ る 、 豊 か な 暮 ら	活 力 の あ る ま ち	誰 も が 社 会 活 動 に 参 加 可 能 な ま ち	や 道 路 等 が 充 実 し た ま ち	安 全 ・ 安 心 に 移 動 可 能 な ま ち	国 際 交 流 ・ 多 文 化 共 生 が 進 ん だ ま ち	企 業 へ の 支 援 や 誘 致 等 に よ り 、 経 済	横 濱 開 港 以 来 の 歴 史 ・ 文 化 を 大 切 に	観 光 ・ コ ン ベン シ ョ ン が 充 実 し 、 文	横 濱 の 都 心 と し て 活 力 の あ る ま ち	資 源 化 が 進 ん だ ま ち	地 球 温 暖 化 対 策 や 、 ご み の 減 量 化 ・	水 と み ど り に あ ふ れ 、 豊 か な 自 然 と	無 回 答	
	n=																								
全体	1,507	26.6	27.3	50.0	37.8	11.6	6.8	7.3	18.2	11.5	7.0	20.3	8.8	14.7	12.2	23.0	2.4								
A地区(第1北部地区)	79	20.3	26.6	51.9	36.7	13.9	5.1	7.6	17.7	11.4	7.6	21.5	7.6	30.4	11.4	13.9	1.3								
B地区(第1地区中部のうち、長者町を除く)	77	32.5	28.6	55.8	44.2	3.9	3.9	7.8	9.1	10.4	11.7	24.7	9.1	22.1	14.3	15.6	-								
C地区(関内地区)	38	15.8	26.3	52.6	28.9	2.6	10.5	5.3	7.9	18.4	10.5	36.8	18.4	23.7	7.9	26.3	2.6								
D地区(埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く)	92	18.5	27.2	50.0	37.0	7.6	6.5	4.3	20.7	12.0	9.8	19.6	9.8	12.0	12.0	17.4	5.4								
E地区(寿地区のうち、扇町・長者町を除く)	32	25.0	28.1	40.6	40.6	28.1	3.1	9.4	9.4	6.3	3.1	15.6	3.1	15.6	15.6	25.0	9.4								
F地区(石川打越地区)	52	30.8	28.8	53.8	40.4	5.8	5.8	5.8	19.2	9.6	5.8	25.0	7.7	17.3	7.7	23.1	1.9								
G地区(第2地区)	197	30.5	24.9	41.6	37.1	10.7	7.6	6.1	14.2	15.7	8.1	22.8	13.2	13.2	13.2	26.4	1.5								
H地区(第3地区のうち、滝之上を除く)	257	30.0	26.8	51.4	35.0	12.5	7.8	5.4	16.7	13.6	5.4	22.6	8.2	10.9	11.7	24.1	2.7								
I地区(第4地区南部のうち、本牧荒井を除く)	105	24.8	30.5	55.2	35.2	10.5	4.8	5.7	22.9	6.7	11.4	21.0	5.7	16.2	12.4	20.0	2.9								
J地区(第4地区北部のうち、山手町を除く)	71	29.6	31.0	53.5	35.2	18.3	2.8	8.5	22.5	11.3	5.6	22.5	7.0	11.3	14.1	23.9	-								
K地区(本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く)	222	29.7	30.6	50.0	41.4	12.6	7.2	11.7	21.2	9.5	5.4	10.8	9.5	11.3	14.4	23.9	-								
L地区(第6地区のうち、山手町を除く)	107	23.4	27.1	49.5	41.1	11.2	7.5	8.4	15.0	12.1	3.7	21.5	5.6	15.0	12.1	27.1	3.7								
M地区(新本牧地区)	81	22.2	22.2	48.1	43.2	8.6	12.3	8.6	28.4	9.9	3.7	22.2	6.2	19.8	7.4	24.7	2.5								

※ 地区割りの詳細は、3 ページをご覧ください。

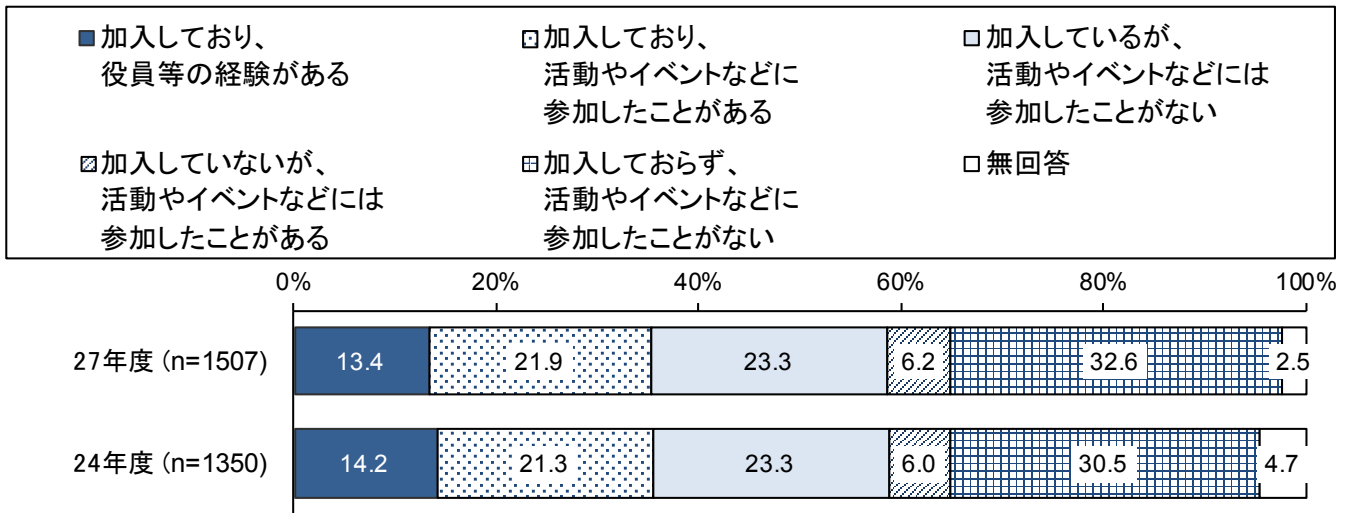
6. 「自治会町内会」について

「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 1

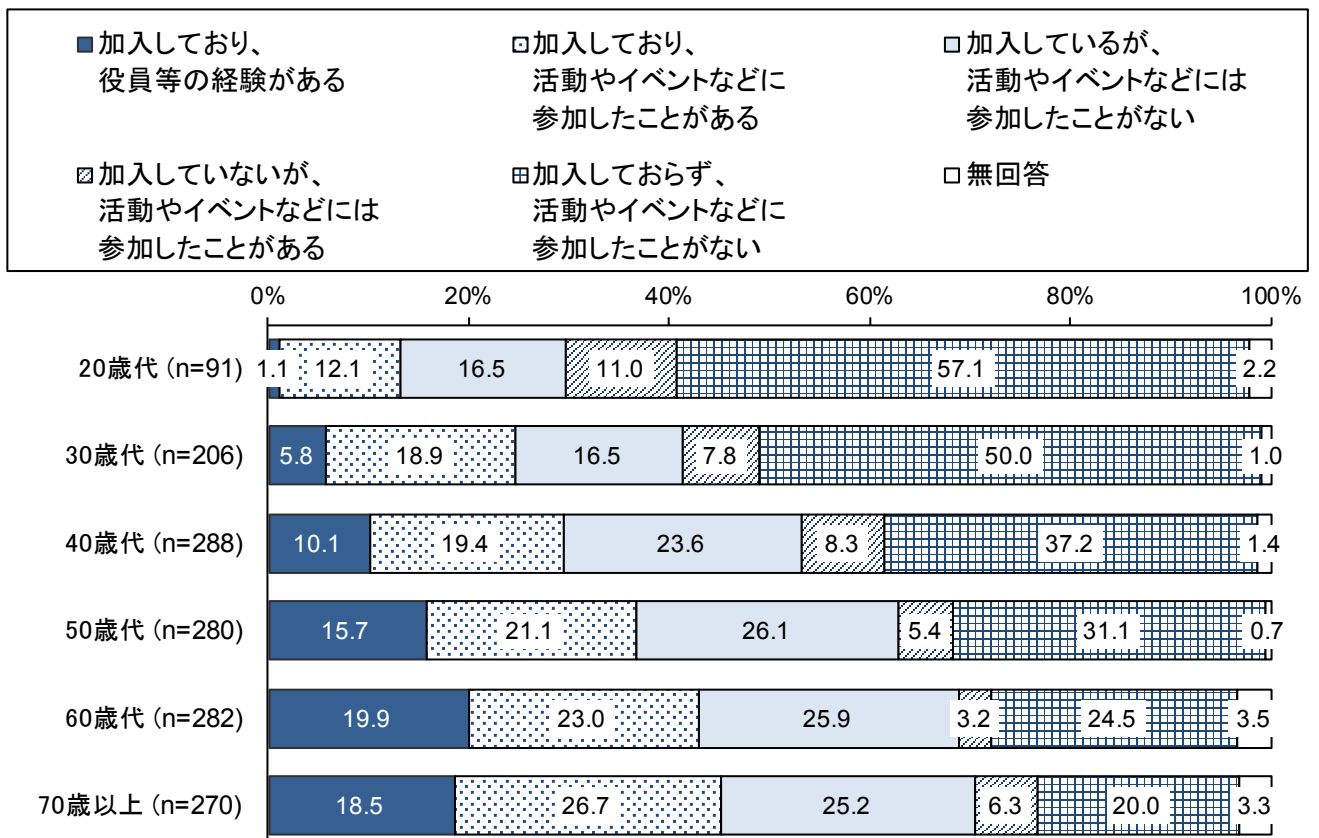
自治会町内会への加入状況や、自治会町内会の活動、地域イベントなどへの参加有無については、「加入しておらず、活動やイベントに参加したことがない」が3割超で最も高く、平成24年と比べ大きな変動は見られない。

年代別に見ると、20歳代では「加入しておらず、活動やイベントに参加したことがない」が6割近くと特に高いが、年代が上がるに従って「加入しておらず、活動やイベントに参加したことがない」の割合は低くなる傾向にある。

【問 14_経年比較】



【問 14_年代別】

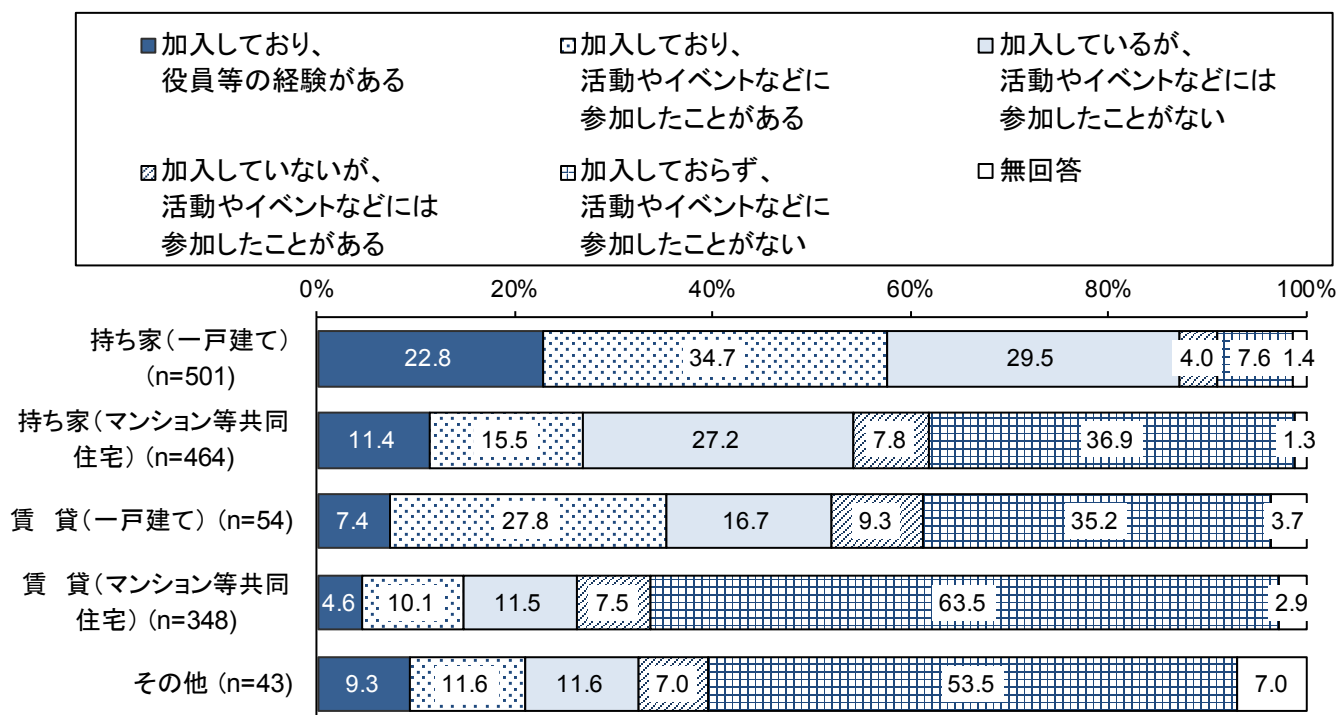


「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 2

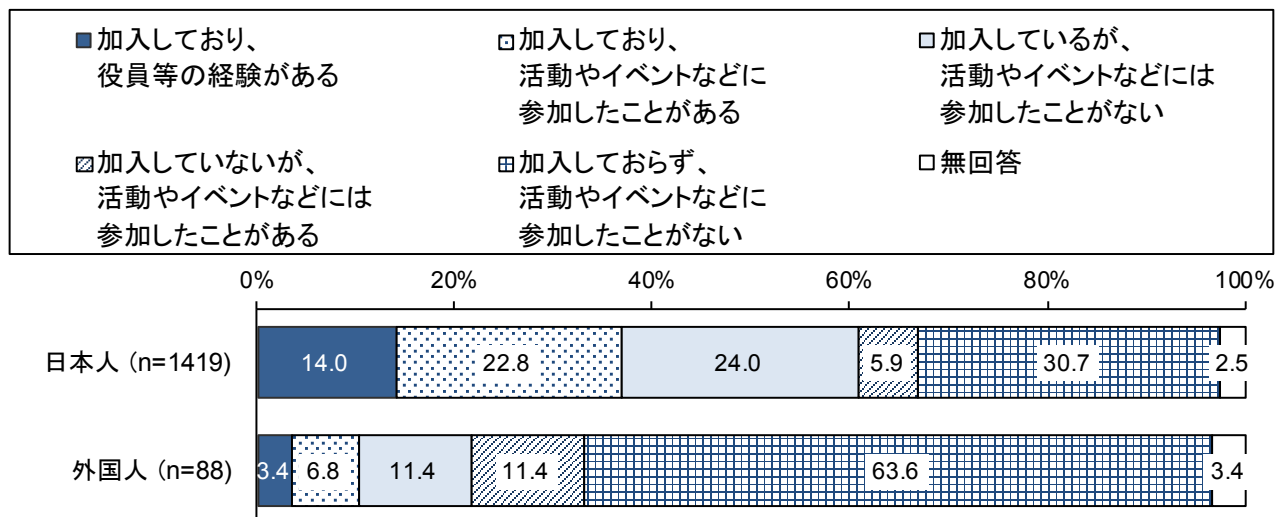
居住形態別に見ると、持ち家一戸建ての層で「加入しており、役員等の経験がある」「加入しており、活動やイベントに参加したことがある」「加入しているが、活動やイベントには参加したことがない」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっており、持ち家一戸建て層の自治会町内会への参加割合が高いことがわかる。一方、賃貸共同住宅の層では前述の3項目の割合が各層の中で最も低く、賃貸の共同住宅の居住層では地域との関わりが比較的薄くなりがちになっているのではないかと考えられる。

日本人／外国人別では、外国人の「加入しておらず、活動やイベントに参加したことがない」割合が6割超と特に高い一方、「加入していないが、活動やイベントには参加したことがある」割合は日本人に比べて高く、活動やイベントへの参加について日本人と外国人の考え方の違いが出ているのではないかとと思われる。

【問 14_居住形態別】



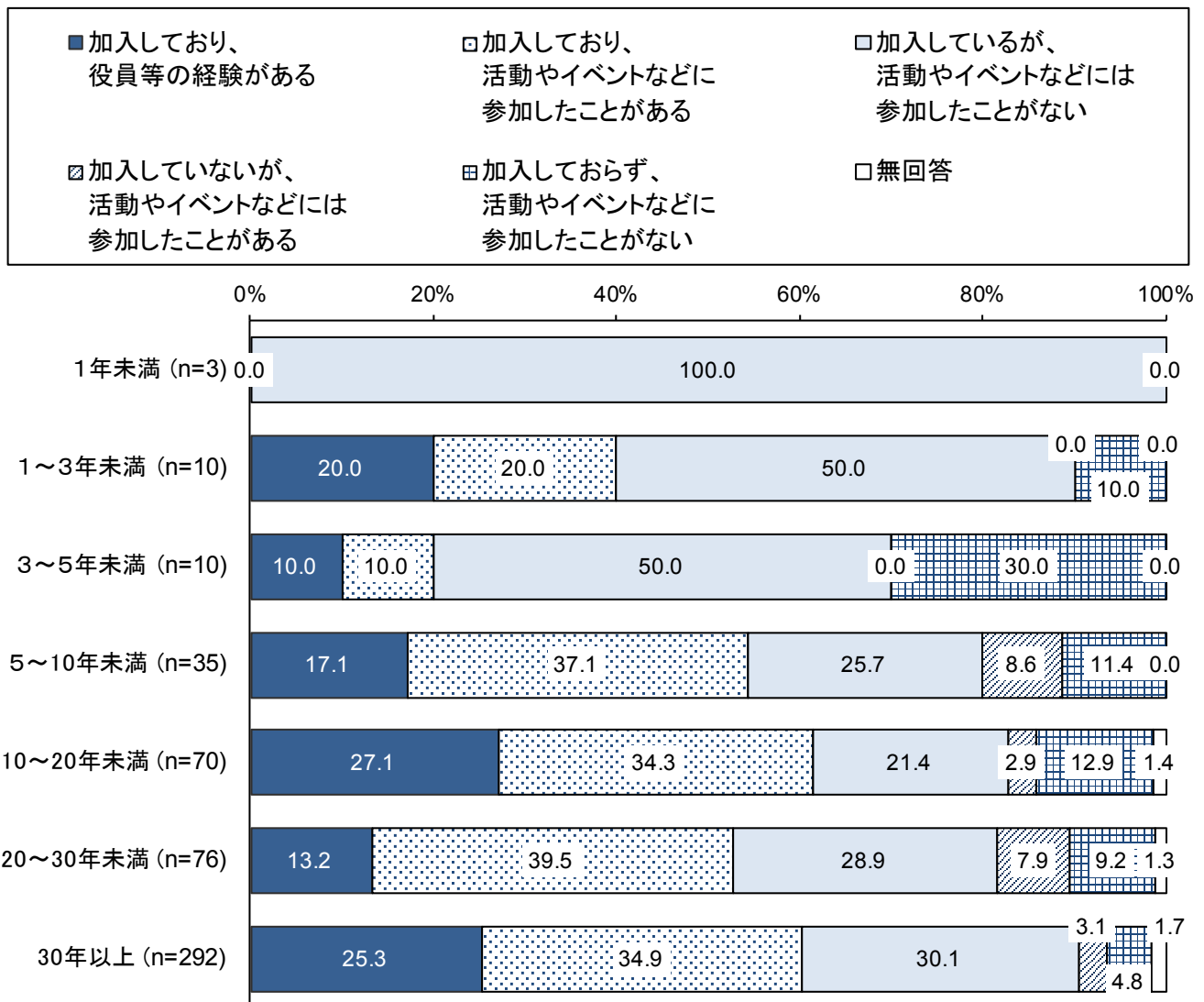
【問 14_日本人／外国人別】



「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 3

居住形態と中区居住期間との掛け合わせで見ると、持ち家一戸建ての層については、居住期間 5 年を境に自治会町内会へ加入し、イベントにも参加する割合が多くなり、居住期間 5 年以上では「加入し、役員等の経験がある」割合と「加入し、イベントに参加したことがある」割合の合計が半数を超える結果となった。

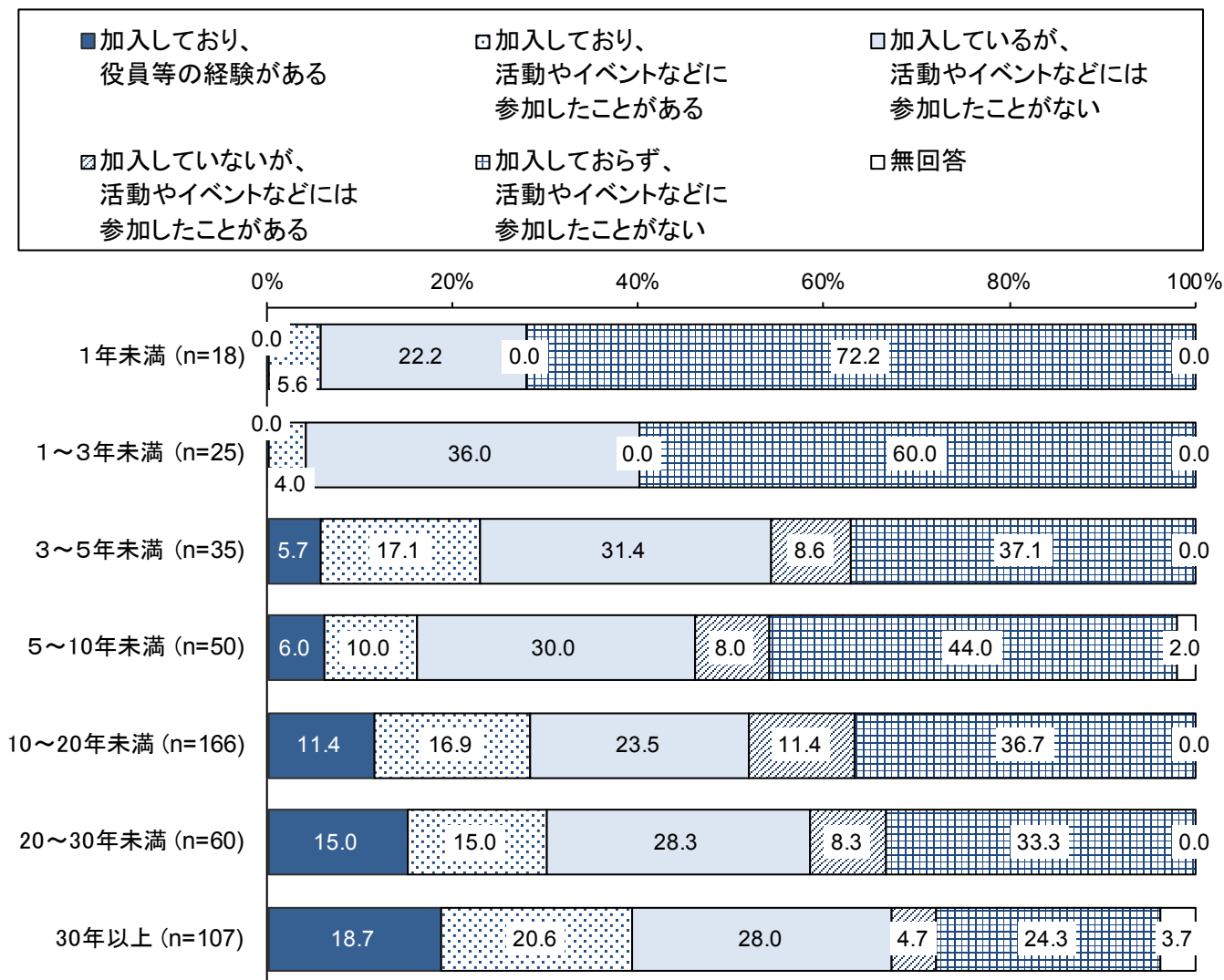
【問 14_持ち家（一戸建て）層×中区居住期間別】



「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 4

居住形態と中区居住期間との掛け合わせで見ると、持ち家共同住宅の層については、居住期間が長くなるに従って役員等の経験がある割合が高くなる傾向が見られ、自治会町内会加入の割合なども居住期間が長い層で高くなっている。

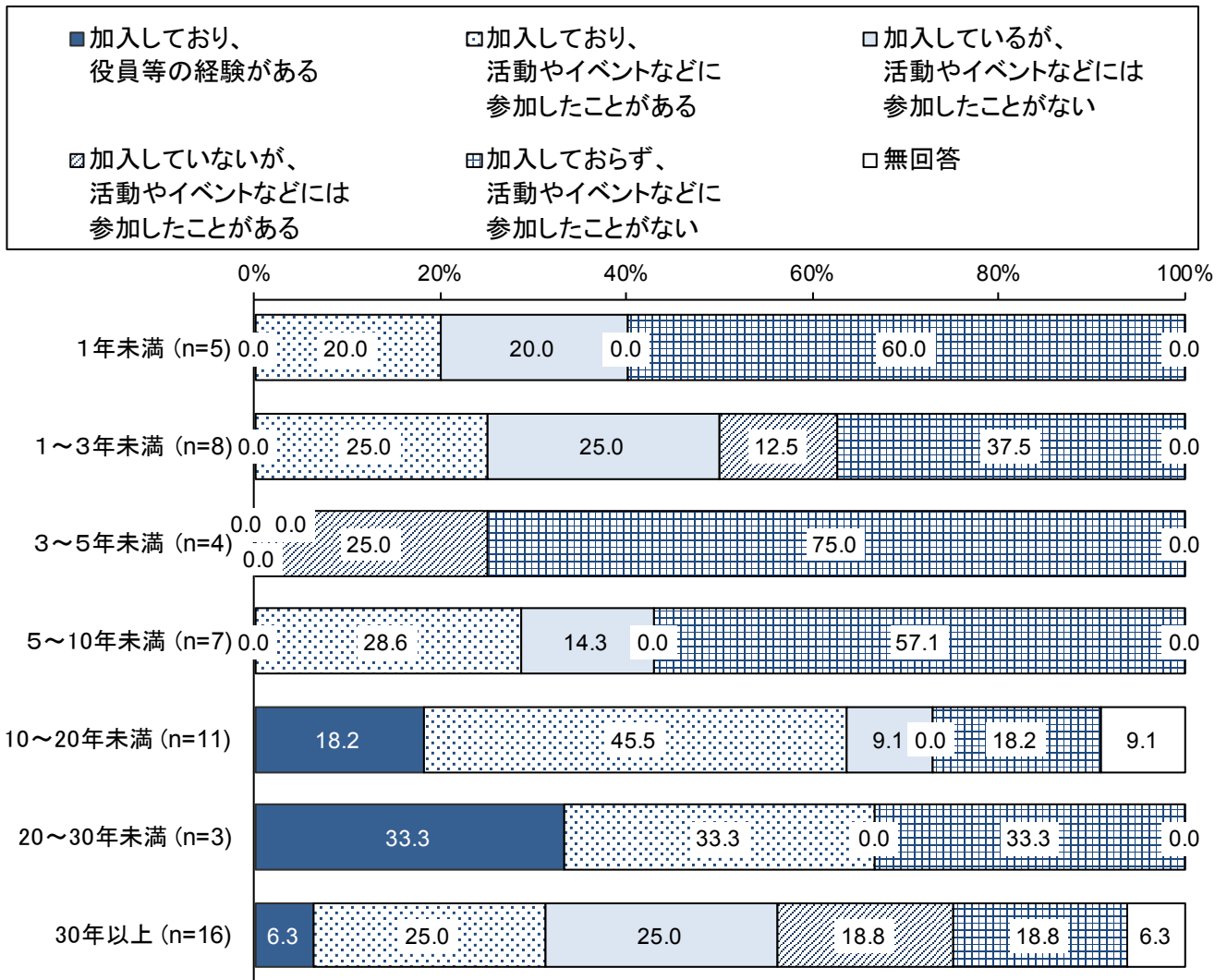
【問 14_持ち家（マンション等共同住宅）層×中区居住期間別】



「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 5

居住形態と中区居住期間との掛け合わせで見ると、賃貸一戸建ての層については、居住期間 10～30 年の層で役員等の経験がある割合が高い（それぞれ回答者数が少ない為参考値）

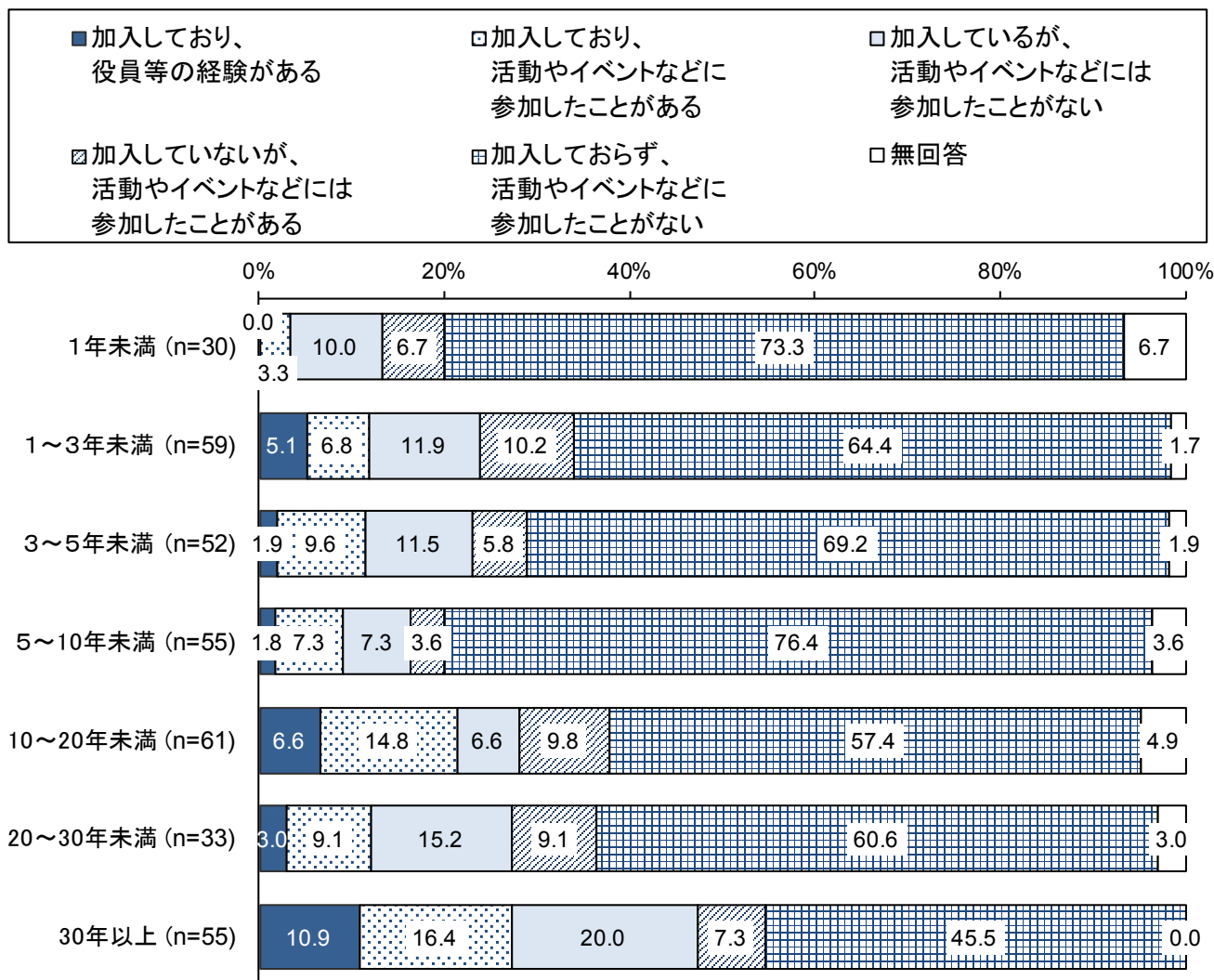
【問 14_賃貸（一戸建て）層×中区居住期間別】



「問 14 自治会加入／地域イベント参加の有無」－ 6

居住形態と中区居住期間との掛け合わせで見ると、賃貸共同住宅の層については、自治会町内会加入の割合や活動・イベント参加の割合など全般的に低いが、居住期間が30年以上の層では加入割合・参加割合とも賃貸共同住宅の各層で比較的高めとなっている。

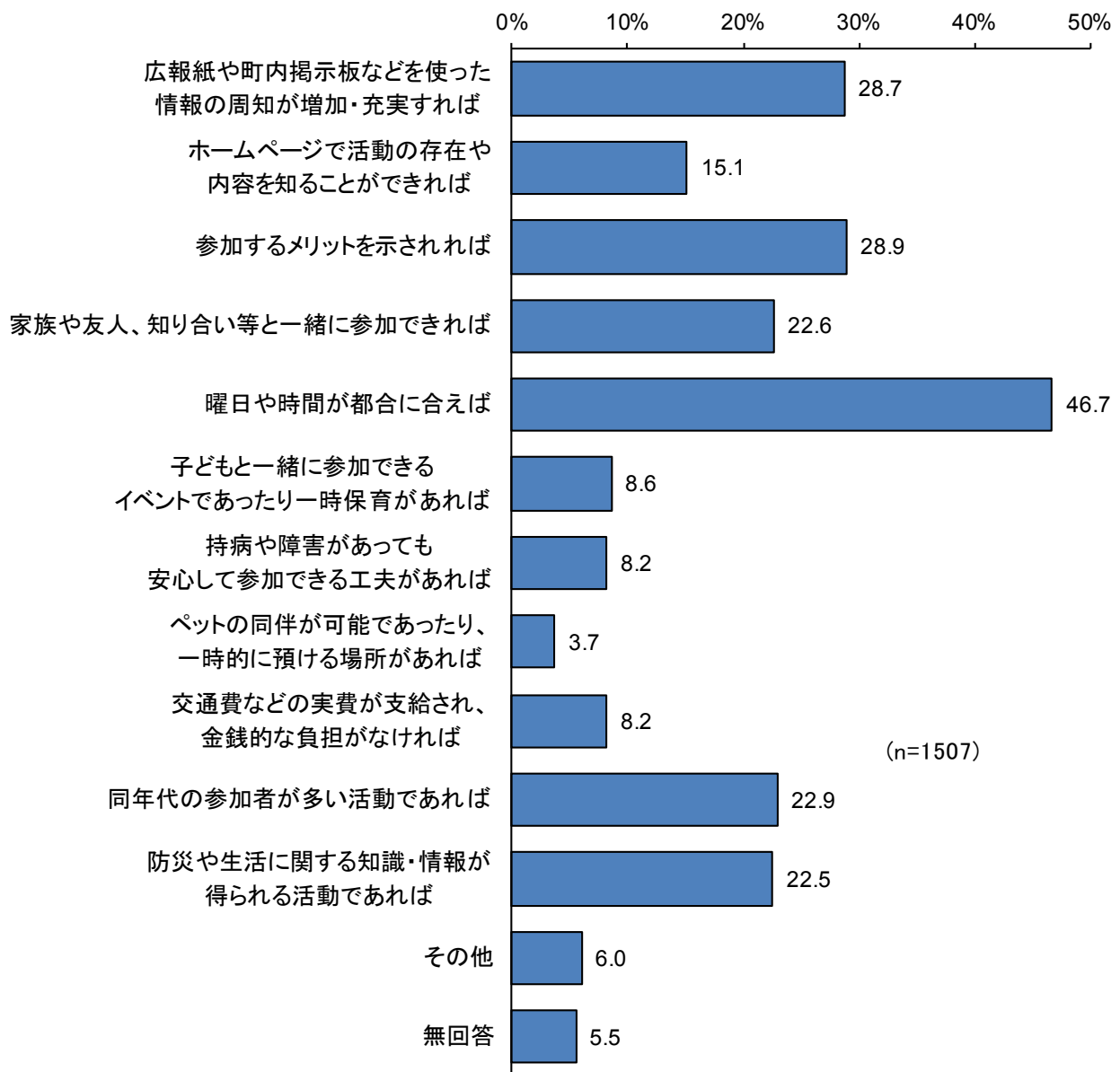
【問 14_賃貸（マンション等共同住宅）層×中区居住期間別】



「問 15 自治会町内会・地域の活動に参加できる・参加しやすくなる工夫」（3つまで回答） - 1

自治会町内会・地域の活動に参加できる・参加しやすくなる工夫について尋ねたところ、「曜日や時間が都合に合えば」が最も多く挙げられ、次いで「参加するメリットを示されれば」「広報誌や町内掲示板などを使った情報の周知が増加・充実すれば」の順となっている。

自由回答では、参加がしやすい雰囲気や、参加することによるメリットがあればといった回答などが多く見られたほか、決まった人間が役員を続けている等、新規に参加しにくい組織となっているといった指摘も寄せられた。



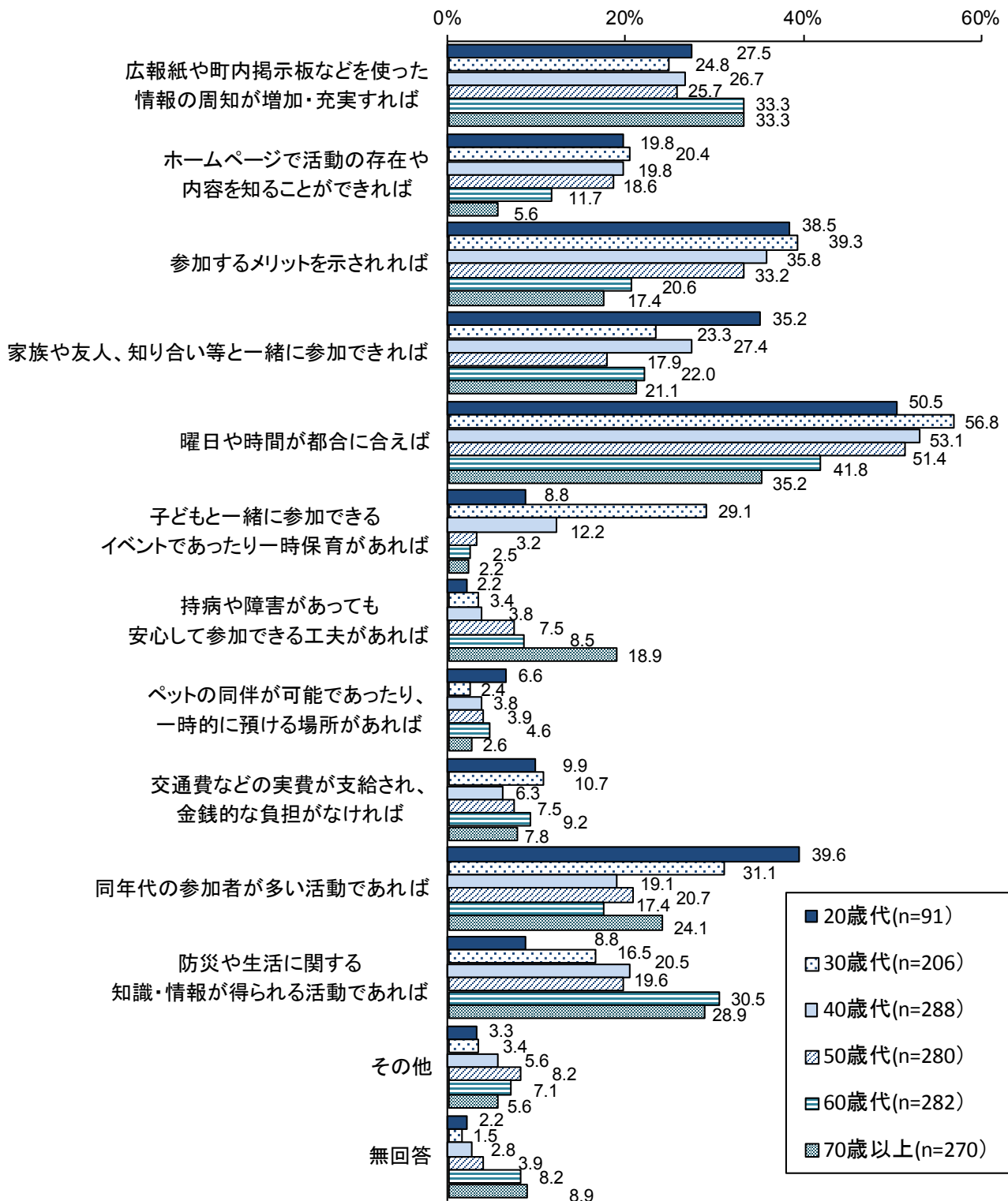
【自由回答より抜粋】

- ・参加しやすいふんいきなら。
- ・長い間、同じ人が役員を行っているので新しい人は参加しにくいと思う。
- ・個人情報の保護を考えてくれれば（現状町内会役員名簿に住所電話番号等が記載されたものが会員宅に配布される）
- ・町内会を仕切る人達が若くなり、新しい視点からの催しが増えれば
- ・参加して楽しい町内会であれば

「問 15 自治会町内会・地域の活動に参加できる・参加しやすくなる工夫」（3つまで回答）－ 2

年代別に見ると、若年層では「曜日や時間が都合に合えば」「参加するメリットを示されれば」「同年代の参加者が多い活動であれば」などの割合が高い。一方、高齢層では「防災や生活に関する知識・情報が得られる活動であれば」「持病や障害があっても安心して参加できる工夫があれば」などの割合が高いが、若年層と比べると各項目で割合が低めとなっている。

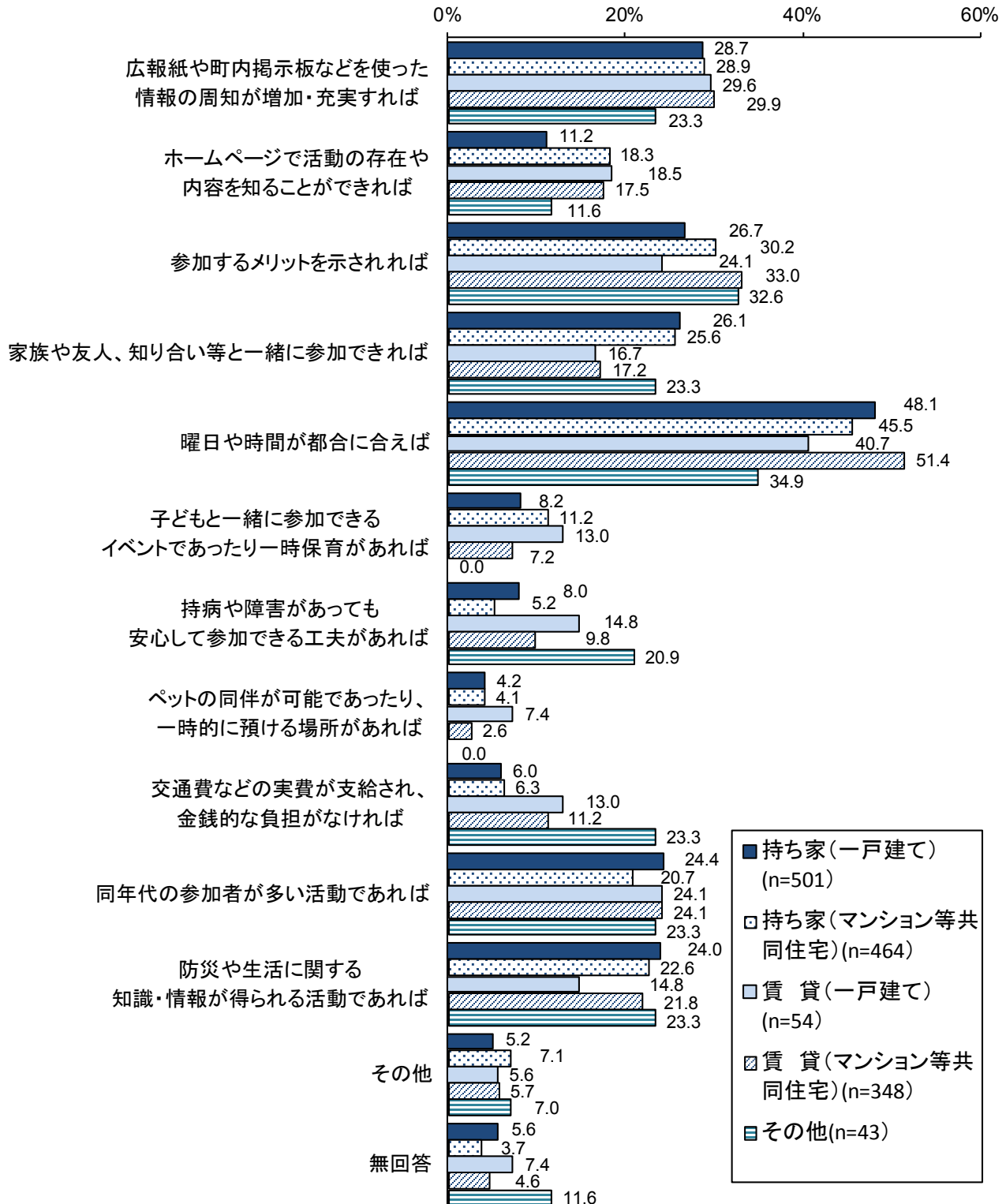
【問 15_年代別】



「問 15 自治会町内会・地域の活動に参加できる・参加しやすくなる工夫」(3つまで回答) - 3

居住形態別に見ると、賃貸共同住宅の層で「曜日や時間が都合に合えば」の割合が半数を超えて高い。また、持ち家の各層では「家族や友人、知り合い等と一緒に参加できれば」の割合が高くなっている。

【問 15_居住形態別】



「問 15 自治会町内会・地域の活動に参加できる・参加しやすくなる工夫」（3つまで回答）－ 4

地区別に見ると、E地区で「曜日や時間が都合に合えば」、M地区で「ペットの同伴が可能であったり、一時的に預ける場所があれば」、C地区で「防災や生活に関する知識・情報が得られる活動であれば」の割合がそれぞれ全体を大きく上回っている。

【問 15_地区別】

		情報	広報	を知る	ホーム	参加	参加	家族	曜日	ト	子	加	持	一	ペ	銭	交	ば	得	防	そ	無
	n=	の	紙	こと	ページ	する	でき	や	や	であ	ども	で	病	時的	ットの	的	通	同	ら	災	の	回
		周	や	が	で	メリ	ば	友	時	つ	も	可	や	に	の	な	費	年	れ	や	他	答
		知	町	増	活	ット	を	人	間	たり	と	工	障	預	同	負	な	代	る	生	そ	回
		加	内	加	動	を	示	、	が	一	一	夫	害	け	伴	担	の	の	活	活	の	回
		充	掲	板	の	存	さ	知	合	時	参	あ	あ	る	可	が	支	多	動	知	の	回
		実	示	な	存	在	れ	り	え	保	加	つ	つ	あ	あ	給	い	活	知	情	の	回
		す	板	ど	在	や	ば	合	ば	育	で	も	て	つ	さ	れ	活	動	報	報	が	回
		べ	な	を	や	内	ら	い	一	あ	可	安	心	し	れ	金	あ	れ	が	が		回
		つ	使	つ	容	容	に	一	緒	て	い	し	て	参	、							
全体	1,507	26.6	27.3	50.0	37.8	11.6	6.8	7.3	18.2	11.5	7.0	20.3	8.8	2.4								
A地区（第1北部地区）	79	20.3	26.6	51.9	36.7	13.9	5.1	7.6	17.7	11.4	7.6	21.5	7.6	1.3								
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	77	32.5	28.6	55.8	44.2	3.9	3.9	7.8	9.1	10.4	11.7	24.7	9.1	-								
C地区（関内地区）	38	15.8	26.3	52.6	28.9	2.6	10.5	5.3	7.9	18.4	10.5	36.8	18.4	2.6								
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	92	18.5	27.2	50.0	37.0	7.6	6.5	4.3	20.7	12.0	9.8	19.6	9.8	5.4								
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	32	25.0	28.1	40.6	40.6	28.1	3.1	9.4	9.4	6.3	3.1	15.6	3.1	9.4								
F地区（石川打越地区）	52	30.8	28.8	53.8	40.4	5.8	5.8	5.8	19.2	9.6	5.8	25.0	7.7	1.9								
G地区（第2地区）	197	30.5	24.9	41.6	37.1	10.7	7.6	6.1	14.2	15.7	8.1	22.8	13.2	1.5								
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	257	30.0	26.8	51.4	35.0	12.5	7.8	5.4	16.7	13.6	5.4	22.6	8.2	2.7								
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	105	24.8	30.5	55.2	35.2	10.5	4.8	5.7	22.9	6.7	11.4	21.0	5.7	2.9								
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	71	29.6	31.0	53.5	35.2	18.3	2.8	8.5	22.5	11.3	5.6	22.5	7.0	-								
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	222	29.7	30.6	50.0	41.4	12.6	7.2	11.7	21.2	9.5	5.4	10.8	9.5	-								
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	107	23.4	27.1	49.5	41.1	11.2	7.5	8.4	15.0	12.1	3.7	21.5	5.6	3.7								
M地区（新本牧地区）	81	22.2	22.2	48.1	43.2	8.6	12.3	8.6	28.4	9.9	3.7	22.2	6.2	2.5								

※ 地区割りの詳細は、3ページをご覧ください。

7. 「多文化共生」について

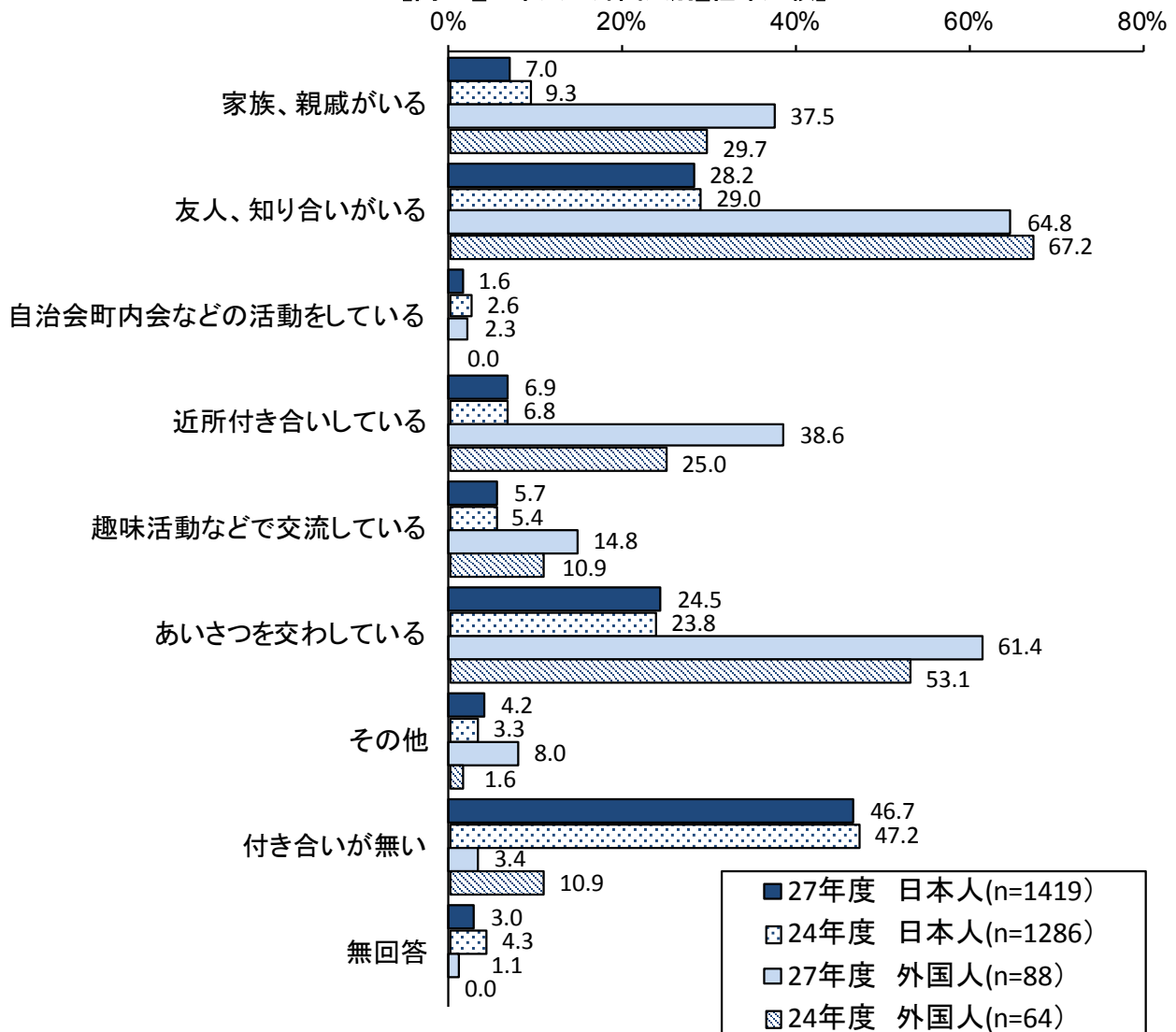
「問 16 外国人／日本人の方とどのような交流があるか」（複数回答）

日本人は外国人と、外国人は日本人と、それぞれどのような交流があるか、**日本人**に尋ねたところ、「付き合いが無い」の割合が最も高く、次いで「友人、知り合いがいる」「あいさつを交わしている」の順となった。平成 24 年度に比べ「家族、親戚がいる」の割合がやや低くなっている。

同様に**外国人**に尋ねたところ、「友人、知り合いがいる」の割合が最も高く、次いで「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の順となっている。平成 24 年度に比べ、「近所付き合いしている」の割合が大きく増加したほか、「家族、親戚がいる」「あいさつを交わしている」などの割合も増えている。

自由回答では、職場や子供の学校での交流があるといった回答が多いほか、英会話教室の先生と交流しているといった回答も見られた。

【問 16_日本人／外国人別_経年比較】



【自由回答より抜粋】

- ・職場のほとんどが外国人
- ・職場で良くあう外国人ご夫妻と交流
- ・子供が英会話教室に通っており、教師が外国人のため、挨拶などしています。
- ・子供の友人であり、その親と交流している
- ・職場（保育園）の保護者が8割外国人のため、毎日交流している。

「問 17 文化や習慣の異なる人々が共に暮らしていくために大切だと思うこと」（複数回答）

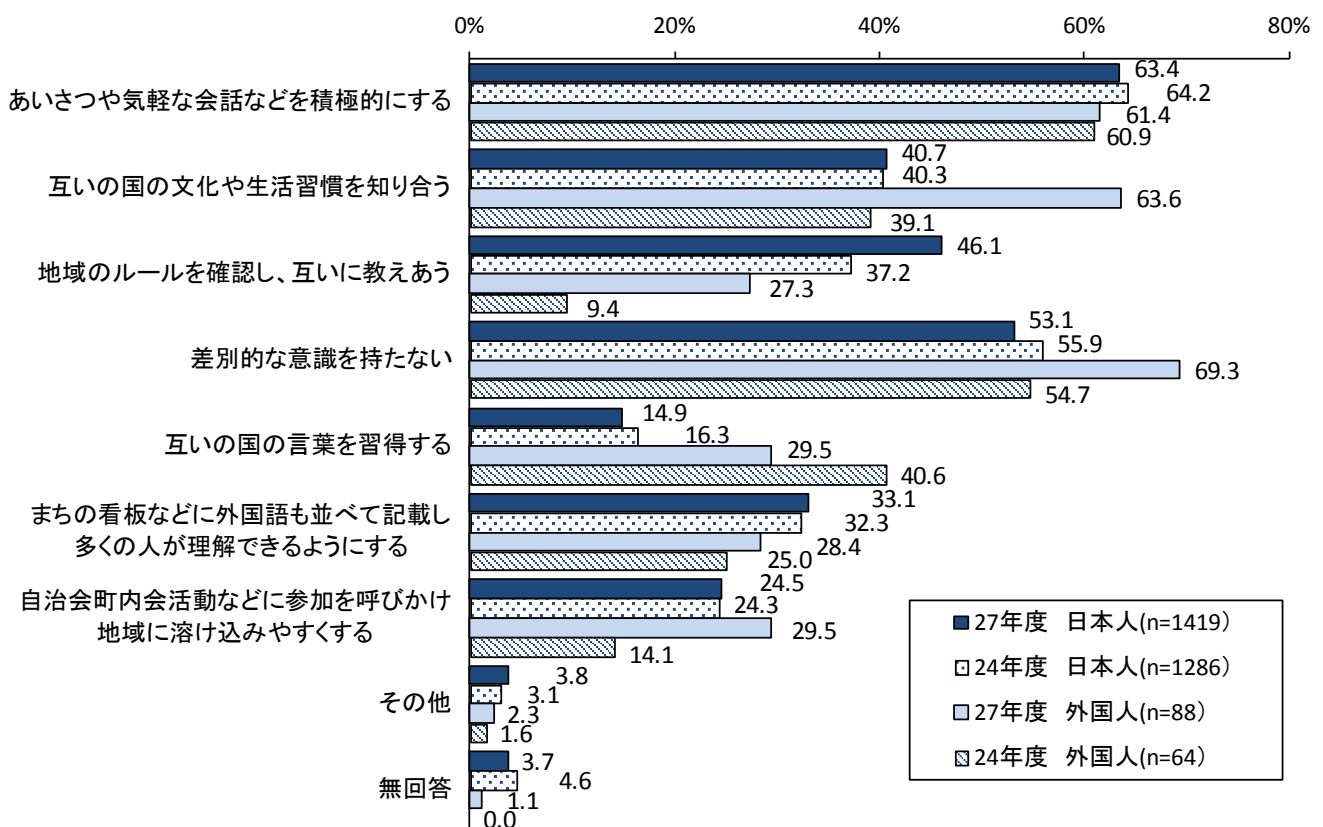
文化や習慣の異なる人々が互いに理解しあいながら共に暮らしていくために大切だと思うことについて、**日本人**に尋ねたところ、「あいさつや気軽な会話などを積極的にする」の割合が最も高く、次いで「差別的な意識を持たない」「地域のルールを確認し、互いに教えあう」の順となっている。平成 24 年度に比べ、「地域のルールを確認し、互いに教えあう」の割合が高くなっている。

同様に**外国人**に尋ねたところ、「差別的な意識を持たない」の割合が最も高く、次いで「互いの国の文化や生活習慣を知りあう」「あいさつや気軽な会話などを積極的にする」の順となった。平成 24 年度に比べ、「差別的な意識を持たない」や「互いの国の文化や生活習慣を知りあう」などの割合が大幅に高くなっているが、前回調査以降、国内でのヘイトスピーチ問題が大きく取り上げられたことなどが影響しているものと考えられる。

日本人の回答と外国人の回答を比較して、「差別的な意識を持たない」「互いの国の文化や生活習慣を知りあう」などの割合は外国人が日本人を大きく上回る一方で、「地域のルールを確認し、互いに教えあう」の割合は日本人が外国人を上回っている。異なる文化・習慣の社会に入る側と、それを受け入れる側の立場の違いが考え方にも表れているものと思われる。

自由回答では、特にマナーを守る心がけが大切であるとする回答が多く寄せられたほか、お互いが文化や生活習慣の違いについて理解しようとしないう状況について指摘する声も寄せられた。

【問 17_日本人／外国人別_経年比較】



【自由回答より抜粋】

- ・ 郷に入っては郷に従う。日本のルールやマナーを知ってもらい、守ってもらうべき
- ・ 異文化出身の方々の生活習慣を先づ識ろうとすることだと思う。

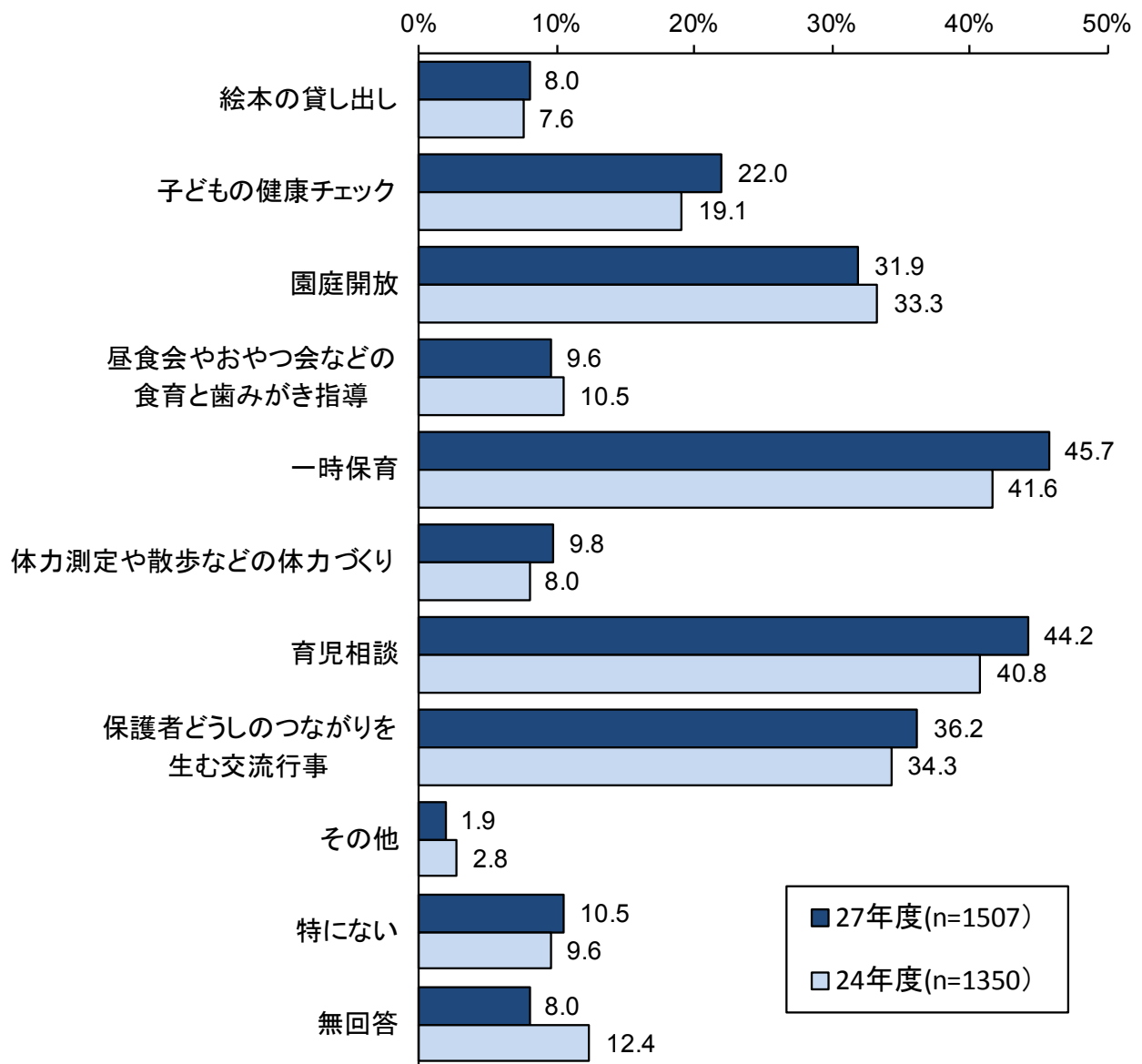
8. 「子育て支援・児童虐待防止」について

「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答） - 1

保育園が地域の子育て支援に貢献するために充実すべきだと思うことについては、「一時保育」が最も多く挙げられており、次いで「育児相談」「保護者どうしのつながりを生む交流行事」の順となっている。平成 24 年度に比べ、前述の上位 3 項目の割合がそれぞれ高い。

自由回答では、保育園のキャパシティ増といった意見や、支援を必要とする家庭への情報提供についてなどの回答が寄せられた。

【問 18_経年比較】

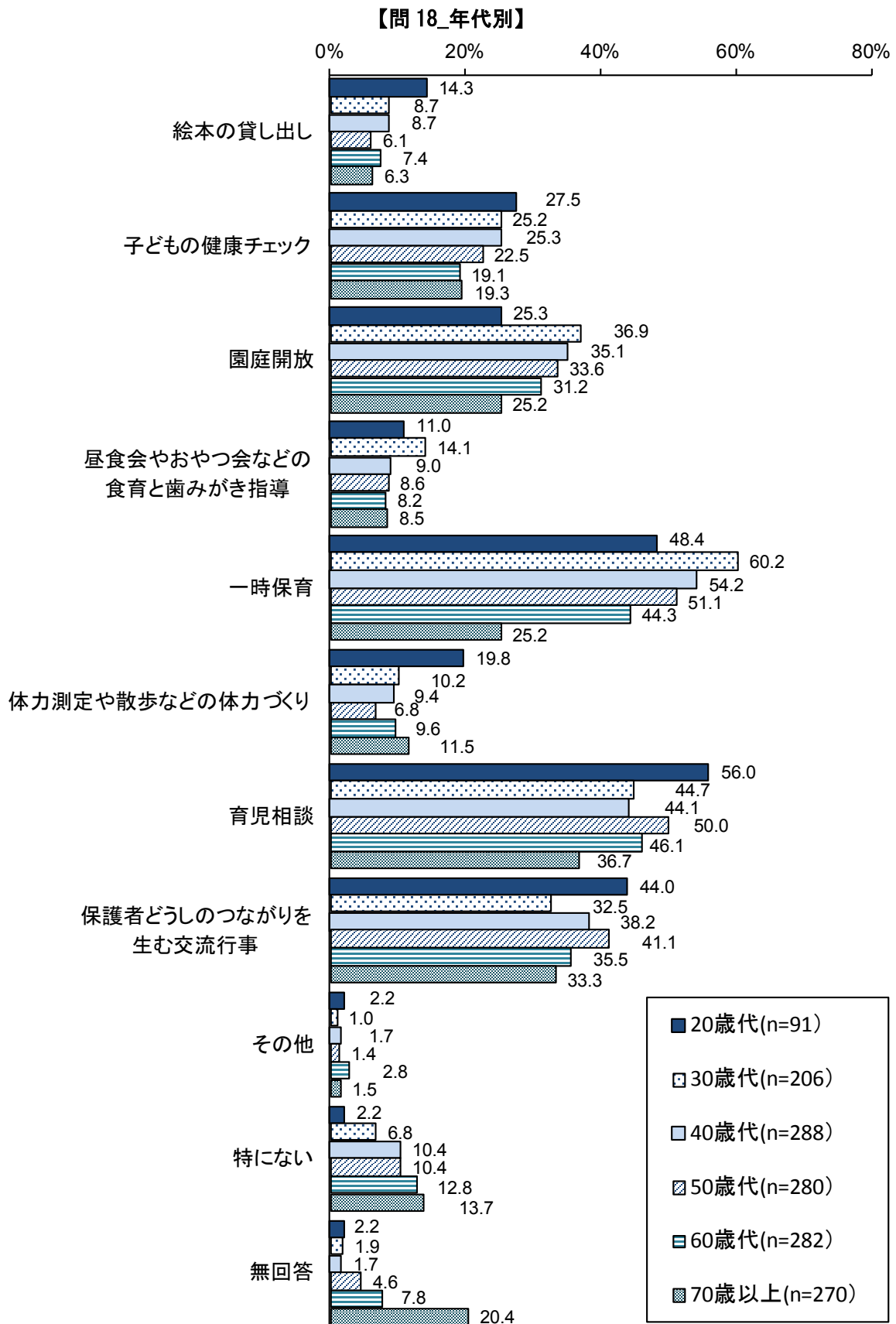


【自由回答より抜粋】

- ・ 保育園の規模を大きくするか、数を増やすのが本筋で、仕事を増やせばそれだけ負担が大きくなってしまうと思う。
- ・ 子供がいる家庭への施設案内（場所、料金、時間等）
- ・ のんびりんこ以外の施設で、一時保育などの存在を伝える機会をつくる。

「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答）－ 2

年代別に見ると、各項目とも 20 歳代または 30 歳代が最も高くなっている。



「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答）－ 3

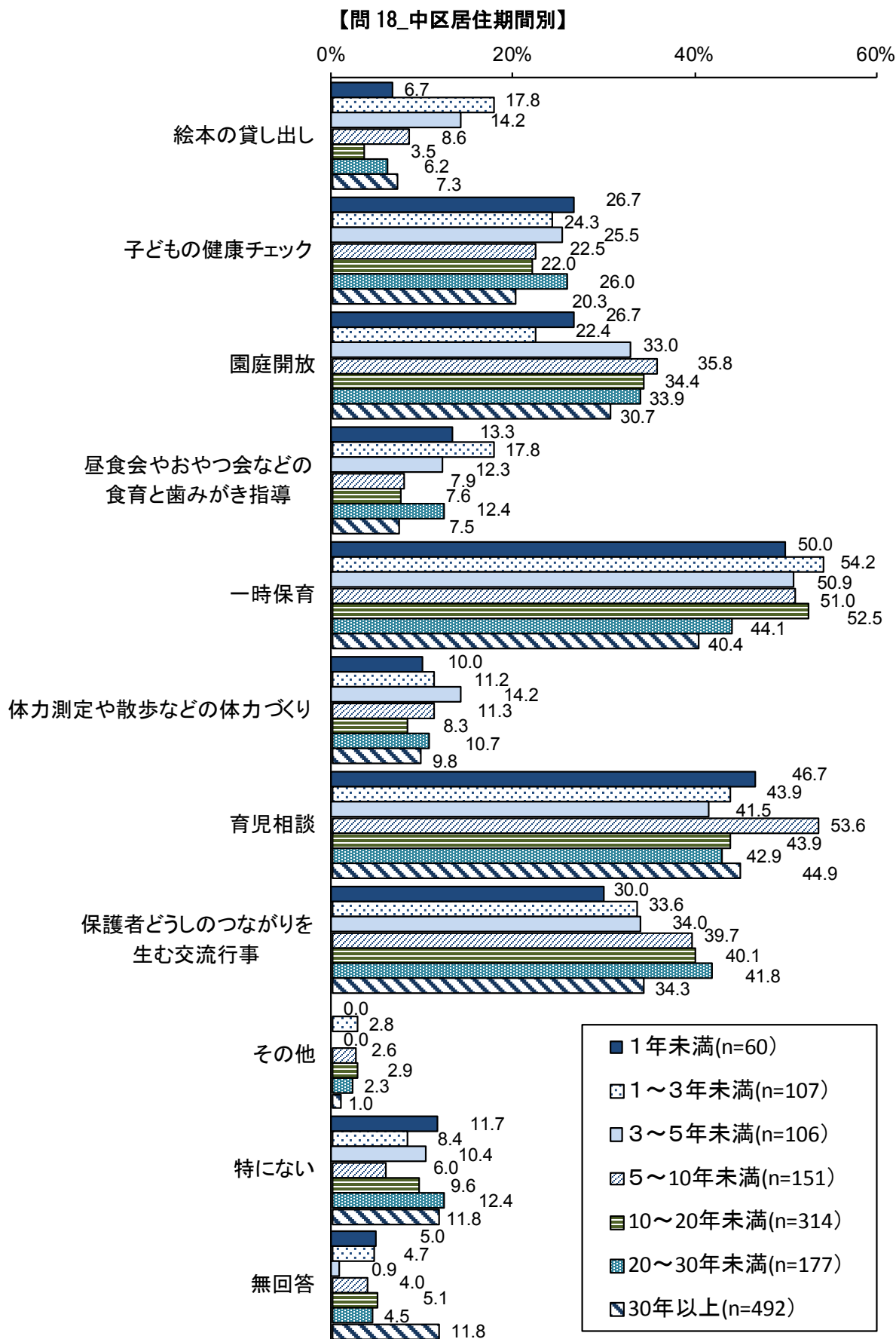
同居家族別に見ると、15歳未満の子供と同居している層で「一時保育」の割合が6割超と特に高くなっている。

【問 18_同居家族別】

		絵本の貸し出し	子どもの健康チェック	園庭開放	育児と食生活や歯みがき指導	一時保育	体力測定や散歩などの体力づくり	育児相談	生保交流行事	保護者どうしのつながりを	その他	特にない	無回答
	n=												(%)
全体	1,507	8.0	22.0	31.9	9.6	45.7	9.8	44.2	36.2	1.9	10.5	8.0	
祖父（義祖父）	4	-	50.0	-	25.0	75.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	
祖母（義祖母）	20	5.0	25.0	35.0	15.0	55.0	20.0	45.0	45.0	-	15.0	-	
父（義父）	105	13.3	28.6	33.3	10.5	48.6	13.3	48.6	41.9	1.9	7.6	-	
母（義母）	190	11.6	24.7	32.6	8.9	49.5	8.9	49.5	37.4	1.6	10.5	3.7	
配偶者	908	8.3	20.8	35.6	10.0	50.1	9.7	44.4	37.6	1.7	8.6	6.9	
兄弟姉妹	65	12.3	35.4	30.8	12.3	41.5	20.0	50.8	40.0	-	6.2	1.5	
子（15歳未満）	263	10.6	23.2	47.5	11.8	63.5	8.7	39.9	39.2	3.4	2.3	1.5	
子（15歳以上）	381	9.2	17.8	33.6	8.4	44.4	8.9	46.7	42.5	1.0	9.4	8.9	
孫（15歳未満）	16	18.8	6.3	43.8	6.3	-	18.8	18.8	43.8	-	25.0	12.5	
孫（15歳以上）	18	5.6	11.1	16.7	11.1	27.8	5.6	22.2	22.2	5.6	16.7	33.3	
ひとり暮らし	262	5.7	26.7	17.6	9.5	36.6	13.0	45.0	31.3	2.7	16.4	8.8	
その他	38	-	18.4	31.6	2.6	36.8	5.3	50.0	36.8	-	5.3	15.8	

「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答）－ 4

中区居住期間別に見ると、5～10年未満の層で「育児相談」の割合が半数を超え、他の層に比べて高い。



「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答）－ 5

年代と同居家族との掛け合わせで見ると、15歳未満の子供と同居している層で、30～40代では「一時保育」、40～50代では「保護者どうしのつながりを生む交流行事」の割合がそれぞれ各年代の中で比較的高くなっている。

【問 18_年代×同居家族別①】

(%)

	n=	絵本の貸し出し	子どもエツクの健康	園庭開放	がき指導	なごの食育と歯み会	昼食やおやつ会	一時保育	体力測定や散歩	育児相談	行事の交流	保護者どうし	その他	特にない	無回答
全体	1,507	8.0	22.0	31.9	9.6	45.7	9.8	44.2	36.2	1.9	10.5	8.0			
20代	祖父(義祖父)	2	-	50.0	-	-	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	祖母(義祖母)	7	14.3	28.6	28.6	14.3	71.4	42.9	28.6	42.9	-	-	-	-	-
	父(義父)	41	14.6	31.7	19.5	14.6	48.8	24.4	53.7	46.3	2.4	2.4	-	-	-
	母(義母)	50	16.0	34.0	24.0	12.0	44.0	20.0	50.0	46.0	4.0	2.0	2.0	-	-
	配偶者	19	15.8	15.8	31.6	10.5	52.6	10.5	68.4	36.8	5.3	-	5.3	-	-
	兄弟姉妹	31	9.7	38.7	29.0	12.9	45.2	29.0	48.4	45.2	-	3.2	-	-	-
	子(15歳未満)	9	22.2	11.1	33.3	-	33.3	11.1	55.6	33.3	22.2	-	11.1	-	-
	子(15歳以上)	1	-	100.0	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	孫(15歳未満)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	孫(15歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり暮らし	20	15.0	15.0	20.0	5.0	50.0	30.0	55.0	45.0	-	5.0	5.0	-	-
その他	5	-	20.0	60.0	-	40.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	
30代	祖父(義祖父)	2	-	50.0	-	50.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	祖母(義祖母)	5	-	20.0	40.0	40.0	60.0	20.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-	
	父(義父)	27	7.4	22.2	37.0	11.1	55.6	7.4	44.4	44.4	-	11.1	-	-	
	母(義母)	36	8.3	22.2	33.3	16.7	61.1	8.3	50.0	41.7	-	8.3	-	-	
	配偶者	137	9.5	26.3	43.8	15.3	64.2	9.5	41.6	29.9	0.7	3.6	1.5	-	
	兄弟姉妹	12	8.3	16.7	25.0	25.0	41.7	25.0	58.3	41.7	-	8.3	-	-	
	子(15歳未満)	108	11.1	25.9	50.0	17.6	68.5	9.3	38.0	32.4	0.9	1.9	0.9	-	
	子(15歳以上)	3	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	66.7	100.0	-	-	-	-	
	孫(15歳未満)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	孫(15歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ひとり暮らし	29	3.4	27.6	10.3	13.8	44.8	17.2	48.3	24.1	3.4	20.7	3.4	-	
その他	7	-	14.3	14.3	-	28.6	-	57.1	42.9	-	28.6	14.3	-		
40代	祖父(義祖父)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	祖母(義祖母)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
	父(義父)	20	20.0	35.0	40.0	5.0	45.0	-	50.0	30.0	5.0	15.0	-	-	
	母(義母)	36	16.7	27.8	41.7	-	47.2	-	47.2	38.9	2.8	16.7	-	-	
	配偶者	205	10.2	23.4	35.6	8.8	57.1	9.3	42.0	40.0	2.0	8.8	1.5	-	
	兄弟姉妹	6	16.7	50.0	16.7	-	33.3	-	83.3	-	-	16.7	-	-	
	子(15歳未満)	118	8.5	22.9	44.9	7.6	63.6	8.5	39.8	45.8	3.4	2.5	0.8	-	
	子(15歳以上)	63	12.7	30.2	31.7	1.6	52.4	12.7	50.8	49.2	-	1.6	-	-	
	孫(15歳未満)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	孫(15歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ひとり暮らし	40	2.5	27.5	15.0	15.0	50.0	15.0	52.5	30.0	-	17.5	2.5	-	
その他	5	-	20.0	60.0	-	40.0	-	60.0	20.0	-	-	20.0	-		

「問 18 保育園が地域の子育て支援に貢献するため充実すべきと思うこと」（3つまで回答）－ 5

【問 18_年代×同居家族別②】

(%)

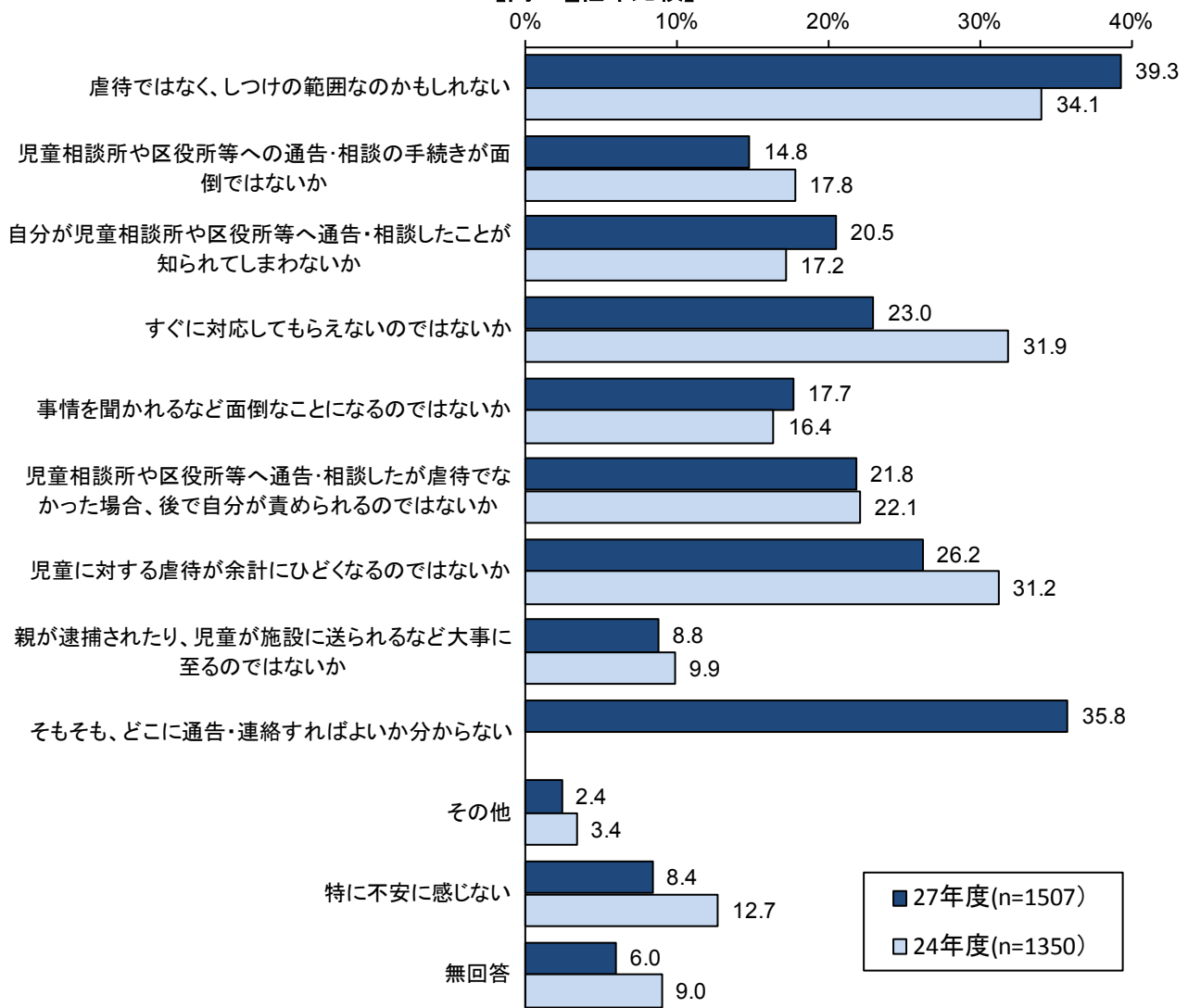
	n=	絵本の貸し出し	子どもエツクの健康	園庭開放	がき指の指導	なごの食育と歯み	昼食やおやつ会	一時保育	どの体力測定や散歩	体の力定づき	育児相談	行事	なごの生活交流	保護者をどうする	その他	特にな	無回答	
全体	1,507	8.0	22.0	31.9	9.6	45.7	9.8	44.2	36.2	1.9	10.5	8.0						
50代	祖父(義祖父)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	祖母(義祖母)	3	-	33.3	33.3	-	66.7	-	66.7	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
	父(義父)	15	13.3	20.0	53.3	6.7	40.0	6.7	46.7	46.7	-	6.7	-	-	-	-	-	
	母(義母)	38	5.3	23.7	28.9	7.9	50.0	2.6	55.3	28.9	-	7.9	10.5	-	-	-	-	
	配偶者	205	6.8	18.5	36.6	8.8	51.7	7.3	45.9	42.4	2.0	9.3	5.9	-	-	-	-	
	兄弟姉妹	6	16.7	66.7	33.3	-	50.0	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	子(15歳未満)	25	12.0	12.0	56.0	12.0	56.0	4.0	40.0	44.0	8.0	4.0	4.0	-	-	-	-	-
	子(15歳以上)	133	6.8	13.5	39.8	8.3	54.1	5.3	50.4	48.1	1.5	8.3	3.8	-	-	-	-	-
	孫(15歳未満)	2	50.0	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	孫(15歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり暮らし	42	4.8	38.1	19.0	7.1	45.2	7.1	61.9	35.7	-	14.3	2.4	-	-	-	-	-
その他	3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
60代	祖父(義祖父)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	祖母(義祖母)	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	
	父(義父)	2	-	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	母(義母)	30	10.0	10.0	40.0	6.7	46.7	10.0	43.3	26.7	-	23.3	6.7	-	-	-	-	
	配偶者	182	6.6	17.0	32.4	9.3	48.9	9.3	49.5	35.2	1.6	11.5	7.7	-	-	-	-	
	兄弟姉妹	7	28.6	-	57.1	-	28.6	14.3	57.1	28.6	-	-	14.3	-	-	-	-	-
	子(15歳未満)	2	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	子(15歳以上)	90	10.0	18.9	30.0	12.2	43.3	12.2	51.1	34.4	-	11.1	11.1	-	-	-	-	-
	孫(15歳未満)	5	40.0	20.0	60.0	-	-	20.0	20.0	60.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-
	孫(15歳以上)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり暮らし	68	7.4	27.9	25.0	8.8	33.8	8.8	38.2	33.8	7.4	16.2	8.8	-	-	-	-	-
その他	7	-	28.6	42.9	-	42.9	14.3	57.1	57.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
70代以上	祖父(義祖父)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	祖母(義祖母)	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
	父(義父)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	母(義母)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	配偶者	157	7.6	21.0	31.8	9.6	28.0	14.0	40.1	38.2	1.3	9.6	18.5	-	-	-	-	
	兄弟姉妹	3	-	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	
	子(15歳未満)	1	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	子(15歳以上)	89	9.0	14.6	29.2	9.0	27.0	7.9	34.8	34.8	2.2	15.7	20.2	-	-	-	-	
	孫(15歳未満)	8	-	-	25.0	12.5	-	12.5	12.5	37.5	-	37.5	25.0	-	-	-	-	
	孫(15歳以上)	18	5.6	11.1	16.7	11.1	27.8	5.6	22.2	22.2	5.6	16.7	33.3	-	-	-	-	
	ひとり暮らし	63	4.8	20.6	12.7	7.9	17.5	12.7	31.7	25.4	1.6	19.0	20.6	-	-	-	-	
その他	11	-	18.2	9.1	-	36.4	9.1	45.5	27.3	-	-	36.4	-	-	-	-		

「問 19 児童虐待の相談・情報提供の際にためらいや不安を感じること」（3つまで回答）－ 1

身近で虐待を受けていると思われる児童を発見し、児童虐待の相談・情報提供をしようとする際に、ためらいや不安を感じることについては、「虐待ではなく、しつけの範囲なのかもしれない」が最も多く挙げられ、次いで「そもそも、どこに通告・連絡すればよいか分からない」「児童に対する虐待が余計にひどくなるのではないか」などが多く挙げられている。平成 24 年度に比べ、「虐待ではなく、しつけの範囲なのかもしれない」「自分が児童相談所や区役所等へ通告・相談したことが知られてしまわないか」などの割合が高くなった一方、「すぐに対応してもらえないのではないか」「児童に対する虐待が余計にひどくなるのではないか」などは低くなっている。

自由回答では、相談する先を信頼していいのかわからないといった回答や、相手の家庭の事情が分からないために情報提供に二の足を踏んでいるような意見が寄せられた。

【問 19_経年比較】



※「そもそも、どこに通告・連絡すればよいか分からない」は平成 27 年度調査より聴取

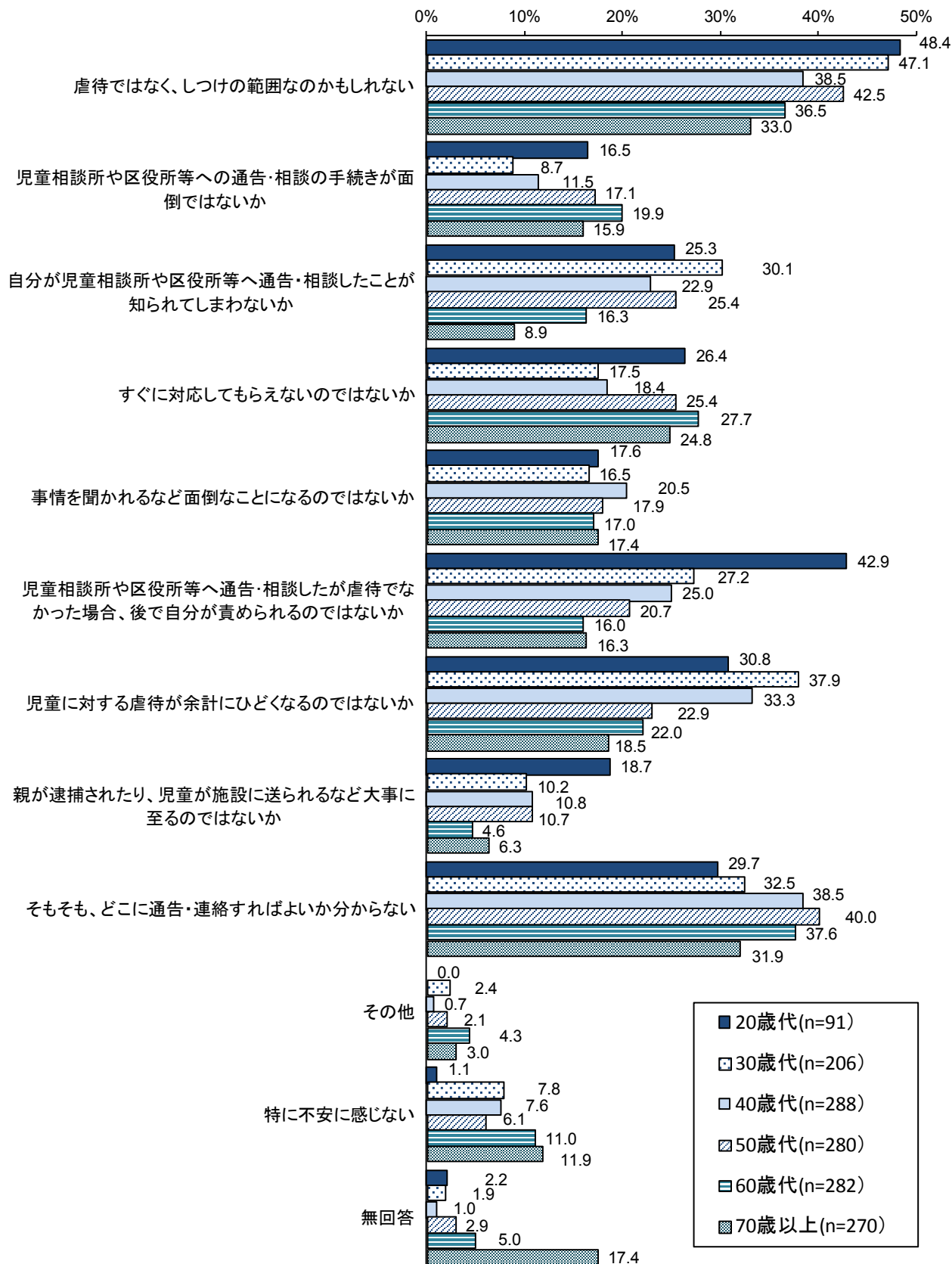
【自由回答より抜粋】

- ・真剣にむきあってくれるのか、お役所仕事の対応しかしてくれないのではないかと不安
- ・しつけは大事で、それができない人も多いので判断がむずかしい
- ・相談所に連絡もしたが本人に何かおきないかぎり動かない事を知る
- ・その子がどこのだれだかわからない。近所に夜でも外でゲームをしている子がいるのです。時々見かけますが、なぜ外にいるのか、わかりません。

「問 19 児童虐待の相談・情報提供の際にためらいや不安を感じること」（3つまで回答）－ 2

年代別に見ると、一般的に高齢層で各項目の割合が低くなる傾向にある。また、20代で「児童相談所や区役所等へ通告・相談したが虐待ではなかった場合、後で自分が責められるのではないか」の割合が他の年代に比べ特に高い。

【問 19_年代別】



「問 19 児童虐待の相談・情報提供の際にためらいや不安を感じること」（3つまで回答）－ 3

児童虐待の相談・情報提供の際にためらいや不安を感じることについて性^①と年代^②の掛け合わせで見ると、女性は60代までの各年代で「虐待ではなく、しつけの範囲なのかもしれない」の割合が同年代男性に比べて高く、男性は全ての年代で「そもそも、どこに通告・連絡すればよいか分からない」の割合が女性に比べて高い。

【問 19_性年代別】

(%)

		n=	虐待ではなく、しつけの範囲なのかもしれない	倒 児童相談所や区役所等への通告・相談の手続きが面倒ではないか	自分が児童相談所や区役所等へ通告・相談したことが知られてしまわないか	すぐに対応してもらえないのではないか	事情を聞かれるなど面倒なことになるのではないか	児童相談所や区役所等へ通告・相談したことが児童相談所や区役所等へ責められるのではないか	児童に対する虐待が余計にひどくなるのではないか	親が逮捕されたり、児童が施設に送られるなど大事に至るのではないか	い そもそも、どこに通告・連絡すればよいか分からない	その他	特に不安に感じない	無回答
全体		1,507	39.3	14.8	20.5	23.0	17.7	21.8	26.2	8.8	35.8	2.4	8.4	6.0
男性	20歳代	37	40.5	21.6	21.6	29.7	13.5	40.5	24.3	13.5	40.5	-	2.7	2.7
	30歳代	78	35.9	15.4	34.6	21.8	25.6	23.1	29.5	9.0	41.0	2.6	5.1	1.3
	40歳代	134	36.6	11.2	20.1	19.4	22.4	23.9	29.1	10.4	45.5	-	8.2	1.5
	50歳代	117	40.2	21.4	23.1	27.4	16.2	18.8	21.4	6.0	41.9	1.7	8.5	3.4
	60歳代	128	30.5	25.0	13.3	28.9	16.4	11.7	15.6	3.9	44.5	3.9	11.7	7.8
	70歳以上	118	33.9	21.2	5.9	27.1	16.9	16.1	14.4	5.9	33.9	2.5	11.9	16.1
女性	20歳代	54	53.7	13.0	27.8	24.1	20.4	44.4	35.2	22.2	22.2	-	-	1.9
	30歳代	128	53.9	4.7	27.3	14.8	10.9	29.7	43.0	10.9	27.3	2.3	9.4	2.3
	40歳代	154	40.3	11.7	25.3	17.5	18.8	26.0	37.0	11.0	32.5	1.3	7.1	0.6
	50歳代	163	44.2	14.1	27.0	23.9	19.0	22.1	23.9	14.1	38.7	2.5	4.3	2.5
	60歳代	154	41.6	15.6	18.8	26.6	17.5	19.5	27.3	5.2	31.8	4.5	10.4	2.6
	70歳以上	151	32.5	11.9	11.3	23.2	17.9	16.6	21.9	6.6	30.5	3.3	11.9	17.9

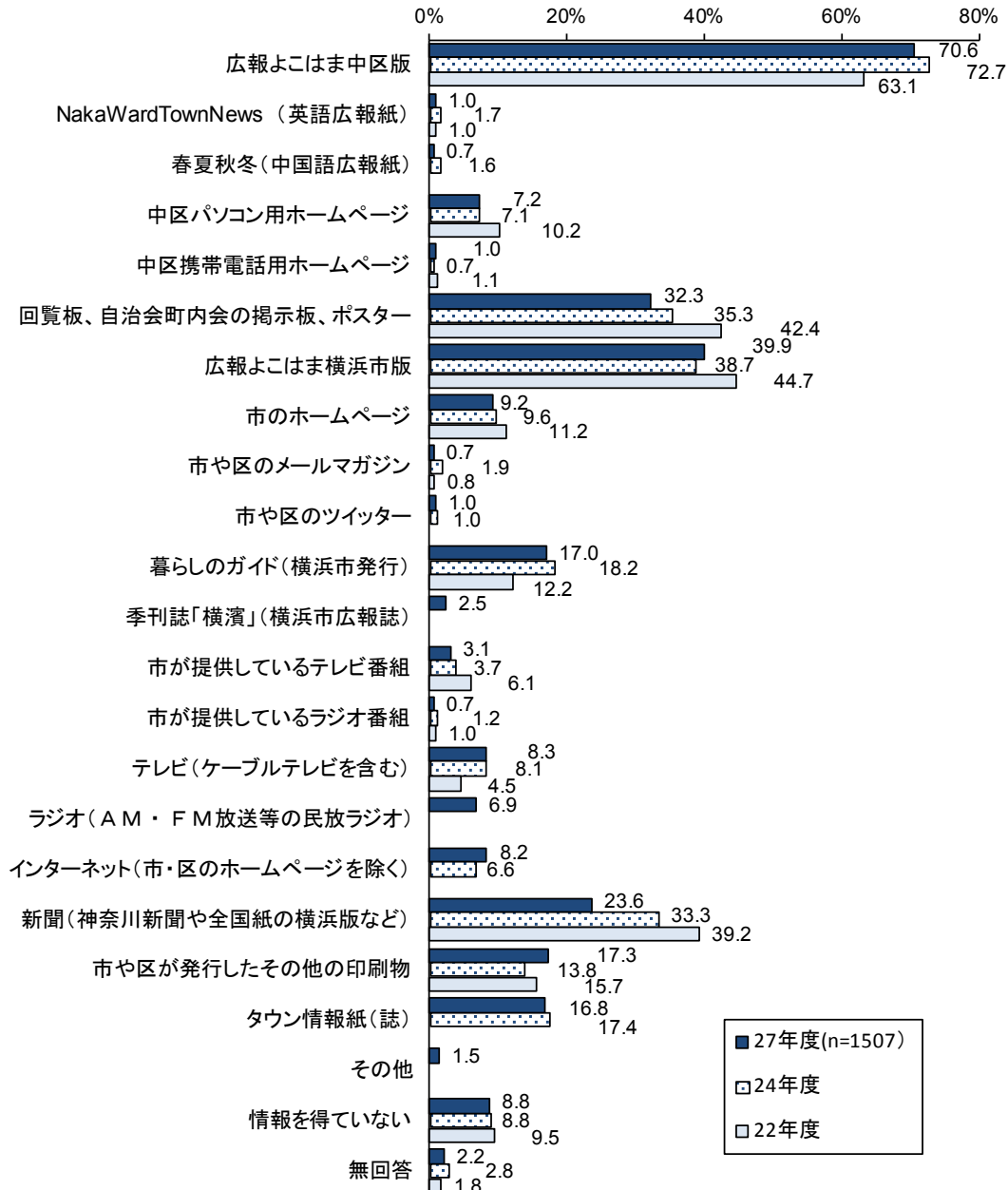
9. 「行政情報」について

「問 20 行政情報・地域情報の入手方法」(複数回答) - 1

行政情報・地域情報の入手方法については、「広報よこはま中区版」が7割超で最も多く挙げられており、次いで「広報よこはま横浜市版」「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」の順となっている。平成22年度以降「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」や「新聞」が継続して減少傾向にある。

自由回答では、周囲の人からの口コミという回答が多く見られたほか、学校からという回答なども見られた。

【問 20_経年比較】



【自由回答より抜粋】

- ・ 仕事仲間、友人より
- ・ 家族から聞く (父、母)
- ・ 学校で配布される印刷物
- ・ 友人から聞く
- ・ 市販されている本、雑誌。図書館や文化施設に置いてあるチラシ・広告。

「問 20 行政情報・地域情報の入手方法」(複数回答) - 2

年代別に見ると、年代が上がるに従って「広報よこはま」や「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」「新聞」などの割合が高くなっている。また、20歳代では、3割超が情報を得ていない。

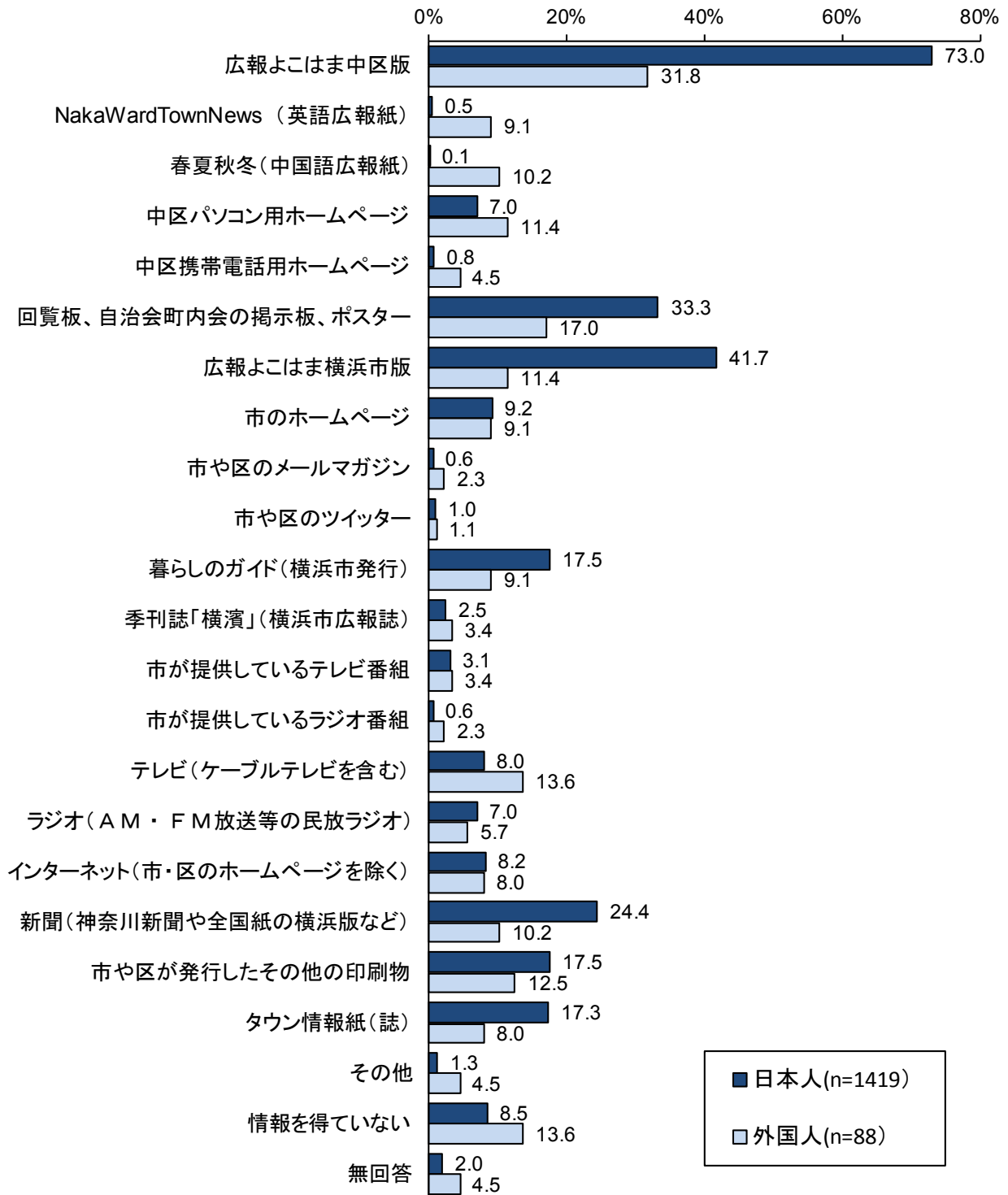
【問 20_年代別】

		広報よこはま 中区版	広報紙 Naka Ward Town News (英語)	春夏秋冬 (中国語 広報紙)	中区パソコン用 ホームページ	中区携帯電話用 ホームページ	回覧板、自治会 町内会の掲示板、 ポスター	広報よこはま 横浜市版	市のホームペー ジ	市や区のメール マガジン	市や区のツイッ ター	暮らしのガイド (横浜市発行)	季刊誌「横濱」 (横浜市広報誌)	市が提供してい るテレビ番組	市が提供してい るラジオ番組	テレビ(ケーブ ルテレビを含む)	ラジオ(A.M・ F.M放送等の 民放ラジオ)	インターネット (市・区のホー ムページを除く)	新聞(神奈川新 聞や全国紙の 横浜版など)	市や区が発行 したその他の 印刷物	タウン情報紙 (誌)	その他	情報を得てい ない	無回答
	n=																							
全体	1,507	70.6	1.0	0.7	7.2	1.0	32.3	39.9	9.2	0.7	1.0	17.0	2.5	3.1	0.7	8.3	6.9	8.2	23.6	17.3	16.8	1.5	8.8	2.2
20歳代	91	33.0	-	1.1	5.5	2.2	14.3	8.8	7.7	2.2	3.3	4.4	3.3	4.4	1.1	11.0	7.7	8.8	6.6	14.3	8.8	1.1	35.2	3.3
30歳代	206	54.9	0.5	1.9	9.7	2.9	18.9	18.4	12.1	1.9	3.4	11.7	1.0	2.9	1.0	9.7	6.3	16.0	10.7	10.2	18.9	2.4	14.6	1.0
40歳代	288	67.7	1.7	1.4	11.1	1.0	25.0	34.7	13.2	0.7	1.4	16.3	1.7	2.1	0.3	9.0	8.0	13.5	13.5	10.8	18.4	2.4	6.6	1.4
50歳代	280	75.0	1.8	0.4	9.6	0.4	31.8	41.8	12.9	-	-	15.0	1.8	2.9	-	7.5	8.6	7.5	17.9	15.7	15.7	1.8	6.8	1.8
60歳代	282	80.1	0.4	0.4	5.0	0.7	39.0	51.8	7.4	0.4	-	22.0	4.3	2.5	0.7	8.2	7.8	3.5	34.0	20.2	17.7	1.1	5.3	2.1
70歳以上	270	84.4	0.7	-	2.6	0.4	47.8	58.9	3.0	0.7	-	21.9	3.0	5.2	1.5	7.0	3.0	1.9	43.3	28.1	16.7	0.4	3.0	2.6

「問 20 行政情報・地域情報の入手方法」(複数回答) - 3

日本人/外国人別に見ると、外国人でも日本人と同様に「広報よこはま中区版」が最も多く挙げられているものの、その割合は日本人の半分以下にとどまる一方、日本人に比べ英語や中国語の広報や各ホームページ、テレビなどを多く利用している事がうかがえる。

【問 20_日本人/外国人別】



「問 20 行政情報・地域情報の入手方法」(複数回答) - 4

中区居住期間別に見ると、居住期間が長くなるに従って各種紙媒体から情報を入手する割合が高くなる傾向が見られる。

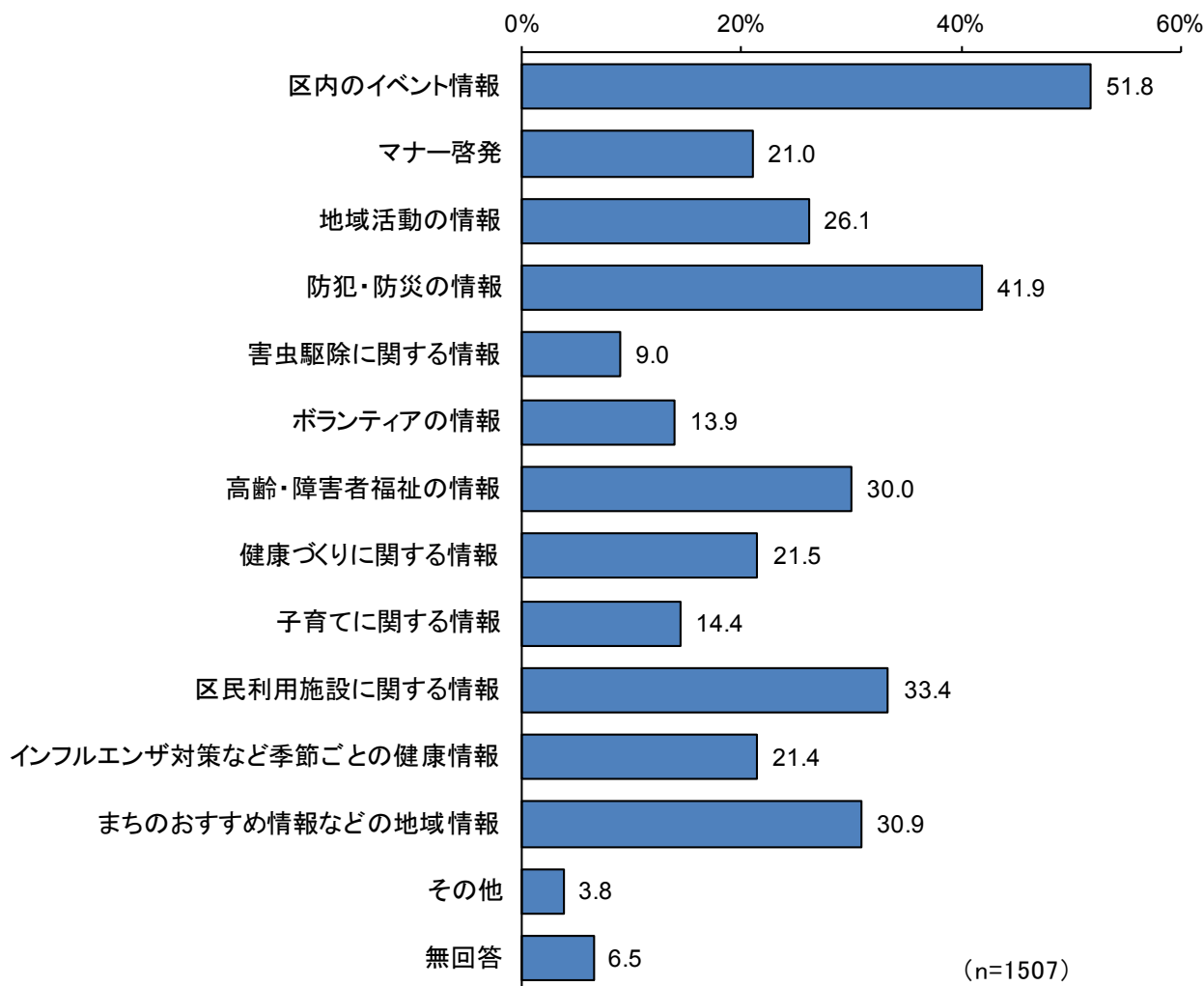
【問 20_中区居住期間別】

	n=	広報よこはま中区版	広報紙) N a k a W a r d T o w n N e w s (英語	春夏秋冬(中国語広報紙)	中区パソコン用ホームページ	中区携帯電話用ホームページ	回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター	広報よこはま横浜市版	市のホームページ	市や区のメールマガジン	市や区のツイッター	暮らしのガイド(横浜市発行)	季刊誌「横濱」(横浜市広報誌)	市が提供しているテレビ番組	市が提供しているラジオ番組	テレビ(ケーブルテレビを含む)	ラジオ(A M・F M放送等の民放ラジオ)	インターネット(市・区のホームページを除く)	新聞(神奈川新聞や全国紙の横浜版など)	市や区が発行したその他の印刷物	タウン情報紙(誌)	その他	情報を得ていない	無回答
全体	1,507	70.6	1.0	0.7	7.2	1.0	32.3	39.9	9.2	0.7	1.0	17.0	2.5	3.1	0.7	8.3	6.9	8.2	23.6	17.3	16.8	1.5	8.8	2.2
1年未満	60	51.7	1.7	1.7	10.0	1.7	10.0	15.0	11.7	-	1.7	8.3	1.7	1.7	-	8.3	8.3	10.0	10.0	11.7	16.7	1.7	18.3	-
1~3年未満	107	50.5	1.9	0.9	9.3	1.9	21.5	20.6	14.0	2.8	2.8	13.1	2.8	3.7	1.9	11.2	5.6	15.0	14.0	18.7	17.8	-	14.0	1.9
3~5年未満	106	49.1	3.8	2.8	8.5	0.9	15.1	26.4	7.5	0.9	2.8	5.7	2.8	0.9	0.9	2.8	1.9	9.4	8.5	5.7	15.1	1.9	24.5	-
5~10年未満	151	61.6	0.7	2.0	10.6	2.6	21.9	26.5	7.9	2.0	0.7	15.9	2.0	2.6	0.7	9.9	7.9	9.3	14.6	17.9	14.6	2.0	13.2	2.0
10~20年未満	314	75.8	0.3	0.6	11.5	1.0	23.9	36.0	11.8	0.3	0.3	16.2	3.2	3.2	0.3	8.3	7.0	9.9	21.0	15.9	17.5	2.2	7.0	1.3
20~30年未満	177	66.7	0.6	-	7.3	-	29.4	41.2	12.4	0.6	1.1	17.5	1.7	4.5	1.1	10.7	8.5	6.8	22.6	19.2	18.6	1.7	7.9	2.8
30年以上	492	83.5	0.8	0.2	3.0	0.8	50.0	56.9	6.7	0.4	0.6	21.7	2.4	3.3	0.6	7.7	7.1	5.5	34.6	19.7	17.5	1.2	2.8	2.2

「問 21 中区の広報やホームページで充実してほしい内容」（複数回答）－ 1

中区の広報やホームページで充実してほしい内容について尋ねたところ、「区内のイベント情報」が半数を超えて最も多く挙げられ、次いで「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」の順となっている。一方、「害虫駆除に関する情報」は今回尋ねた項目の中では最も低くなっている。

自由回答では、区政についての情報やホームページ自体の見やすさへの意見があったほか、英語・中国語・韓国語以外の外国語への対応を希望する声も寄せられた。



【自由回答より抜粋】

- ・区の行政に関する情報、施設の整備や工事の予定
- ・高齢化に伴い、最重要情報は簡潔で理解しやすいように！
- ・区として区民の為に活動した事
- ・区内カレンダー形式で分かりやすいものがあればと思います。

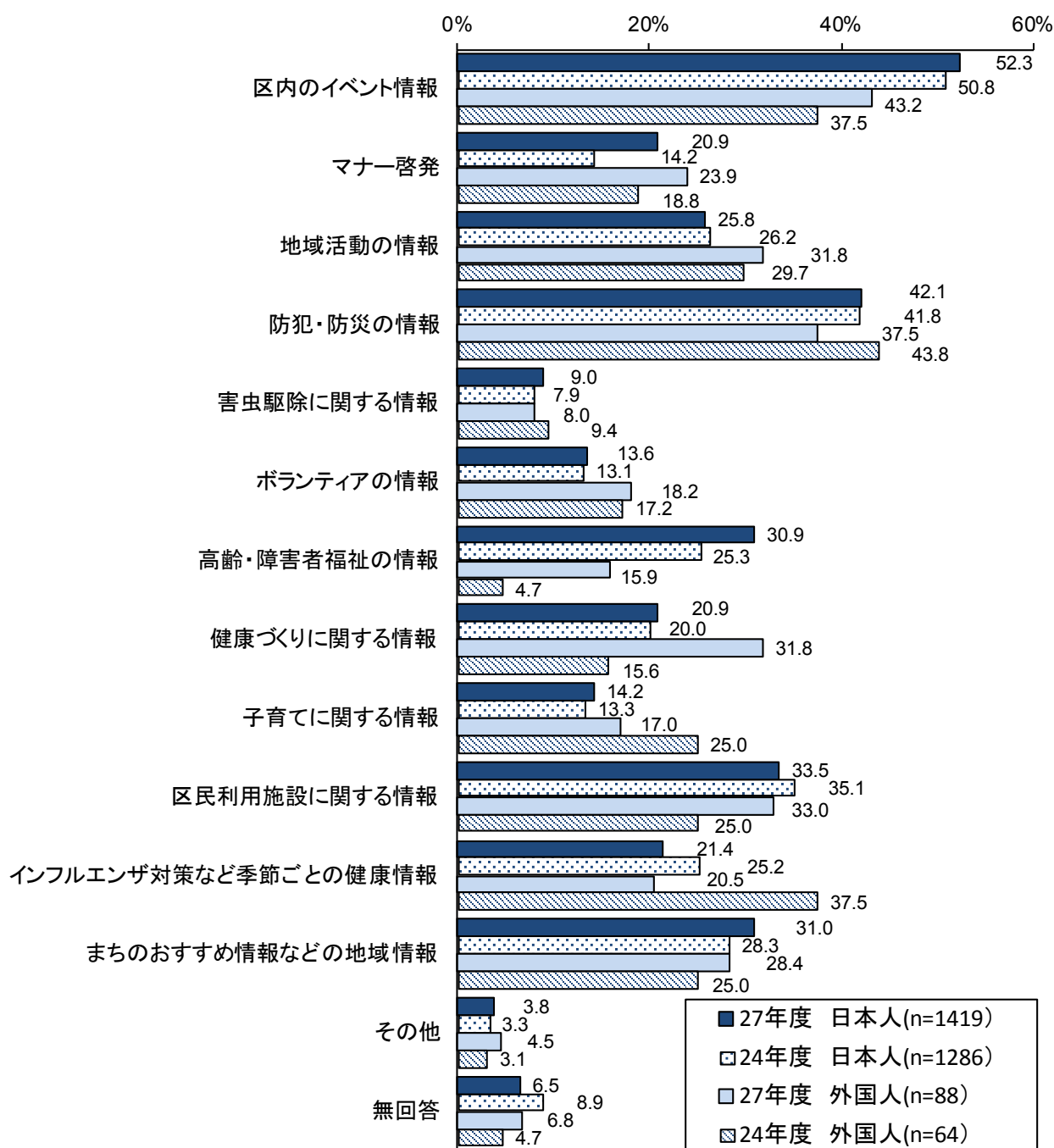
「問 21 中区の広報やホームページで充実してほしい内容」(複数回答) - 2

中区の広報やホームページで充実してほしい内容について**日本人**に尋ねたところ、全体の結果と同様に「区内のイベント情報」が最も多く挙げられ、次いで「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」の順となっている。平成 24 年度に比べ、「マナー啓発」「高齢・障害者福祉の情報」などの割合が増えている一方、「インフルエンザ対策など季節ごとの健康情報」は減っている。

同様に**外国人**に尋ねたところ、日本人と同じく「区内のイベント情報」「防犯・防災の情報」「区民利用施設に関する情報」が多く挙げられる結果となった。平成 24 年度に比べ、「健康づくりに関する情報」や「高齢・障害者福祉の情報」が大幅に増えている一方、「インフルエンザ対策など季節ごとの健康情報」は大幅に減っている。

日本人の回答と外国人の回答を比較すると、外国人は「健康づくりに関する情報」を充実してほしいという意識を日本人に比べて強く持っている事がうかがえる。

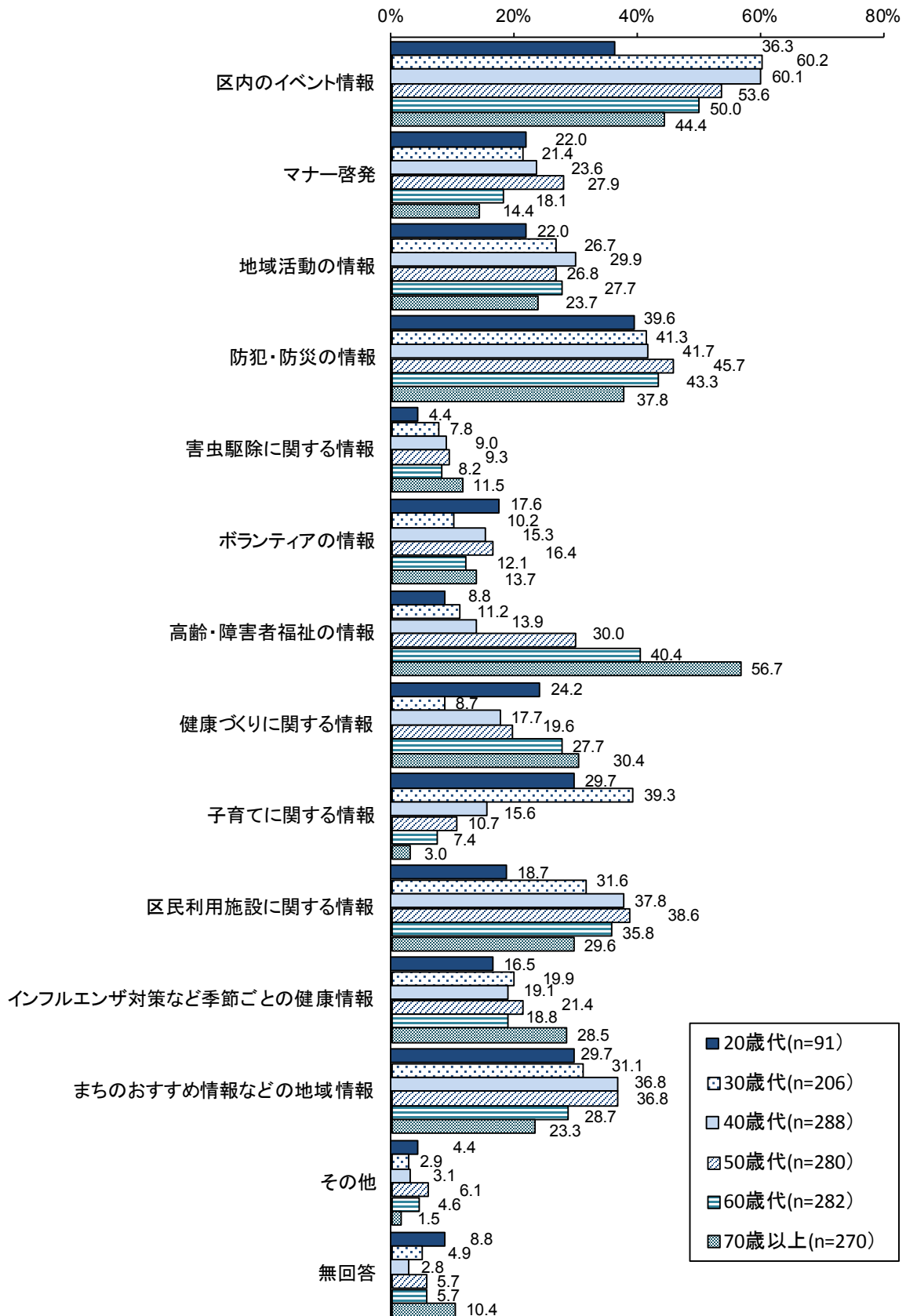
【問 21_日本人/外国人別経年比較】



「問 21 中区の広報やホームページで充実してほしい内容」(複数回答) - 3

年代別に見ると、多くの項目の割合が40～50歳代を中心に高くなっている。その一方、「高齢・障害者福祉の情報」の割合は高齢層ほど高くなるほか、「ボランティアの情報」は20歳代が各年代の中で最も高いなど、回答者自身の年代にあった情報を充実してほしいという意識もうかがえる。

【問 21_年代別】



10. 自由意見

「問 22 自由意見」

自由意見は、「交通・道路」についてのものが最も多く寄せられ、その他に「防犯・防災・消防」、「マナー・ルール」、「都市整備・開発と住宅」などについての意見も多く見られた。

大分類		件数	小分類	件数
a	交通・道路	127	総合交通対策	4
			鉄道	28
			バス	20
			道路	18
			駐車・駐輪	22
			交通安全対策	5
			その他	30
b	マナー・ルール	72	その他	72
c	ごみ・リサイクル	60	ごみ収集	19
			まちの美化	25
			粗大ごみ	2
			その他	14
d	都市整備・開発と住宅	67	土地利用	6
			公的住宅	2
			都市景観	10
			地籍調査	2
			その他	47
e	福祉	60	高齢者福祉	17
			障害者福祉	5
			生活保護・援護対策	7
			バリアフリーの推進	19
			福祉相談体制	1
			その他	11
f	公害・環境保全・緑	45	環境汚染	6
			騒音振動	6
			環境保全対策	1
			緑地保全・緑化推進	16
			野生動物対策	11
			その他の公害	1
			その他	4
g	子育て	34	子育て支援	9
			保育園	12
			幼稚園	3
			放課後児童育成	1
			子育て助成・給付	4
			その他	5
h	保健・衛生・医療	10	保健	1
			衛生	3
			医療	6
i	市民交流・地域イベント	41	その他	41

「問 2 2 自由意見」(続き)

j	市民利用施設	44	公園	13
			スポーツ施設	7
			公会堂・地区センター	1
			コミュニティハウス	1
			図書館	7
			文化施設	2
			その他の市民利用施設	13
k	防犯・防災・消防	73	防犯	16
			防災・消防	13
			その他	44
l	都市経営・運営	28	行政改革・組織	2
			財政	3
			国際交流・国際協力	1
			その他	22
m	経済・産業	25	産業振興	6
			労働・雇用	9
			消費生活	1
			その他	9
n	戸籍・税金・保険年金	12	税金	8
			その他	4
o	職員(教職員を除く)	14	市民対応	12
			人事	1
			その他	1
p	広報・広聴・市民相談・情報公開	12	広報・広聴・市民相談	5
			情報公開	7
q	港湾・河川	9	港湾	3
			河川	6
r	市民活動	11	市民活動・生涯学習	1
			自治会・町内会	10
s	教育	16	教育内容	2
			学校施設	1
			その他	13
t	観光・シティセールス	19	観光	10
			シティセールス	6
			その他	3
u	人権・男女共同参画	4	その他	4
v	その他	62	その他	62

* 記入があった調査票の件数は529件。テーマ分類は横浜市の「市民の声」の大分類に「マナー・ルール」と「市民交流・地域イベント」を追加して各意見を振り分けています。複数の分類にまたがる意見が記載されている場合は、それぞれのテーマ分類ごとにカウントしています。

横浜市中区区民意識調査報告書

平成28年3月発行

発行：横浜市中区区政推進課

〒231-0021 横浜市中区日本大通35番地

電話 (045) 224-8127

FAX (045) 224-8214